

# BladeSymphony SP ソフトウェアガイド

**HITACHI**

マニュアルはよく読み、保管してください。  
操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。  
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

2009 年 1 月（第 4 版）

## 重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願ひいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- この製品には、RSA Data Security からライセンスを受けたコードが含まれています。

## 登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は Intel Corporation の登録商標および商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

## 版権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2008, 2009, All rights reserved.

# はじめに

はじめに

このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルは、

Microsoft® Windows Server® 2008

Microsoft® Windows Server® 2003 R2

の使い方およびインストールについて記載しています。

## マニュアルの表記

### □ マークについて

マニュアル中で使用している、マークの意味を説明します。



人身の安全や装置の重大な損害と直接関係しない注意書きを示します。



システム装置を活用するためのアドバイスを示します

補足

### □ オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

また、Service Pack については SP と省略して記載します。

- Microsoft® Windows Server® 2008, Standard 32-bit 日本語版  
(以下 Windows Server 2008, Standard 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard Edition)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2008	・ Windows Server 2008, Standard
Windows Server 2003 R2	・ Windows Server 2003 R2, Standard Edition

## 本書の内容

- インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (HDD レスサーバブレード) Windows Server 2008 編
- インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (HDD レスサーバブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編
- インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (管理サーバブレード) Windows Server 2008 編
- インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (管理サーバブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編

各サーバブレードについて、初めて電源を入れて動かせるようになるまでを説明しています。また、ソフトウェアの使い方や、セットアップ方法についても説明しています。

## お問い合わせ先

Windows Server 2008/2003に関するインストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償サポートとなります。

詳細は、次で紹介しています。

- ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>
- メールアドレス supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp

# 目次

目次

重要なお知らせ	iii
登録商標・商標について	iii
版権について	iii
<b>はじめに</b>	<b>iv</b>
マニュアルの表記	iv
本書の内容	v
お問い合わせ先	v
<b>目次</b>	<b>vi</b>
<b>マニュアルの使いかた</b>	<b>x</b>
<b>1 インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (HDD レスサーバブレード) Windows Server 2008 (32 ビット) 編</b>	<b>1</b>
電源を入れる・切る	2
はじめて電源をいれる	2
OS 修正モジュール	3
OS 修正モジュールのバックアップ (Windows インストール済みモデルのみ)	4
電源を切る	4
日常電源を入れる	5
システム装置を立ち上げ直す (リセット)	7
アプリケーションを強制的に終了する	7
システム装置を強制的に立ち上げ直す	7
Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法	8
ヘルプの使いかた	8
付属ソフトウェアの使いかた	10
JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent	10
ハードウェア保守エージェント	10
ソフトウェアの使用について	11
Windows Server 2008 の制限	11
Windows Server 2008 のセットアップ	23
セットアップ方法について	24
BIOS 設定の確認	25
OS のセットアップ	26
ドライバ／ユーティリティのセットアップ	33

## 2 インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (HDD レスサーバブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編 ..... 57

電源を入れる／切る .....	58
はじめて電源を入れる .....	58
OS 修正モジュール .....	59
電源を切る .....	60
日常、電源を入れる .....	61
システム装置を立ち上げ直す（リセット） .....	62
アプリケーションを強制的に終了する .....	62
システム装置を強制的に立ち上げ直す .....	62
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作／設定変更方法 ....	63
[コントロールパネル] を表示する .....	63
ヘルプの使い方 .....	64
[画面のプロパティ] の使い方 .....	64
付属ソフトウェアの使い方 .....	65
JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent .....	65
ハードウェア保守エージェント .....	65
ソフトウェアの使用について .....	66
Windows Server 2003 R2 SP2 (32 ビット) 使用上の制限 .....	66
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ .....	79
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの流れ .....	79
BIOS 設定の確認 .....	80
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの詳細 .....	80

## 3 インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (管理サーバブレード) Windows Server 2008 (32 ビット) 編 ..... 129

電源を入れる・切る .....	130
はじめて電源をいれる .....	130
OS 修正モジュール .....	131
OS 修正モジュールのバックアップ (Windows プレインストールモデルのみ) .....	132
電源を切る .....	132
日常電源を入れる .....	133
システム装置を立ち上げ直す（リセット） .....	135
アプリケーションを強制的に終了する .....	135
システム装置を強制的に立ち上げ直す .....	135
Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法 .....	136
ヘルプの使いかた .....	136
付属ソフトウェアの使いかた .....	138

JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent .....	138
MegaRAID Storage Manager .....	138
ハードウェア保守エージェント .....	138
<b>ソフトウェアの使用について .....</b>	<b>140</b>
Windows Server 2008 の制限 .....	140
<b>Windows Server 2008 のセットアップ .....</b>	<b>150</b>
セットアップ方法について .....	151
OS のセットアップ .....	153
ドライバ/ユーティリティのセットアップ .....	162
<b>4 インテル (R) Xeon(R) プロセッサ搭載サーバブレード (管理サーバブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編 .....</b>	<b>171</b>
<b>電源を入れる/切る .....</b>	<b>172</b>
はじめて電源を入れる .....	172
OS 修正モジュール .....	175
OS 修正モジュールのバックアップ (Windows プレインストールモデルのみ) .....	175
電源を切る .....	176
日常、電源を入れる .....	177
<b>システム装置を立ち上げ直す (リセット) .....</b>	<b>178</b>
アプリケーションを強制的に終了する .....	178
システム装置を強制的に立ち上げ直す .....	178
<b>Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作/設定変更方法 ..</b>	<b>179</b>
[コントロールパネル] を表示する .....	179
ヘルプの使い方 .....	180
[画面のプロパティ] の使い方 .....	180
<b>付属ソフトウェアの使い方 .....</b>	<b>181</b>
JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent .....	181
MegaRAID Storage Manager .....	181
ハードウェア保守エージェント .....	182
<b>ソフトウェアの使用について .....</b>	<b>183</b>
Windows Server 2003 SP2/R2 SP2 (32 ビット) 使用上の制限 .....	183
<b>Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ .....</b>	<b>194</b>
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの流れ .....	194
BIOS の設定を初期化する .....	195
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの詳細 .....	195
<b>5 付録 .....</b>	<b>221</b>
<b>索引 .....</b>	<b>222</b>

# 安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

## 注意

これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



### 【表記例 1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



### 【表記例 2】分解禁止

○の図記号は行ってはいけないことを示し、○の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



### 【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

## 安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

## 操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

## 自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

# マニュアルの使いかた

システム装置に添付されるマニュアルや、『ユーザーズガイド』CD-ROMに含まれる電子マニュアルの使い方については、『ユーザーズガイド』をご参照ください。

# インテル (R) Xeon(R) プロセッサ 搭載サーバーブレード (HDD レスサーバーブレード) Windows Server 2008 (32 ビット) 編

この章では、Windows Server 2008 の操作やセットアップについて説明します。

電源を入れる・切る.....	2
システム装置を立ち上げ直す（リセット）.....	7
Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法.....	8
付属ソフトウェアの使いかた .....	10
ソフトウェアの使用について .....	11
Windows Server 2008 のセットアップ .....	23

# 電源を入れる・切る

ここでは、システム装置に電源を入れ OS を起動する方法と、OS をシャットダウンしてシステム装置の電源を切る方法、アプリケーションやシステム装置の強制終了について説明します。

なお、システム装置の電源の操作については『ユーザーズガイド』「電源を入れる / 切る」もご参照ください。

## はじめて電源をいれる

インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレードは、ディスプレイやキーボード、マウスなどのデバイスは接続されません。基本的な操作は、リモートコンソールアプリケーションによりネットワーク経由で行います。Windows の起動後は、リモートデスクトップ接続で操作することも可能です。

Windows インストール済みモデルをご購入いただいた場合、はじめて電源を入れるときは、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードに接続して作業を行ってください。リモートコンソールへの接続方法、及びリモートコンソールアプリケーションについての詳細は、「リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド」を参照してください。

OS なしサーバーブレードをご購入され、Windows をセットアップする場合は、『Windows Server 2008 のセットアップ』P.23 をご参照ください。

### 補足

- 使用許諾契約とは  
使用許諾とは、Windows を使用することを許諾するものです。使用許諾契約に同意すると、次回から使用許諾契約の画面は表示されません。再セットアップするときも同意が必要です。
- 設定手順の表示項目について  
以下の手順は、お客様がインストール済みモデルでの工場設定値を何もご指定いただいている場合について記載しております。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されないあるいは、表示されても入力済みとなっているものがあります。

## □ 電源を入れる

### 1 リモートコンソールでサーバーブレードに接続する準備を行います。

リモートコンソール接続についての詳細は、『リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

## 2 サーバブレードの電源を入れます。



電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからシステム装置の電源を入れてください。また、電源を切るときには、システム装置の電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

これ以降、操作を間違えたときは、画面の [戻る] ボタンもしくは ←ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

### 3 リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。。

しばらくすると [ライセンス条項をお読みください] が表示される。

### 4 内容を確認し問題なければ [ライセンス条項に同意します] をチェックし [次へ] ボタンをクリックします。

[ありがとうございます] と表示されます。

### 5 [開始] ボタンをクリックします。

[ユーザは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません] と表示されます。

### 6 [OK] ボタンをクリックし、「新しいパスワードおよびパスワードの確認入力」を入力します。

[SystemInstaller 構成マネージャ] が起動します。

### 7 [SystemInstaller 構成マネージャ] から必要となるコンポーネントをインストールします。

詳細については、『[SystemInstaller] によるセットアップ』P.33 をご参照ください。

### 8 使用する環境に合わせて設定を行います。

### 9 必要に応じて、残りパーティションを設定します。

詳細については、Windows Server 2008 のヘルプをご参照ください。

## OS 修正モジュール

OS の修正パッチ、ドライバ、ファームの入手、及び最新情報は、以下の Web サイトで発信しています。また、情報は適時更新されておりますので、定期的な確認をお願いいたします。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony>

[サポート] ページの "ダウンロード" を参照してください。

# OS 修正モジュールのバックアップ (Windows インストール済みモデルのみ )

Windows インストール済みモデルをご購入いただいたお客様は、OS の修正モジュールが適用されており、このバックアップデータがハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\¥HITACHI¥QFE

セキュリティパッチは、必要に応じ最新のものを Windows Update サイト等から入手してください。

## 電源を切る

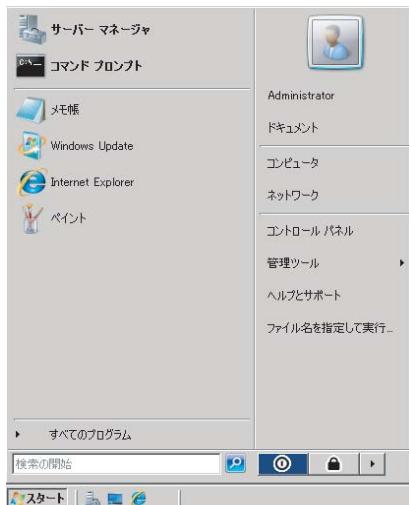
通常は、次の方法でシステム装置の作業を終了して電源を切ります。

### 注意

いきなり POWER スイッチを押して電源を切らないでください。データが壊れたり、Windows が起動しなくなる場合があります。

シャットダウンを行って電源を切ってください。

1 [スタート] ボタンをクリックし、① をクリックします。



[Windows のシャットダウン] が表示されます

**2 「シャットダウンイベントの追跡ツール」でシャットダウンの理由を選択します。**



●●●  
補足

シャットダウンの理由が「その他」の場合は、「説明」を記述する必要があります。

**3 [OK] ボタンをクリックします。**

システム装置の電源が切れます。

**4 ディスプレイなどの周辺機器の電源を切ります。**

## 日常電源を入れる

電源を入れる手順について説明します。

●●●  
補足

セットアップ終了以降は、電源を入れるとすぐにシステム装置を使えます。

**1 ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。**

**2 システム装置前面の POWER スイッチを押します。**

【ログオンの開始】画面が表示されます。

●●●  
補足

リモートコンソールで該当サーバーブレードに接続し、電源を入れることも可能です。

ディスプレイの機種によっては、表示されるまで時間がかかることがあります。

システム装置は電源が入ったあと、POSTを行います。システム装置によっては【ログオンの開始】画面が表示されるまで 10 分近くかかることがあります。

- 3** [Ctrl] キーと [Alt] キーとを押したまま [Delete] キーを押します。  
[ログオン情報] 画面が表示されます。

•••  
補足

リモートコンソールで接続している場合、[Alt] キーを押したまま [L] キーを押します。

- 4** ユーザー名とパスワードを入力して [Enter] キーを押します。  
Windows が起動し、デスクトップ画面が表示されます。

# システム装置を立ち上げ直す (リセット)

アプリケーションの処理中にシステム装置が動作しなくなった時に、アプリケーションを強制的に終了したり、システム装置を強制的に立ち上げ直したり(リセット)すると、正常に動作するようになることがあります。

## アプリケーションを強制的に終了する

タスクバーをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの【タスクマネージャ】をクリックします。【アプリケーション】タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、【タスクの終了】ボタンをクリックします。

## システム装置を強制的に立ち上げ直す

Windows が正常に動作しなくなった場合には、POWER スイッチを 4 秒以上押して電源を切ってください。ただし、HDD をフォーマットし直さなければシステム装置が使用できなくなる場合があります。



電源を入れた後、Windows が立ち上がるまでは非常時を除いて POWER スイッチを押さないでください。リセットした場合は、一度 Windows を立ち上げて正しく終了してから、立ち上げ直してください。

# Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法

Windows Server 2008 の基本的な操作を説明します。

## ヘルプの使いかた

Windows の操作についてはヘルプをご参照ください。Windows には、使用方法について書かれているヘルプが用意されています。

### □ [ヘルプとサポート] を立ち上げる

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート] をクリックします。  
[Windows ヘルプとサポートセンター] が立ち上がりります。

…  
補足

初回起動時に [ヘルプを検索するときに最近のヘルプコンテンツを取得しますか?] というポップアップが表示される場合があります。「はい」を選択した場合インターネットに接続されたときに、最新のコンテンツを Windows オンラインヘルプから取得します。状況に応じ適切に選択してください。

初回設定後もしくは初回起動時に表示されなかった場合は、[オプション] – [設定] から設定を変更することができます。

## □ 知りたい操作を調べる

- 1** 知りたい操作が書かれているトピックを探します。[Windows ヘルプとサポート] 画面上にあるボックスに目的のトピックに関連したキーワードを入力し、 ボタンをクリックします。

検索が始まり、しばらくすると検索結果が表示されます。



- 2** 目的のトピックが見つかったらクリックします。

トピックが表示されます。

- 3** ヘルプの本文を読みます。

ヘルプは次のとおり操作します。

-  ボタン : 直前に表示していたウィンドウに戻ります。
- [オプション] ボタン : 表示する文字の大きさを変更したり、検索オプションの変更が行えます。

- 4** ヘルプを終了するには、ウィンドウの右上にある [×] (クローズ) ボタンをクリックします。

# 付属ソフトウェアの使いかた

このシステム装置に付属しているソフトウェアについて説明します。

## JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent

JP1/ServerConductor/Agent は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。

また JP1/ServerConductor/Advanced Agent は、電源制御など JP1/ServerConductor/Agent の拡張機能を使用するためのソフトウェアです。

インストールすることで、システム装置を効率よく管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使い方の詳細は『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM の次のファイルを開き、『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド』をご参照ください。

d:\Manual.htm

補足

画面やマニュアルに「ServerConductor/Agent」という表記がある場合、「JP1/ServerConductor/Agent」と読み替えてご使用ください。

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ハードウェア保守エージェント』CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf

ハードウェア保守エージェントの Windows Server 2008 のサポートは、Ver.07-02 以降で行われています。

お手持ちのハードウェア保守エージェントのバージョンがVer.07-01以前の場合には、上記『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』中の「アップデート手順」を参照して、最新版の入手・適用をお願い致します。

# ソフトウェアの使用について

ここでは、Windows Server 2008 を使用するときの制限について説明します。

## Windows Server 2008 の制限

### □ Server Core について

Server Core インストールはサポートしておりません。インストールしないでください。

### □ Hyper-V

本装置は Hyper-V の仮想化機能をサポートしておりません。

ベータ版の Hyper-V モジュールを含む Windows Server のインストールメディアを使用する場合は、Hyper-V 製品版モジュールを入手し適用する必要があります。Hyper-V は Windows Server2008(64bit) でのみ動作しますが、管理ツール (Hyper-V マネージャ) が Windows Server 2008 (32bit) にも含まれるため、製品版モジュールとしては 32bit 用も存在します。

Windows Server 2008 インストール済みモデルを購入された場合、お手持ちの「サーバインストール DVD-ROM」の以下のフォルダ内に Hyper-V 製品版のモジュールが格納されていますので、適用してください。

\*D: は DVD-ROM ドライブ

D:\HITACHI\WINDOWS6.0-KB950050-X86.MSU

一般に市販されている OS メディアで Hyper-V 管理ツール (Hyper-V マネージャ) をご使用になる場合は下記 web より製品版を入手して適用ください。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=6F69D661-5B91-4E5E-A6C0-210E629E1C42>

### 補足

Windows Server 2008 インストール済みモデルは、この製品版モジュールを適用済みの状態で出荷しています。

### □ Windows のシャットダウン

Windows の起動時にスタートするよう登録されたサービスが完全に起動する前にシャットダウンを行うと、正常にシャットダウンできない場合があります。Windows を起動してから 1 分以上時間をあけてください。

## □ Active Directory を使用する場合

日本語ロケール環境で Active Directory を使用または使用する計画がある場合は、次のマイクロソフト社ホームページをご参照いただき、修正プログラムを適用の上ご使用ください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/updateinfo.mspx>

●●●  
補足

Windows Server 2008 インストール済みモデルは、この修正プログラムを適用済みの状態で出荷しています。

## □ 「コンピュータを修復する」について

HDD レスサーバーブレード (iSCSI ブート環境) で、Windows Recovery Environment (以下、Windows RE) を起動する必要があるときは、常に以下の手順で起動してください。

●●●  
補足

「セットアップ手順」P.27 の手順 4 の画面にて、「コンピュータを修復する」をクリックして、Windows RE を起動しても、iSCSI のディスクを参照することはできません。

**1** [インストールするオペレーティングシステムを選択] ウィンドウで [Shift] キーを押しながら [F10] キーを押します。

コマンドプロンプトが表示されます。

**2** 表示されたコマンドプロンプトで次のようにコマンドを入力し、"recenv.exe" を実行します。

```
> cd /d %SystemDrive%¥source¥recovery  
> RecEnv.exe
```

**3** Windows RE が起動します。

## □ ディスクへの通信障害発生時の対応

ブートディスクへのパスが通信不良等で切断され、正副何れかのパスのみでの運用となった場合、通信の回復処理を行い、正副両方のパスで通信が行える状態にしてください。

●●●  
補足

- 通信不良が発生すると システムイベントログに、iSCSIprt のエラーイベントが記録されます。
- KB961570 の HotFix (修正プログラム) を、インストールしていない状態では、通信の回復処理を行っても、正常に回復しない場合があります。

## □ iSCSI 用 HotFix (修正プログラム) のインストール

KB961570 の HotFix (修正プログラム) のインストールを必ず行ってください。

インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。

…  
補足

Windows インストール済みモデルをご購入いただいたお客様は、本 HotFix がインストールされています。また、バックアップとしてハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\HITACHI\QFE

それ以外のお客様は「OS 修正モジュール」にて記載しました、弊社サイトにて入手方法を紹介しております。

## □ iSCSI 制限事項

Windows Server 2008 の、iSCSI ソフトウェアインシエータ環境では、下記の制限があります。

- iSCSI 環境にて MPIO を使用する場合は、KB961570 の HotFix(修正プログラム)のインストールが必須です。  
インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。
- ダイナミックディスクボリュームは、サポートされません。  
システム起動時に、ダイナミックディスクボリュームが有効にならないことがあります。
- iSCSI 接続の NIC Teaming はサポートされません。  
NIC Teaming は iSCSI 接続を行っている LAN インタフェース (NIC) では、サポートされません。  
外部接続用の LAN インタフェースでのみ使用可能です。  
なお、プローブが有効の場合、チームの切り替わりが多発するため、プローブを無効にしてご使用ください。
- セーフモードで起動する場合は、"セーフモードとネットワーク" を選択してください。  
iSCSI 環境ではネットワークが動作することが前提となります。

## □ バックアップ

Windows Server バックアップでは、テープ装置にバックアップを取得することができません。テープ装置にバックアップを取得する場合は、バックアップソフトウェアを別途ご購入ください。  
また、Windows Server バックアップのDVDメディアへのバックアップはサポートしておりません。

## □ 画面表示

タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると正しく表示されます。

使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウィンドウの裏側に隠れて見えないことがあります。

表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了させてから実行してください。終了せず実行した場合、アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正しく表示されます。

ディスプレイによっては、正しく表示できないリフレッシュレートがあります。リフレッシュレートを変更する場合は、正しく表示できることをご確認ください。

動画ファイルを再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行ってください。

## □ 節電機能

電源オプションの [スリープ] [ハイブリットスリープ] [休止状態] はサポートしておりません。設定しないでください。

また、電源オプションは [ディスプレイの電源を切る] の時間以外の設定を変更しないでください。

いずれも正しく動作しないおそれがあります。

## □ システムが停止したときの回復動作の設定

システムエラー時、自動的にシステムが再起動しないように設定することをお勧めします。

- 1 [スタート] - [管理ツール] - [サーバーマネージャ] をクリックし、[サーバーマネージャ] を開きます。
- 2 [システムプロパティの変更] をクリックし [システムのプロパティ] を開きます。
- 3 [詳細設定] タブの [起動と回復] の [設定] ボタンをクリックし、[起動と回復] を開きます。
- 4 [自動的に再起動する] チェックボックスを外し、[OK] ボタンをクリックします。

## □ 2GB を超える物理メモリで完全メモリダンプを採取する方法

2GB を超えるメモリを搭載したシステム装置に Windows をセットアップした場合、[起動と回復] の [デバッグ情報の書き込み] で [完全メモリダンプ] は選択できません。2GB を超える物理メモリー環境で [完全メモリダンプ] を採取する場合、次の手順を行ってください。ただし、[デバッグ情報の書き込み] のリスト上は [完全メモリダンプ] とは表示されません。

詳細については次をご参照ください。(対象の OS に Windows Server 2008 について記載されていませんが、Windows Server 2003 を Windows Server 2008 に置き換えてお読みください)

<http://support.microsoft.com/kb/274598/ja>

- 1 CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM を入れます。
- 2 [スタート] メニューー [ファイル名を指定して実行] を選び、ファイル名に "d:\Win2008\Tools\Dump\PMDE.BAT" と入力し [OK] ボタンをクリックします。
- 3 次のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。  
"完全メモリダンプを採取する設定に変更します。  
続行するには、何れかのキーを押してください。  
中止するには、Ctrl + C を押してください。"
- 4 仮想メモリのサイズを設定します。詳細は次をご参照ください。  
→ 「[「仮想メモリ」 サイズの設定](#)」 P.15

手順 2 を実行後、[起動と回復] の設定を立ち上げ、[OK] ボタンをクリックすると、[デバッグ情報の書き込み] で選択されているダンプ形式に変更されてしまいます。[OK] ボタンをクリックしてしまった場合は、手順 2 を実行してください。

## □ メモリダンプファイル作成の制限

ブートディスクのプライマリバスに障害が発生し、接続が切れている場合、メモリダンプファイルは作成されません。

## □ 「仮想メモリ」 サイズの設定

完全メモリダンプを取得する設定でご使用になる場合、「仮想メモリ」のファイルサイズは物理メモリの容量より大きく設定してください。「仮想メモリ」のファイルサイズを物理メモリよりも小さく設定しようとすると、「ページングファイルを無効にするか、初期サイズが xxxMB よりも小さく設定するかして、システムエラーが発生する場合、問題を識別するために役立つ詳細情報を記録できない可能性があります。続行しますか？」という警告メッセージが表示されます。この「xxx MB」に設定すると正しく完全メモリダンプが取得されないことがありますので、[xxx+300] MB 以上の大きさにファイルサイズを設定してください。

また、カーネルメモリダンプを取得する設定でご使用になる場合も、「仮想メモリ」のサイズが十分でない場合正しくカーネルメモリダンプが取得されない] 場合があります。詳細は次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/949052>

- 1 [スタート] – [管理ツール] – [サーバーマネージャ] をクリックし [サーバーマネージャ] を開きます。
- 2 [システムプロパティの変更] をクリックし [システムのプロパティ] を開きます。
- 3 [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックし [パフォーマンスオプション] を開きます。
- 4 [詳細設定] タブの [仮想メモリ] の [設定] ボタンをクリックし [仮想メモリ] を開きます。
- 5 [すべてのドライブページングファイルのサイズを自動的に管理する] チェックボックスを外します。
- 6 [カスタムサイズ] を選択し、[初期サイズ] と [最大サイズ] に [xxx+300] MB 以上の値を入力します。

...  
補足

[最大サイズ] は [初期サイズ] 以上である必要があります。

7 システム装置を再起動します。

## □ PAE : Physical Address Extension について

Windows Server 2008 32bit 版における PAE はすべてのモデルにおいて有効に設定されます。  
PAE の概要については、マイクロソフト社ホームページから“PAE”を検索してご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan>

## □ イベントビューア

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 63

イベント ソース : Microsoft-Windows-WMI

イベント レベル : 警告

説明 : プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root\cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 263

イベント ソース : PlugPlayManager

イベント レベル : 警告

説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイスイベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 15016

イベント ソース : Microsoft-Windows-HttpEvent

イベント レベル : エラー

説明 : サーバ側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データフィールドにはエラー番号が格納されています。

このイベントは無視しても問題ありません。

次のエラー内容がシステムイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 5

イベント ソース : Storflt

イベント レベル : 警告

説明 : The Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry. It is inactive for all disk drives.

Hyper-V が動作していない環境では、このイベントは無視しても問題ありません。 詳細は次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/951007>

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 10009

イベント ソース : DistributedCOM

イベント レベル : エラー

説明 : 構成されているどのプロトコルを使っても、DCOM がコンピュータ -ilc と通信できませんでした。

OS のセットアップ直後にこのイベントが記録された場合は問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 7026

イベント ソース : Service Control Manager Eventlog provider

イベント レベル : エラー

説明 : 次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込めませんでした : cdrom

CD-ROM または DVD-ROM ドライブが接続されていない環境で記録されるのであれば、このイベントは無視しても問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 10

ソース : VDS Dynamic Provider

イベント レベル : エラー

説明 : ドライバからの格納中にプロバイダが失敗しました。

仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。 Hr=xxxxxxxx

必要な場合は次を参照し、Virtual Disk サービスを再起動してください。

<http://support.microsoft.com/kb/951007>

OS 起動時に次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID : 49

イベント ソース : volmgr

イベント レベル : エラー

説明 : クラッシュダンプのページングファイルの構成に失敗しました。

ブートパーティションにページングファイルがあり、ページングファイルの大きさがすべての物理メモリを含むのに十分であることを確認してください。

Windows が推奨するページファイルのサイズは、搭載した物理メモリ量に応じて変化しますが、C: ドライブのサイズや空き容量により推奨サイズが確保できない場合に本イベントが記録されます。通常の OS 動作に問題はありませんが、完全メモリダンプは採取できません。

大容量の物理メモリを搭載する場合は事前に C: ドライブのサイズを大きめに設定することをお勧めします。

次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 7030

イベント ソース: Service Control Manager Eventlog provider

イベント レベル: エラー

説明: RAID Monitor サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない場合があります。

このイベントは無視しても問題ありません。

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 1008

イベント ソース: Microsoft-Windows-Dhcp-Client

イベント レベル: エラー

説明: システムに接続されたネットワーク インターフェイスを初期化できませんでした。  
エラー コード: 指定されたファイルが見つかりません。

iSCSI ブート環境において、OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

OS 起動時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 5

イベント ソース: iScsiPrt

イベント レベル: エラー

説明: イニシエータ ポータルのセットアップに失敗しました。ダンプ データにエラー状態が示されています。

iSCSI ブート環境において、OS 起動時に NIC のリンクアップイベントと共に記録されるのであれば問題ありません。

OS 起動時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 45

イベント ソース: volmgr

イベント レベル: エラー

説明: システムは、正常にクラッシュ ダンプ ドライバを読み込めませんでした。

iSCSI ブート環境において、クラッシュダンプドライバを 設定していないときに記録されます。

クラッシュダンプドライバを設定して記録されなければ、問題ありません。

次のように、説明が正しく表示されないイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 129

イベント ソース: iScsiPrt

イベント レベル: 警告

説明：ソース "iScsiPrt" からのイベント ID129 の説明が見つかりません。

このイベントを発生させるコンポーネントがローカルコンピュータにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカルコンピュータにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。イベントが別のコンピュータから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。イベントには次の情報が含まれます：

¥Device¥ScsiPort0 メッセージリソースは存在しますが、メッセージが文字列テーブル / メッセージテーブルに見つかりません。

iSCSI 環境において、LAN ケーブルが抜けた場合などに記録されるイベントです。次のように読み替えてください。

「デバイス ¥Device¥ScsiPort0、タイムアウト時間内に応答しませんでした」

<http://support.microsoft.com/kb/937938/ja>

## □ ネットワークアダプタの TCP/IP Checksum Offload 機能について

オンボード LAN アダプタおよび拡張 LAN ボードは、TCP/IP プロトコルのチェックサム計算を LAN コントローラにて実施する機能をもっていますが、本機能は用いずに OS 側で標準的に備えている TCP/IP のチェックサム計算機能をお使いになることをお勧めします。

OS 側で計算するように設定した場合、OS のプロトコル処理の最終段階で、ネットワークから受信したパケットデータの整合性確認が行われることになり、より信頼性の高いシステムを構築いただけます。

LAN コントローラによるチェックサム機能をオフにするには、次のとおり設定してください。

デバイスマネージャから各 LAN アダプタのプロパティを開き、[詳細設定] タブで次の項目の設定を「オフ」にしてください。

- Ipv4 チェックサムのオフロード
- TCP チェックサムのオフロード (Ipv4)
- TCP チェックサムのオフロード (Ipv6)
- UDP チェックサムのオフロード (Ipv4)
- UDP チェックサムのオフロード (Ipv6)
- TCP セグメンテーションのオフロード

設定を変更した後は、システム装置を再起動してください。

## □ ネットワークアダプタのパラメータ変更の制限

ネットワークアダプタの設定を変更したあと、設定を変更したアダプタで正常に通信できない場合があります。

デバイスマネージャで設定を変更したネットワークアダプタを確認し、「！」が表示されている場合は、該当のアダプタを右クリックし、アダプタを無効にしたあと、再度有効にすることで使用できるようになります。

## □ ローカルエリア接続について

[コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - タスクの[ネットワーク接続の管理]を開くと、“ローカルエリア接続 x”(x は数字) という名前でネットワークの接続が表示されます。“ローカルエリア接続”に付随する番号と、“デバイス名”に表示されている LAN デバイスの番号は独立したもので、必ず一致するわけではありません。また、“ローカルエリア接続”に付随する番号と、「ブレードサーバシステム」背面にある、スイッチモジュールのサービス LAN ポートとの関係も独立しており、たとえば“ローカルエリア接続”(番号無し) が、必ずシャーシ背面からみて右側のスイッチのサービス LAN ポートに対応するわけではありません。

はじめてネットワークの設定を行う場合は、“ローカルエリア接続”と LAN デバイス、スイッチのサービス LAN ポートの対応を確認した上で、設定を行ってください。また、“ローカルエリア接続”的名前は変更可能ですので、確認後、使用環境でわかりやすい名前をつけておくことを推奨します。

### [サーバブレード内蔵 LAN デバイスの確認手順]

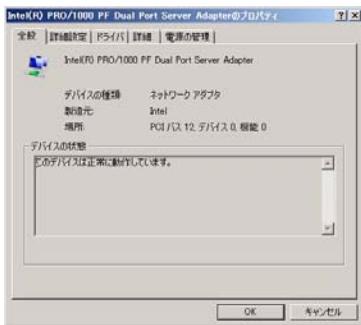
- 1 スタートメニューから、[コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - タスクの[ネットワーク接続の管理]を開く。



- 2 調べたい“ローカルエリア接続”的上でマウスを右クリックし、表示されるメニューから“プロパティ”を選択し、プロパティを開く。



### 3 [ネットワーク] タブの [構成] ボタンを押す。



### 4 LANデバイスのプロパティの[全般]タブに表示された内容で、"場所:"の"機能"を確認する。

- ・ "機能"が0であれば、シャーシ後ろから見て右側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続
- ・ "機能"が1であれば、シャーシ後ろから見て左側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続



PCI バス NO.10 のデバイスについては iSCSI ストレージに接続しているため設定変更しないでください。

## □ ファイルのプロパティ表示について

エクスプローラでファイルのプロパティを表示し、[ 詳細 ] タブを表示した際、ファイルバージョン、製品情報、製品バージョンなどの情報が表示されない場合があります。OS の再起動や、画面の解像度・色のビット数を変更すると情報が表示される場合があります。

## □ ネットワークアダプタのイベントログ 詳細について

ネットワークアダプタのイベントログ説明欄に記録される内容が「Intel(R) 82566DC-2 Gigabit Network Connection」といったネットワークアダプタ名称ではなく、¥DEVICE¥ {354C76B6-E426-4CEB-8015-BF991BA8D75F} と表示されることがあります。

仕様によるもので動作に影響はありません。(ネットワークアダプタ名称、{} 内の数値 (GUID) は御使用の環境により異なる場合があります)

## □ ネットワークアダプタの接続状態の表示について

ネットワークアダプタのリンクアップ時、[ネットワーク接続] やタスクトレイの接続状態がすぐに更新されない場合があります。状態を確認するために、[ネットワーク接続] にて、[表示] - [最新の情報に更新] を選択して接続状態の更新を行ってください。

## □ OS 起動時のネットワークアダプタのイベントログについて

システム起動時に、ネットワークアダプタでエラーアイベントログが発生することがあります。ネットワークアダプタがリンクダウンしている可能性があります。[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタが接続されていることをご確認ください。

システム起動時に、ネットワークアダプタの実際のリンク状態に関わらず、リンクアップイベントが記録されることがあります。

[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタの接続状態をご確認ください。

# Windows Server 2008 の セットアップ

ここでは、Windows Server 2008 のセットアップ手順について説明します。

## 注意

セットアップしなおすと、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

### 補足

- 本資料で対象とするのは、iSCSI ストレージへの Windows セットアップのみです。
- Windows セットアップやドライバ、ユーティリティのインストールは、ご使用になるサーバーブレードに添付された『SystemInstaller』CD-ROM のバージョンが “1x-xx” (x は任意) のものをご使用ください。先頭の “1” が、Windows Server 2008 用を意味します。バージョンが “1x-xx” 以外の SystemInstaller を Windows Server 2008 のセットアップに使用しないでください。また、“1x-xx” を Windows Server 2003 など他バージョンの Windows セットアップに使用しないでください。バージョンが適合しない CD-ROM を使用すると、正常に動作しない原因となります。

ドライバは手順にしたがって指定されるものを適用してください。指定外のドライバを使用された場合正常に動作しません。

- 『SystemInstaller』 “1x-xx”をお持ちでない場合は、下記 Web を参照し、Windows Server 2008 のセットアップに必要なドライバ、管理ユーティリティ等を入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/download/driver/index.html>

以降のセットアップ手順では、SystemInstaller 1x-xx 内のドライバを指定している部分を、ダウンロードしたドライバを使用するよう、読み替えてください。また、ドライバ/ユーティリティのセットアップ手順は、「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」P.36 を参照してください。

- Windows インストール済みモデルにおいては一部 HotFix なども含んで出荷いたします。  
Windows の再セットアップをおこなっても HotFix はインストールされないため、厳密にはブレインストールの状態に戻りません。
- インストール済みモデルには以下の HotFix がインストールされています。
  - ◆ KB961570
 必ずインストールしてください。詳細は、マイクロソフト社の HP にてご確認ください。  
<http://support.microsoft.com/kb/961570>

- KB949189

詳細は「[Active Directoryを使用する場合](#)」[P.12](#)をご参照ください。  
インストール済みモデルに含まれる HotFix は“c¥HITACHI¥QFE”  
に格納されていますので、事前にバックアップしておき、再セッ  
トアップ時に再インストールしてください。

## セットアップ方法について

セットアップは、「OS のセットアップ」と「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」を行  
う必要があります。

「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」は「『SystemInstaller』によるセットアップ」と  
「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」のどちらかの方法で行うことができます。通  
常は、ドライバ、ユーティリティのセットアップを自動で行うことができる「『SystemInstaller』  
によるセットアップ」をお勧めします。

なお、ここではセットアップ時に使用する DVD-ROM を次のとおり表記します。

表記	対象 DVD-ROM
『セットアップ DVD』	Windows Server 2008 Standard インストール済みモデル付属の『サー バインストール DVD-ROM HA8000 / 1P シリーズ BladeSymphony / 4P シリーズ Disc2』DVD-ROM
	リテール版の『「Microsoft Windows Server 2008」Standard』DVD- ROM 32bit 版



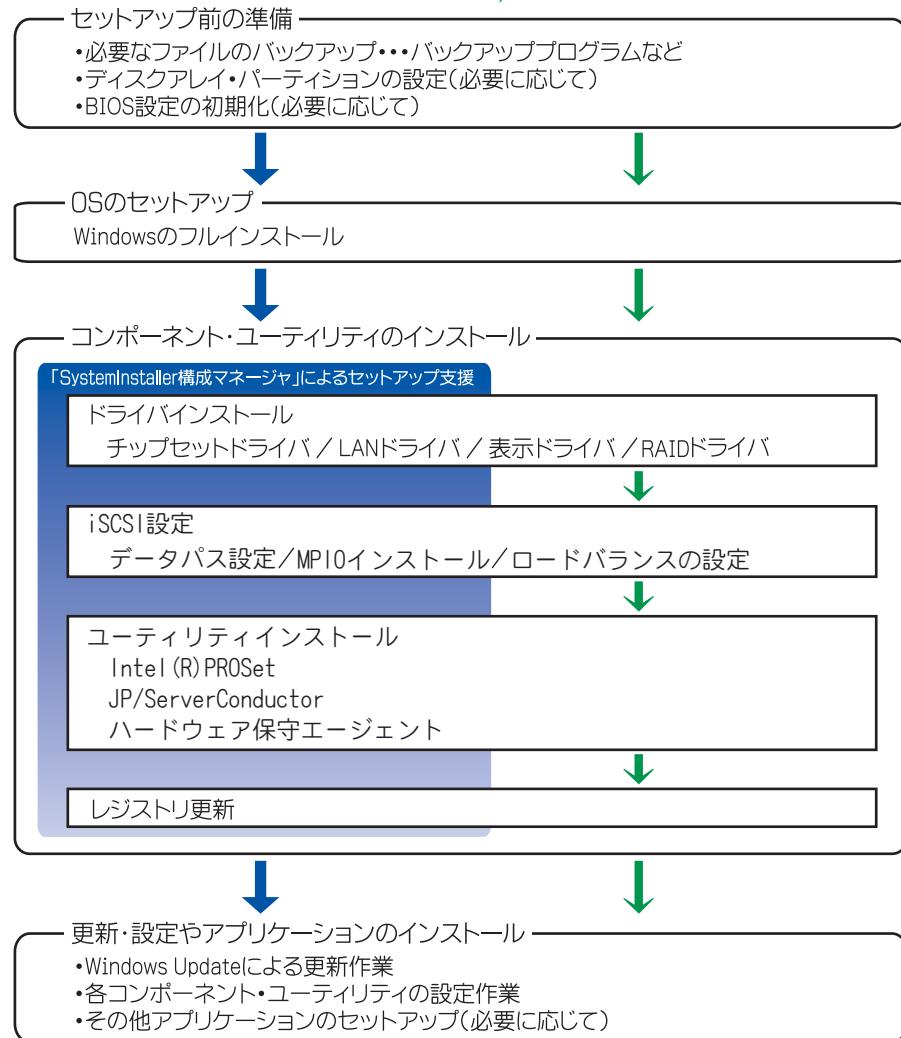
OS のセットアップを行っただけでは正常に動作しません。セット  
アップ完了後、漏れなく「ドライバ / ユーティリティのセットアッ  
プ」を行ってください。



HDD レスサーバーブレードでは、Standard 32-bit のみサポートしてい  
ます。

セットアップの流れは次のようになります。

- …『SystemInstaller』を使用するセットアップ  
→ …『SystemInstaller』を使用しないセットアップ



...  
補足

KB961570 の Hotfix (修正プログラム) のインストールを必ず行ってください。

インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。

<http://support.microsoft.com/kb/961570>

## BIOS 設定の確認

お使いの装置の構成に応じて、BIOS の設定を見直してください。OS の再セットアップを行う場合は、ハードウェア構成に変更が無ければ特に作業は必要ありません。

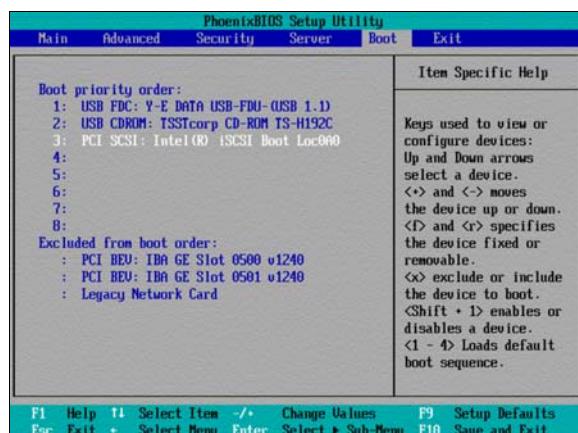
BIOS の設定項目詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

# OS のセットアップ

ここでは、Windows Server 2008 のセットアップ方法を説明します。

## □ セットアップ時の制限

- セットアップ時には、リモートコンソールアプリケーションでサーバブレードと接続してください。CD-ROM/DVD-ROM ドライブは、サーバブレード前面の USB ポートに直に接続することを推奨します。
- リモートコンソールアプリケーションのリモート FD について  
Windows セットアップ時にリモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能は使用できません。FD を使用する場合は、USB FD ドライブをサーバブレード前面の USB ポートに接続する必要があります。Windows Server 2008 のセットアップでは、FD ではなく CD-ROM からドライバを読み込む手順を推奨します。
- パーティション (ドライブ) の設定
  - ◆ インストールするパーティション (ドライブ)  
ブートディスクの最初のパーティションにインストールします。インストール先のパーティション内のプログラムやデータはすべて削除されます。
- DVD ドライブについて  
Windows Server 2008 のセットアップは DVD-ROM ドライブ (以下 DVD ドライブ) が必要となります。
- DVD-ROM のイジェクトについて  
DVD ドライブのイジェクトボタンは、DVD-ROM メディア交換時以外に押さないでください。ボタンを押された場合、インストールをやりなおす必要があります。
- OS のインストールに使用する LU は、LUN0 を OS 用に使用するよう iSCSI ストレージの設定を行ってください。また、サーバブレード起動時、F2 キーを押してシステム BIOS のメニューに入り、ブートプライオリティが下記の通りに設定されていることを事前に確認してください。
  - ◆ 見えている LU の中で該当 LU のブートプライオリティが一番高くなっていること
  - ◆ CD/DVD ドライブのブートプライオリティが、該当 LU のブートプライオリティより高くなっていること



## □ セットアップ手順

### 注意

セットアップしないと、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。



複数のHDDレスサーバーブレーが同時にiSCSIストレージを使用している環境では、iSCSIストレージへのトラフィックが集中するため、HDDレスサーバーブレーとiSCSIストレージが一対一で接続されている環境と比較してOSのインストールに時間がかかる場合があります。

- 1 システム装置の電源を入れたら、すぐに『セットアップDVD』をDVDドライブに入れます。
- 2 画面に「Press any key to boot from CD or DVD」が表示された場合、すぐに任意のキーを押します。



- キーを押すタイミングが遅いと、DVD-ROMから起動せず、すでにインストール済みのOSが起動します。その場合は手順1からやり直してください。
- 任意のキーを複数回押した場合、[Windows Boot Manager]が起動する場合があります。[Windows Boot Manager]が起動した場合は、[Windows Setup [EMS Enabled]]を選択し、セットアップを続行してください。

- 3 「Windows is loading files」と画面に表示され、しばらくして[Windowsのインストール]ウインドウが表示されます。

必要に応じてカスタマイズを行い、[次へ]ボタンをクリックします。



**4** 次のウインドウが表示された場合、[今すぐインストール] を選択します。

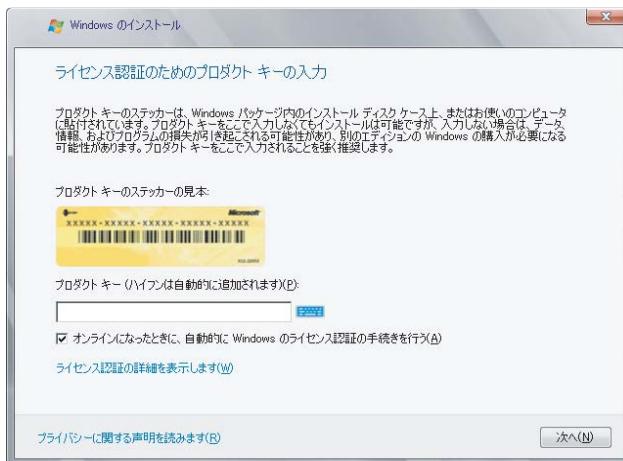


...  
補足

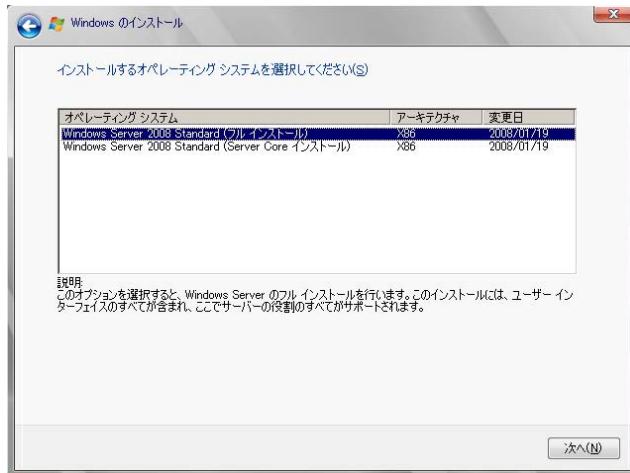
インストール済みモデル付属の『サーバインストール DVD-ROM』などを使用すると、このウインドウ画面が表示されない場合があります。そのまま手順 5 に進んでください。

なお、Windows RE の起動が必要な場合は「[「コンピュータを修復する」について](#)」P.12 をご参照ください。

**5** [ライセンス認証のためのプロダクトキーの入力] 画面が表示された場合、『セットアップ DVD』に適合するプロダクトキーを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6** [購入した Windows のエディションを選択してください] 画面が表示されます。インストールしたいエディションを選択し、[購入した Windows のエディションを選択しました] チェックボックスにチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。



[購入した Windows のエディションを選択しました] チェックボックスは表示されない場合があります。表示されない場合はチェックする必要はありません。



フルインストールを選択してください。  
「Server Core インストール」はサポートしておりません。

- 7** [ライセンス条項をお読みください] 画面が表示されます。ライセンス条項を読み [条項に同意します] チェックボックスにチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。



**8** [インストールの種類] 画面が表示されます。[カスタム (詳細)] を選択します。



…  
補足

インストール済みモデル付属の『サーバインストール DVD-ROM』などを使用すると、このウインドウ画面が表示されない場合があります。表示されない場合は、そのまま手順 9 に移ります。

**9** 画面にしたがいインストールするディスク 0 のパーティションを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



!  
制限

- ダイナミックディスクはサポートしておりません。誤ってダイナミックディスクを作成してしまった場合、ダイナミックディスク内のパーティションに対し [削除] ボタンは使用できません。詳細や対処方法については、次をご参照ください。  
<http://support.microsoft.com/kb/926190>

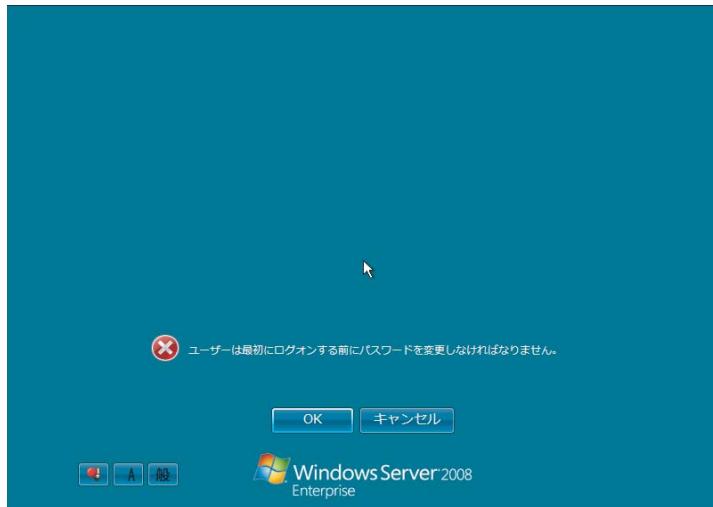
- [ドライブオプション] を使用しパーティションを作成する場合、10GB のパーティションにインストールするとインストールに失敗する場合があります。そのため、40GB 以上のパーティションを作成してインストールすることを強くお勧めします。
- インストールするパーティションは必ずディスク0を選択してください。

- 同容量のディスクが2つ表示されない場合、iSCSIのBoot設定が正しく行われていません。設定を見直してください。

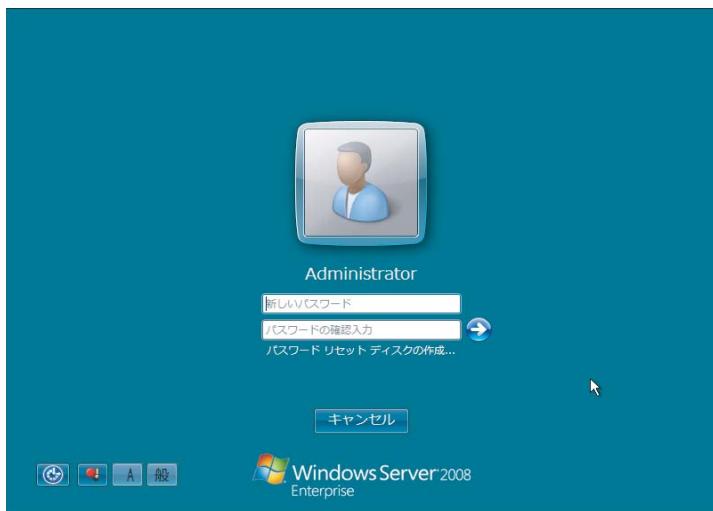
- 10** [Windows のインストール中] 画面が表示されます。  
数回再起動した後、OS のセットアップが完了します。



- 11** OS のセットアップ完了後、初回起動時「ユーザは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。



- 12** Administrator のパスワードを【新しいパスワード】と【パスワードの確認入力】に入力し、【→】ボタンをクリックします。

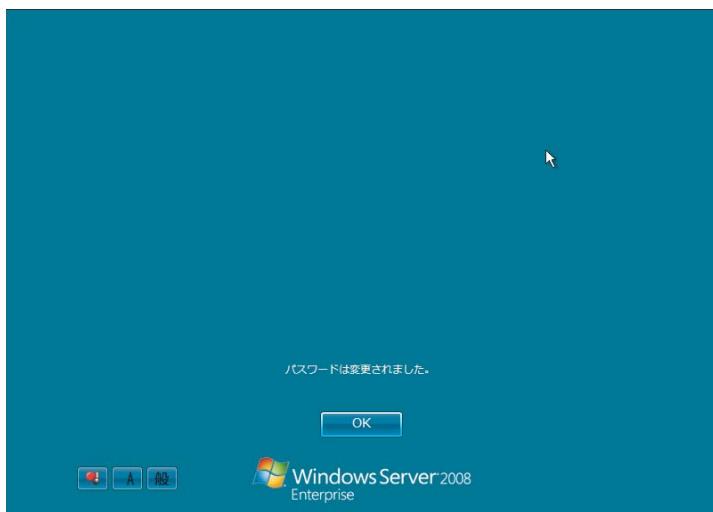


•••  
補足

入力するパスワードは次の条件を満たす必要があります。

- 次の文字のうち 3 つ以上組み合わせる。  
英大文字 (A ~ Z)  
英小文字 (a ~ z)  
数字 (1 ~ 9)  
記号 (句読点)
- ユーザーのユーザー名またはフルネームに含まれる3文字以上連続する文字列を含めない。

- 13** 「パスワードは変更されました。」と表示されるので【OK】ボタンをクリックします。



以上で、OS のセットアップは終了です。引き続き「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」P.33を行います。

# ドライバ/ユーティリティのセットアップ

ここでは Windows Server 2008 のドライバ/ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

ドライバ/ユーティリティのセットアップ方法は、「『SystemInstaller』によるセットアップ」と「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」のどちらかの方法で行うことができます。通常は「『SystemInstaller』によるセットアップ」をお勧めします。

## □ 『SystemInstaller』によるセットアップ

「SystemInstaller 構成マネージャ」（以下、構成マネージャ）を用いると、システム装置の動作に必要なドライバやユーティリティなどのインストールを簡単に行うことができます。

### 「SystemInstaller 構成マネージャ」のセットアップ

最初に構成マネージャをセットアップする必要があります。次の手順でセットアップします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 コマンドプロンプトにて、下記を実行し、ブートパスの正副、データパスの正副に接続していることを確認します。

```
ping 10.32.60.200
ping 10.32.60.201
ping 10.32.61.200
ping 10.32.61.201
```

…  
補足

正しく接続していない場合は、環境を見直してください。

- 3 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM（バージョン 1x-xx）を入れます。

- 4 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

- 5 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。

```
d:\$INST\$SysInst2.exe
```

\*d は DVD ドライブ名

[SystemInstaller 構成マネージャのインストール] 画面が表示されます。

- 6 [はい] ボタンをクリックします。

インストール完了後、構成マネージャが起動します。

## ドライバ/ユーティリティのセットアップ

構成マネージャを用いて、ドライバとユーティリティのセットアップを行います。

Windows インストール済みモデルの初期状態と、「SystemInstaller 構成マネージャ」のセットアップ」P.33 で構成マネージャをセットアップした場合、構成マネージャの自動起動が有効になっています。自動起動する場合は手順 3 へ進みます。



「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されている状態で、SystemInstaller 構成マネージャを実行すると、インストールが進行しない場合があります。現象発生時には「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログの [キャンセル] ボタンを押し、ダイアログを消してください。

**1** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

**2** 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。

c:\Hitachi\S-INST\SysInst2.exe

\*c はシステムドライブ名

[SystemInstaller 構成マネージャ] 画面が表示されます。

**3** [OK] ボタンをクリックします。

インストール方法の選択画面が表示されます。

**4** すべてをインストールする場合は「デフォルトインストール」をクリックします。インストールするコンポーネントを選択する場合は「カスタムインストール」をクリックし、画面にしたがいインストールするコンポーネントを選択後 [次へ] ボタンをクリックします。



通常は「デフォルトインストール」をお勧めします。

**5** [次へ] ボタンをクリックします。

インストールの準備が開始されます。

以降、画面にしたがいインストール作業を続行します。途中、CD の入れ替え作業が発生する場合があります。

最後にセットアップの完了画面が表示されます。

再起動が必要な場合は手順 6 へ、不要な場合は手順 9 へ進みます。

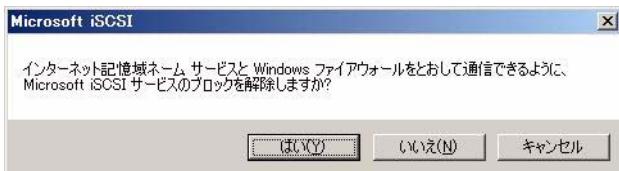


各ユーティリティセットアップ時に入力を求められる場合があります。ユーティリティのセットアップ方法詳細は各ユーティリティのマニュアルをご参照ください。各マニュアルの格納先は、「付属ソフトウェアの使いかた」P.10 をご参照ください。

**6** 「今すぐ再起動する。」にチェックして、CD-ROM をドライブから取り出します。

補足

HDD レスサーバーブレーの場合、はじめて、"iSCSI イニシエータ" を起動する時、次のダイアログが表示されたら、"いいえ" をクリックしてください。



## 「System\Installer 構成マネージャ」の削除

ドライバとユーティリティのセットアップが完了したあと、構成マネージャを削除します。構成マネージャを削除するには、再起動が必要です。

- 構成マネージャの完了画面で「次回構成マネージャを起動しない」のチェックボックスにチェックし、「構成マネージャを削除する」のチェックボックスにチェックします。

[System\Installer 構成マネージャの削除] 画面が表示されます。

- [はい] ボタンをクリックします。
- [終了] ボタンをクリックします。

構成マネージャが削除され、終了します。

## iSCSI 用 HotFix (修正プログラム) のインストール

KB961570 の HotFix (修正プログラム) のインストールを必ず行ってください。インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。

<http://support.microsoft.com/kb/961570>

補足

Windows インストール済みモデルをご購入いただいたお客様は、本 HotFix がインストールされています。また、バックアップとしてハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\HITACHI\QFE

それ以外のお客様は、「OS 修正モジュール」にて記載しました、弊社サイトにて入手方法を紹介しております。

## □ 『SystemInstaller』を使用しないセットアップ

『SystemInstaller』を使用せずセットアップを行う場合は、次のドライバとユーティリティおよびレジストリ更新を個別にインストールする必要があります。

- レジストリの更新
- ドライバ
  - ◆ RAID 仮想デバイスの名称設定
  - ◆ チップセットドライバ
  - ◆ LAN ドライバ
  - ◆ iSCSI イニシエータ
  - ◆ MPIO
  - ◆ 表示ドライバ
- ユーティリティ
  - ◆ Intel(R) PROSet
  - ◆ JP1/ServerConductor
  - ◆ ハードウェア保守エージェント
  - ◆ オプションボード用ドライバ、ユーティリティ

### レジストリの更新

DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れた状態で、以下を実行してください。

\*d は DVD ドライブ名

- 1 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥TimeOutValue¥TimeOutValue.bat

また、NMI が発行された時にダンプが取得できるように設定します。

- 1 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥NMIDump¥NMID.bat

PCI ドライバの設定をおこないます。

- 1 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥avoidD3¥avoidD3.bat

LAN ドライバの設定変更を行います。

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥SNPDS¥SNPDSW08.bat

設定した項目を有効にするため、バッチ実行後に OS の再起動を行ってください。

## RAID 仮想デバイスの名称設定

RAID 仮想デバイスの名称設定を行うため、次の手順で inf ファイルを適用します。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。
- 3 [スタート] - [サーバーマネージャ] をクリックします。  
[サーバーマネージャ] が表示されます。
- 4 [診断] - [デバイスマネージャ] を選択します。
- 5 [システムデバイス] ツリーを開きます。
- 6 次の名称を選択し、右クリックして [ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。  
[ドライバソフトウェアの更新ウィザード] が表示されます。
  - ◆ Windows Server 2008 32bit 版の場合  
RAID 仮想デバイス
- 7 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します:] をクリックします。
- 8 [コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します:] をクリックします。
- 9 [ディスク使用] ボタンをクリックし、[製造元のファイルコピー元:] に、次のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。
  - ◆ Windows Server 2008 32bit 版の場合  
d:\¥Win2008¥Drivers¥RAID¥MegaSR\_01¥x86¥
- 10 [ドライバソフトウェアの更新ウィザード] に戻るので、[次へ] ボタンをクリックします。
- 11 [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

## チップセットドライバ

次の手順でチップセットドライバをインストールします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

- 4** 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。

d:¥Win2008¥Drivers¥chipset¥INTEL\_01¥setup.exe

\*d は DVD ドライブ名

[セットアップ] 画面が表示されます。

- 5** [次へ] ボタンをクリックします。

[使用許諾契約書] が表示されます。

- 6** 使用許諾の内容を読み、[はい] ボタンをクリックします。

以降画面にしたがい、セットアップを続行してください。

最後に [セットアップ完了] が表示されます。

- 7** [はい、コンピュータを今すぐ再起動します。] を選び [完了] ボタンをクリックしたあと、すぐに CD-ROM をドライブから取り出します。

システム装置が再起動されます。

## LAN ドライバ

次の手順で LAN ドライバをインストールします。なお、増設 LAN ボードのドライバについては増設 LAN ボードのマニュアルをご参照ください。

- 1** システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。

- 2** DVD ドライブに『SystemInstaller』CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。

- 3** [スタート] - [サーバーマネージャ] をクリックします。

[サーバーマネージャ] が表示されます。

- 4** [診断] - [デバイスマネージャ] を選択します。

- 5** ドライバを更新していないネットワークアダプタを右クリックし、[ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。

[ドライバソフトウェアの更新ウィザード] が表示されます。

- 6** [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します:] をクリックします。

- 7** [次の場所でドライバソフトウェアを参照します:] に次のように入力して、[次へ] ボタンをクリックします。

- Windows Server 2008 32bit 版の場合 :

d:¥Win2008¥Drivers¥LAN¥INTEL\_01¥x86

\*d は DVD ドライブ名

[サブフォルダも検索する] はチェックをはずしてください。

- 8** [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

- 9** LAN ドライバを更新したネットワークアダプタを右クリックし、[削除] を選択します。

[デバイスアンインストールの確認] が表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



LAN ドライバを更新していないネットワークアダプタを削除しないでください。LAN ドライバが正しく適用されず、正常に動作しません。

[このデバイスのドライバソフトウェアを削除する] にはチェックをいれないでください。LAN ドライバが正しく適用されず、正常に動作しません。

**10** LAN ドライバの更新をしていないネットワークアダプタが残っている場合は手順 5 ~ 9 をネットワークアダプタごとに繰り返します。

**11** すべてのネットワークアダプタに対して LAN ドライバの更新、および削除を行ったあと、デバイスマネージャの任意のデバイスをクリックし、[操作] - [ハードウェア変更のスキャン] をクリックします。

すべてのネットワークアダプタが自動で検出され、LAN ドライバが適用されます。



■ 作業には数分かかることがあります。デバイスマネージャの表示が更新されている間は、ほかの作業を実施しないでください。

■ ネットワークアダプタに、LAN ドライバが自動で適用されている際に、タスクトレイ上で、ドライバが正常にインストールされなかつた旨のメッセージが表示されることがあります。LAN ドライバのインストール手順に従い、システム装置を再起動後、デバイスマネージャから各ネットワークアダプタのプロパティを開き、ドライバが正常に適用されていることをご確認ください。

**12** [基本システムデバイス] を右クリックし、[ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。

[ドライバソフトウェアの更新] が表示されます。

**13** [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します] をクリックします。

**14** [次の場所でドライバソフトウェアを検索します:] に次のように入力して [次へ] ボタンをクリックします。

- ◆ Windows Server 2008 32bit 版の場合：  
d:\Win2008\Drivers\LAN\INTEL\_01\x86

\*d は DVD ドライブ名

[サブフォルダも検索する] はチェックをはずしてください。

**15** [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

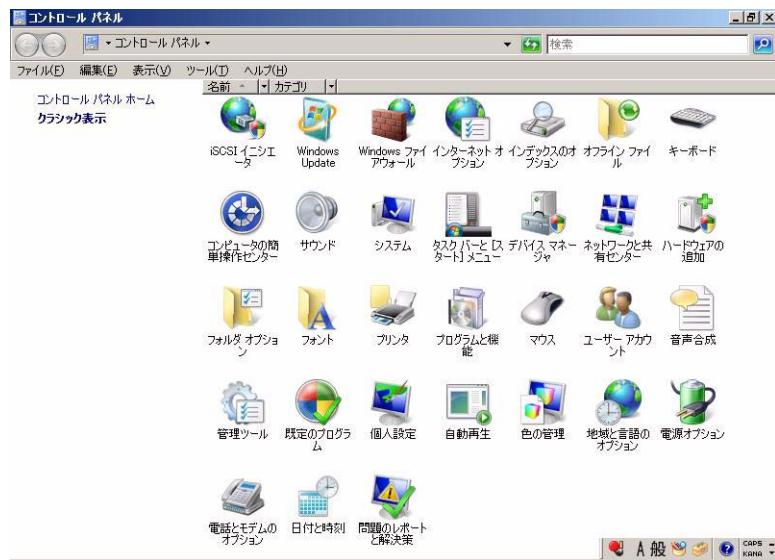
**16** CD-ROM をドライブから取り出したあと、システム装置を再起動します。



ドライバのセットアップ時、「このハードウェアを開始できません」と表示されることがあります。システム装置を再起動することにより正常に動作します。[デバイスマネージャ] で、デバイスが正常に動作していることをご確認ください。

## iSCSI イニシエータサービスの開始

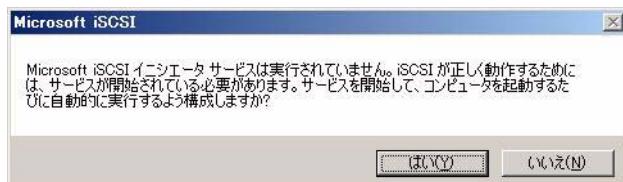
### 1 コントロールパネルを開き、iSCSI イニシエータ アイコンをクリックする。



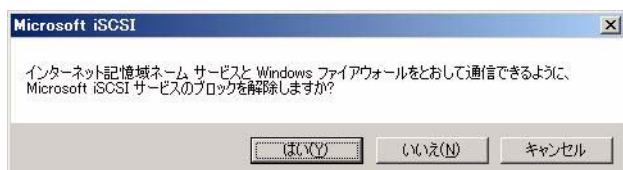
#### 補足

- LAN ドライバをインストールした後に、実行してください。
- 「Administrator」でログインしているものとします。
- コントロールパネルは“クラシック表示”を選択してください。

### 2 下記確認ダイアログが表示されるので、“はい”を選択する。



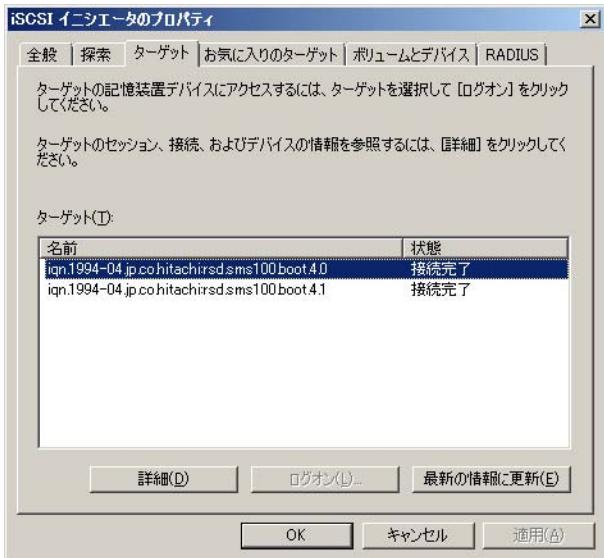
### 3 ファイアウォールの除外ダイアログが表示されるので、“いいえ”を選択する。



#### 補足

インターネット記憶域サービス (Internet Storage Name Service (iSNS)) を使用しませんので、“いいえ”を選択してください。

- 4** iSCSI イニシエータのプロパティが表示されるので、“ターゲット”タブを選択する。  
ブートパスのターゲットの状態が“接続完了”となっていることを確認する。



- 5** OK を選択し、iSCSI イニシエータのプロパティを閉じる。

## MPIO の機能追加

- 1** サーバーマネージャにて、“機能”を選択する。

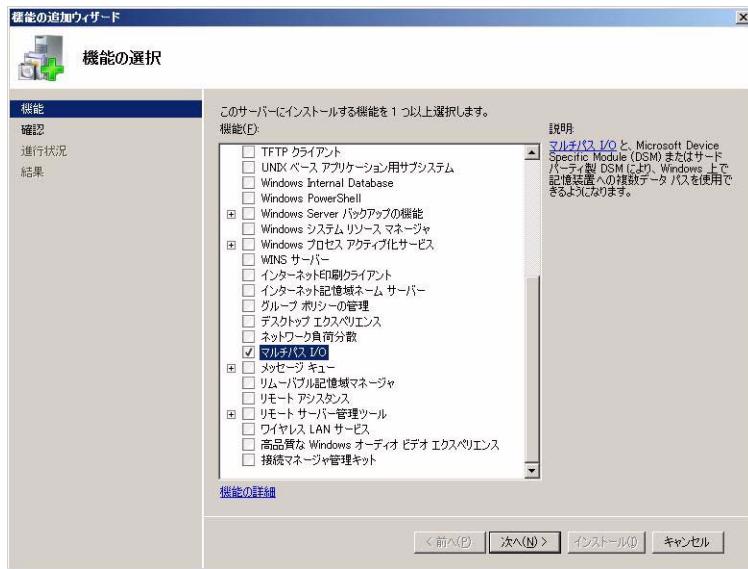


### 補足

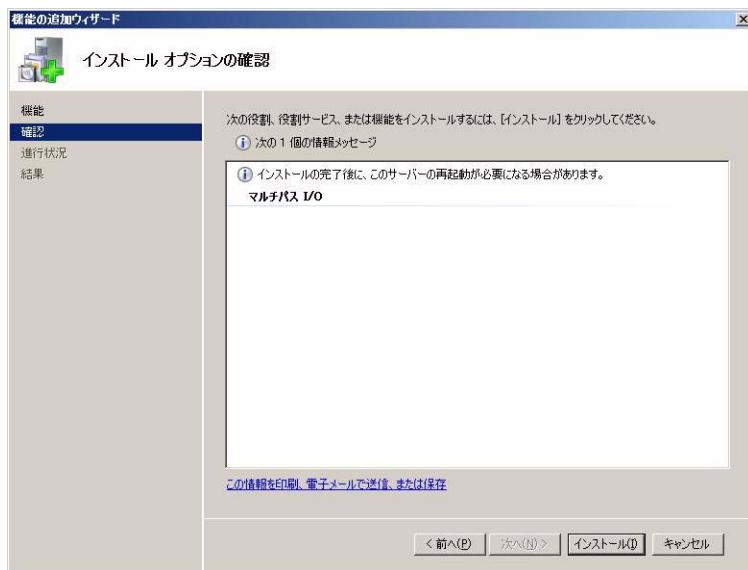
- 「Administrator」でログインしているものとします。
- コントロールパネルは“クラシック表示”を選択してください。

## 2 “機能の追加”を選択する。

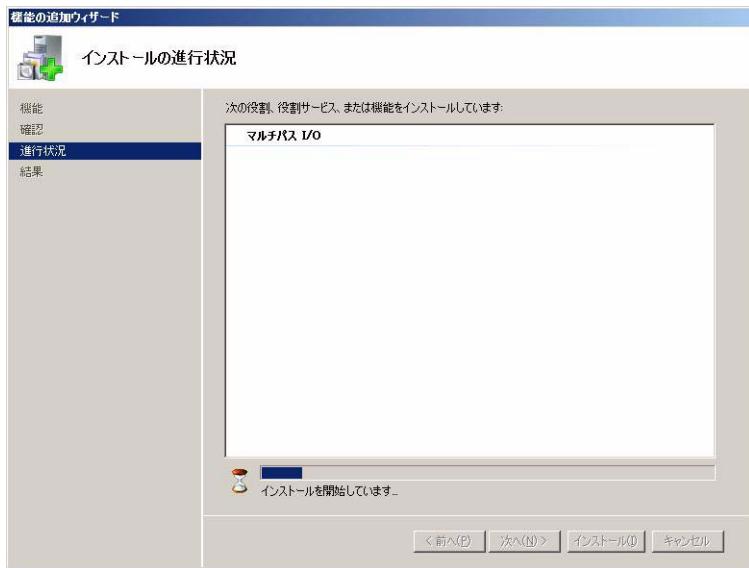
機能の選択が表示されるので、“マルチバス I/O”にチェックを入れて、“次へ”を選択する。



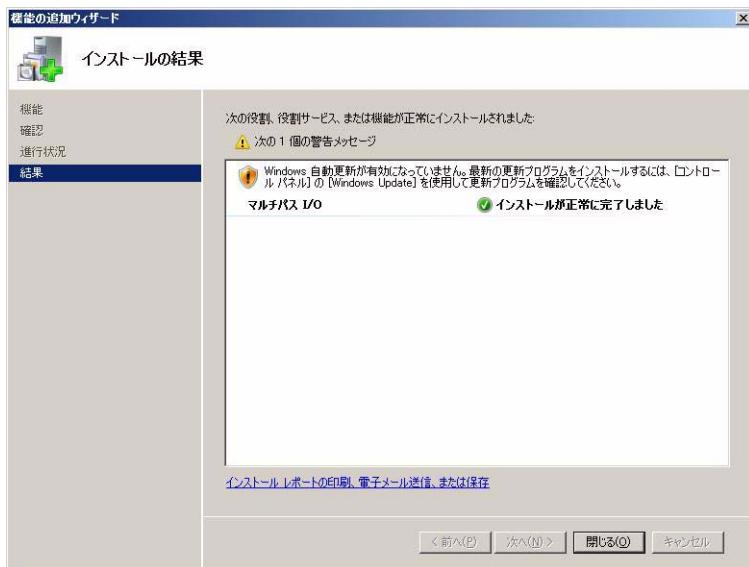
## 3 “インストールオプションの確認”にて、インストールを選択。



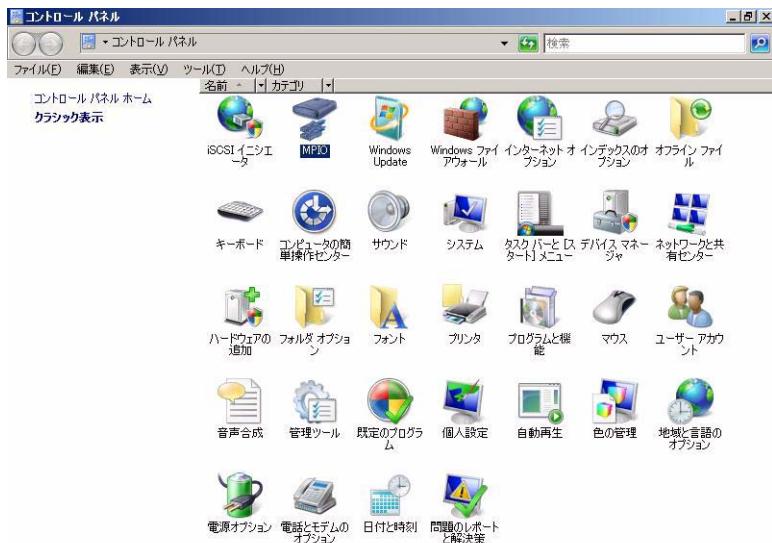
**4 インストールが開始される。**



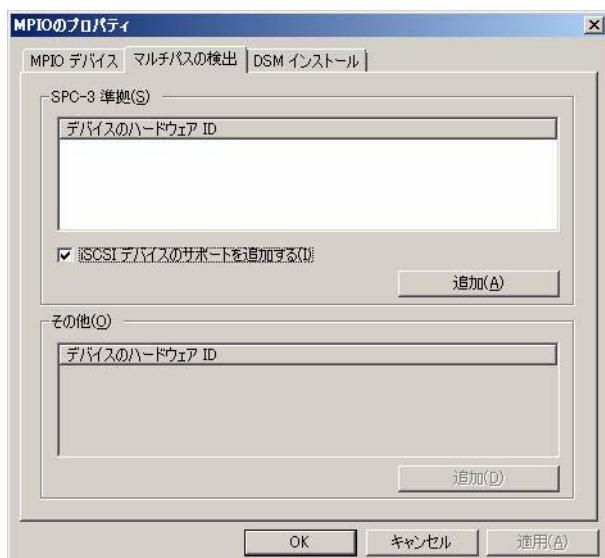
**5 インストールが正常に完了したことを確認し、“閉じる”を選択。**



## 6 コントロールパネルから、MPIO を選択する。



## 7 MPIO のプロパティの “マルチパスの検出” タブにて、“iSCSI デバイスのサポートを追加する” にチェックを入れて、追加を選択する。



補足

追加されるまでに、数分かかる場合があります。

## 8 再起動の確認ダイアログが表示されたら、“はい” を選択して再起動を行う。



•••  
補足

再起動は、2回要求される場合があります。

## ロードバランスの設定

### 新規インストール時の手順

新規にインストールした場合、バッチにて設定することができます。

- 1** コマンドプロンプトにて、下記を実行し、ブートバスの正副、データバスの正副に接続していることを確認します。

```
ping 10.32.60.200
ping 10.32.60.201
ping 10.32.61.200
ping 10.32.61.201
```

•••  
補足

正しく接続していない場合は、環境を見直してください。

- 2** 下記のバッチを実行し、データバスを追加します。

```
d:\¥Win2008¥Win2008¥Tools¥SetDP¥SetDP.cmd
```

\*d は DVD ドライブ

- 3** 下記のバッチを実行し、MPIO のロードバランス設定を全て、ラウンドロビンに設定します。

```
d:\¥2008¥Win2008¥Tools¥LBPolicy¥SetLBP.cmd
```

\*d は DVD ドライブ

•••  
補足

バッチは、上記の順番で実行しないと、正しく設定されません。

### 手動設定手順（再インストールの場合など）

再インストールした場合など、手動にてロードバランスを設定するときの手順です。

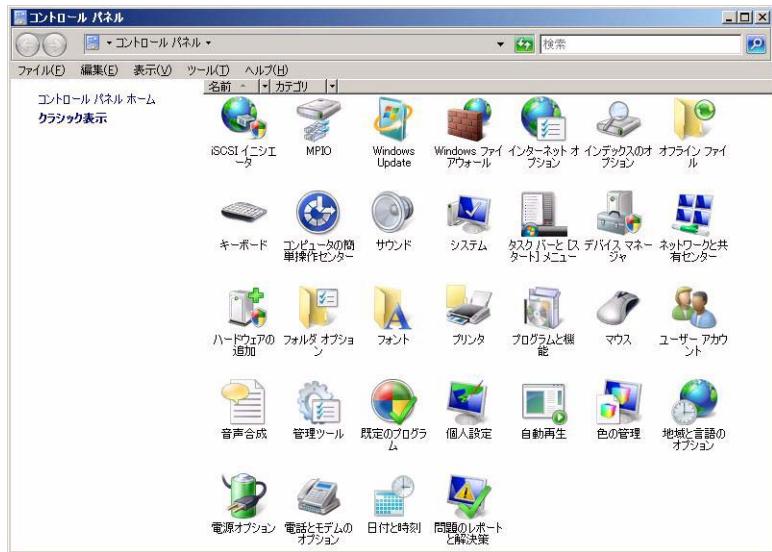
•••  
補足

再インストールの場合、既に一部設定がされています。

その場合、設定されている部分については、2重に設定はせず、設定値の確認のみを行い、設定されていない部分のみ設定を行ってください。

## ブートパスのロードバランス設定

1 コントロールパネルを開き、iSCSI イニシエータ アイコンをクリックする。

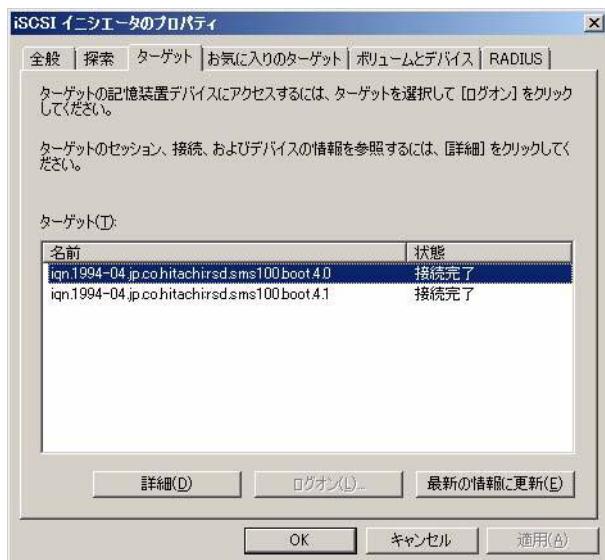


### 補足

- 「Administrator」でログインしているものとします。
- コントロールパネルは“クラシック表示”を選択してください。

2 iSCSI イニシエータのプロパティが表示されるので、“ターゲット”タブを選択する。

ブートパスのターゲットが選択された状態で、“詳細”を選択する。



**3 “ターゲットのプロパティ”にて、“デバイス”タブを選択し、“詳細設定”を選択する。**



**4 “デバイスの詳細”にて、“MPIO”タブを選択する。**



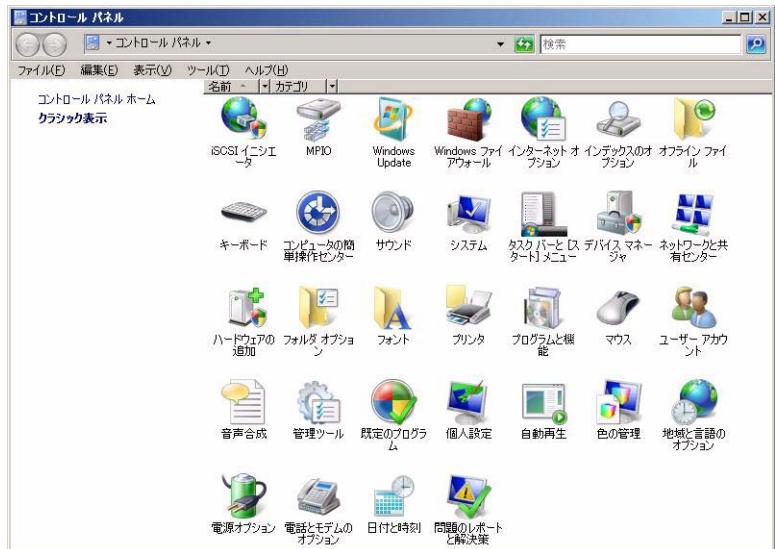
- 5** 負荷分散ポリシーを、“フェールオーバーのみ”から、“ラウンドロビン”に変更し、“OK”を選択する。



- 6** 2回 “OK”を選択し、iSCSI イニシエータ設定を終了する。

### データパスの追加とロードバランス設定

- 1** コントロールパネルを開き、iSCSI イニシエータ アイコンをクリックする。



補足

- 「Administrator」でログインしているものとします。
- コントロールパネルは“クラシック表示”を選択してください。

- 2** iSCSI イニシエータのプロパティが表示されるので、“探索”タブを選択し、“ポータルの追加 (P)…”ボタンをクリックする。



- 3** ターゲット (データパス) のプライマリ IP アドレスを設定し、「OK」ボタンをクリックする。



- 4** 再度 “ポータルの追加 (P)…” ボタンをクリックする。



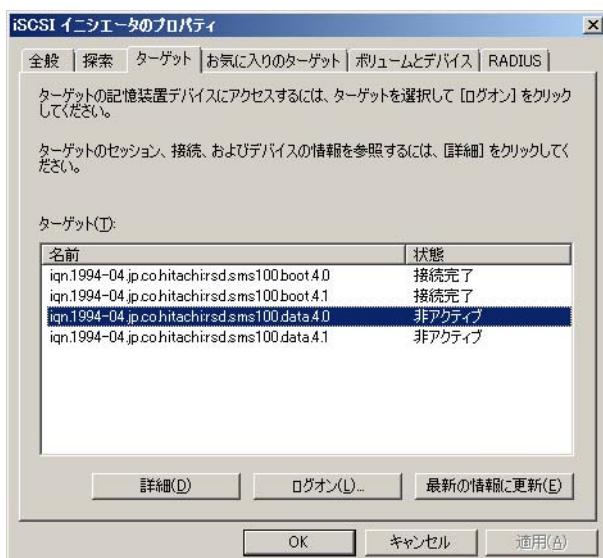
- 5 ターゲットのセカンダリ IP アドレスを設定し、「OK」ボタンをクリックする。



- 6 データパス用のターゲットのIP アドレスが2つ認識されていることを確認し、「ターゲット」タブを選択する。



- 7 ターゲットが4つ認識されていることを確認して、「状態」が「非アクティブ」であるデータパスのターゲットを選択し、「ログオン(L)…」をクリックする。

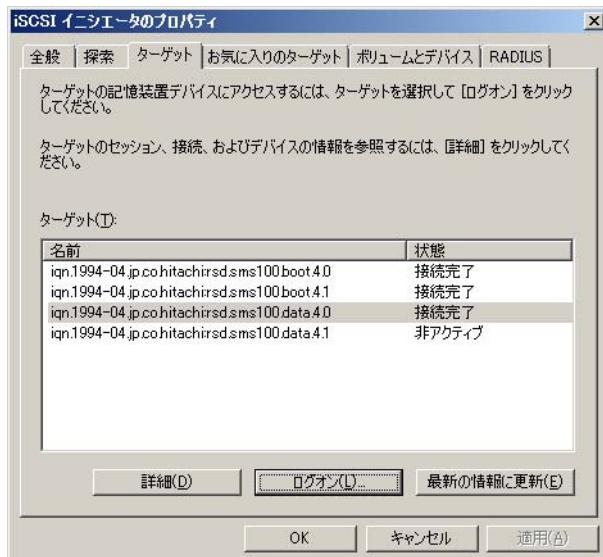


**8** 全てのチェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックする。

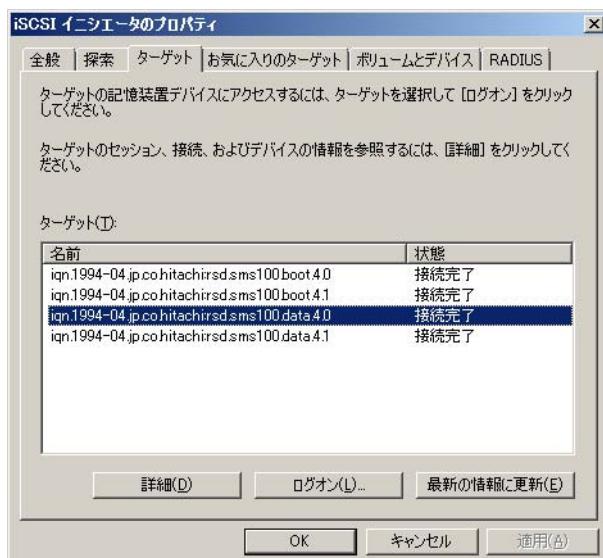


**9** 設定したターゲットの「状態」が「接続完了」に変更されることを確認する。

同様にしてもう 1 つのターゲットの設定を行う。



**10** 4 つのターゲットの「状態」が、「接続」に変更されたら、「~.datax.0」を選択し、「詳細」をクリックする。



## 11 以下ブートパスの設定と同様にしてデータパスのラウンドロビン設定を行う。

•••  
補足

データパスのターゲットに、複数の LU を接続している場合は、Target のプロパティの「Device」タブに、接続している LU の数と同じ数のデバイスが表示されます。  
表示されている、全てのデバイスに対して、ラウンドロビン設定を行ってください。

### iSCSI 用 HotFix (修正プログラム) のインストール

KB961570 の HotFix (修正プログラム) のインストールを必ず行ってください。  
インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。

<http://support.microsoft.com/kb/961570>

•••  
補足

Windows インストール済みモデルをご購入いただいたお客様は、本 HotFix がインストールされています。また、バックアップとしてハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\HITACHI\QFE

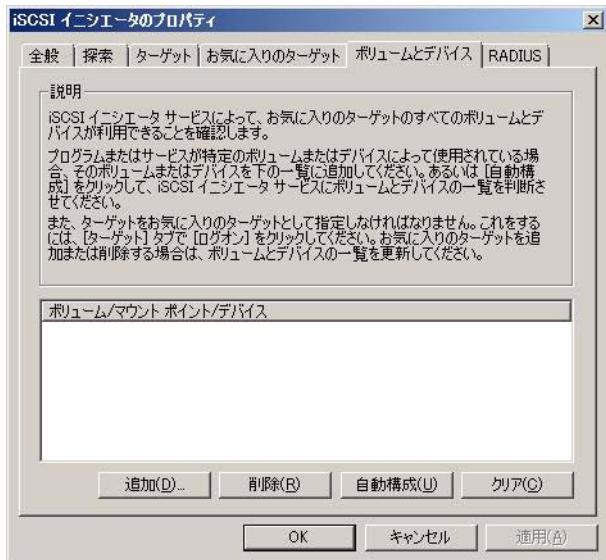
それ以外のお客様は、「OS 修正モジュール」にて記載しました、弊社サイトにて入手方法を紹介しております。

### iSCSI 制限事項

Windows Server 2008 の、iSCSI ソフトウェアインシエータ環境では、下記の制限があります。

- iSCSI 環境にて MPIO を使用する場合は、KB961570 の HotFix(修正プログラム)のインストールが必須です。  
インストールを行っていない状態では、障害発生時などの MPIO による切り替えが正常に行われません。
- ダイナミックディスクボリュームは、サポートされません。  
システム起動時に、ダイナミックディスクボリュームが有効にならないことがあります。
- iSCSI 接続の NIC Teaming はサポートされません。  
NIC Teaming は iSCSI 接続を行っている LAN インタフェース (NIC) では、サポートされません。  
外部接続用の LAN インタフェースでのみ使用可能です。  
なお、プロープが有効の場合、チームの切り替わりが多発するため、プロープを無効にしてご使用ください。
- セーフモードで起動する場合は、" セーフモードとネットワーク " を選択してください。  
iSCSI 環境ではネットワークが動作することが前提となります。

- データパスのHDDに、ネットワーク共有を作成する場合は、iSCSIイニシエータを起動し、"ボリュームとデバイス"タブを選択。"自動構成"ボタンをクリックし、OKボタンをクリックする。



•••  
補足

"自動構成"ボタンをクリック後に表示されたドライブまたはデバイスが起動時に有効になるまで、起動を待つようになりますので、若干起動時間が長くなります

## 表示ドライバ

次の手順で表示ドライバをインストールします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windowsを起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』CD-ROMを入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 次のように入力し、[OK] ボタンをクリックします。

- Windows Server 2008 32bit 版の場合：  
d:\Win2008\Drivers\SVGA\ATI\_01\DPInst32.exe

\*d は DVD ドライブ

- 5 画面にしたがってインストールを完了し、CD-ROMをドライブから取り出したあとシステム装置を再起動します。
- 6 ディスプレイの仕様に合わせて画面の解像度を変更します。

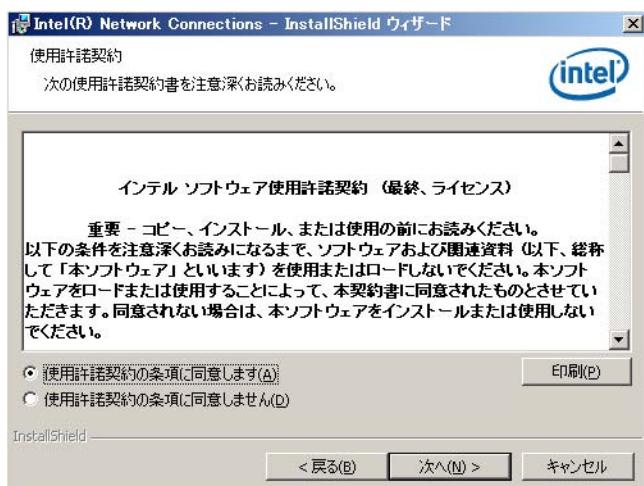
ディスプレイの仕様については各システム装置の『ユーザーズガイド』「5 仕様と付録」「ディスプレイの解像度と色数について」をご参照ください。

## Intel(R) PROSet のインストール

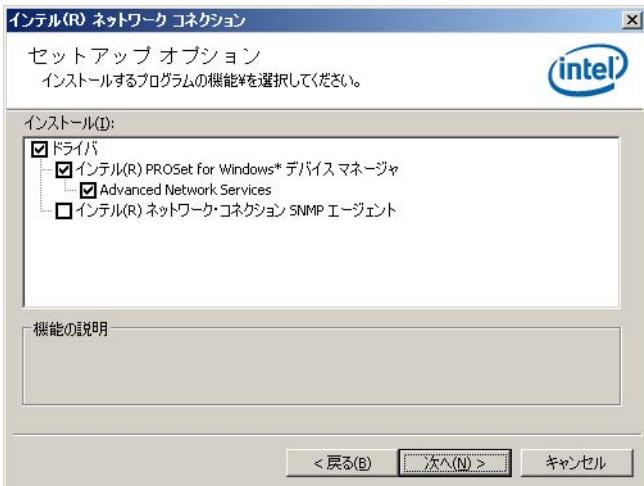
- 1 システム装置の電源を入れ、Windowsを立ち上げ、「Administrator」でログオンします。
- 2 CD/DVD ドライブにシステム装置添付の『SystemInstaller』CD-ROMを入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 以下のファイルを指定して [OK] ボタンをクリックします。  
D:\Win2008\Utility\PROSetDX\APPS\PROSETDX\Vista32\DsSetup.exe
- 5 セットアッププログラムが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認し「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックをして、[次へ] ボタンをクリックします。



- 7 セットアップオプションが表示されますので、「インテル(R) PROSet for Windows\* デバイスマネージャ」と「Advanced Network Services」にチェックが入っていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



「インテル(R) ネットワーク・コネクション SNMP エージェント」にはチェックを入れないでください。

- 8 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されますので、[インストール] ボタンをクリックします。
- 9 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されますので、[完了] ボタンをクリックし、システム装置を再起動します。



Intel(R) PROSet のインストール後、[WMI] の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります。問題ありません。



HDD レスサーバーブレーにおいて、メモリダンプの採取を行うためには、Intel (R) PROSet のインストールが必要です。

### JP1/ServerConductor

「JP1/ServerConductor」は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。インストール手順については『JP1/ServerConductor』 CD-ROM の次のファイルをご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\readmeSA.txt

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

セットアップの詳細は、『ハードウェア保守エージェント』CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 取扱説明書』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf



「ハードウェア保守エージェント」は、インストールしてご使用ください。障害発生時、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

「ハードウェア保守エージェント」を使用するには  
「JP1/ServerConductor」が必要です。ご使用のシステム装置に合わせ、いずれかのインストールを事前に完了しておいてください。

### ダンプファイル作成設定

iSCSI 環境では、通常のダンプファイルの取得設定以外に、下記を実施しておく必要があります。

**1** Intel(R) PROSet をインストールする。



iSCSI 環境でのダンプ採取用ドライバが、コピーされます。

**2** CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れ、以下のバッチを実行する。(d: は CD/DVD ドライブ名とします。)

d:\Win2008\Tools\SCSIDump\SCSI\_DMP.cmd



ダンプ採取用ドライバの設定が行われます。

# インテル® Xeon® プロセッサ 搭載サーバーブレード (HDD レスサーバーブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編

---

この章では、インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレード Windows Server 2003 R2 (32 ビット) モデルについて説明します。

•  
補足

Windows Server 2008 インストール済みモデル (Windows Server 2003 ダウングレード権付き) をご購入いただいた場合、本章では "インストール済みモデル" を "Windows Server 2008 インストール済みモデル (Windows Server 2003 ダウングレード権付き)" と読み替えてください。

電源を入れる／切る	58
システム装置を立ち上げ直す（リセット）	62
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作／設定変更方法	63
付属ソフトウェアの使い方	65
ソフトウェアの使用について	66
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ	79

# 電源を入れる／切る

ここでは、はじめてシステム装置に電源を入れる際の操作の方法や、日常、電源を入れたり切ったりする方法を説明します。

## はじめて電源を入れる

インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレードは、ディスプレイやキーボード、マウスなどのデバイスは接続されません。基本的な操作は、リモートコンソールアプリケーションによりネットワーク経由で行います。Windows の起動後は、リモートデスクトップ接続で操作することも可能です。

Windows インストール済みモデルをご購入いただいた場合、はじめて電源を入れるときは、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードに接続して作業を行ってください。

リモートコンソールへの接続方法、及びリモートコンソールアプリケーションについての詳細は、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照してください。

OS なしサーバーブレードをご購入され、Windows をセットアップする場合は、『Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ』P.79 をご参照ください。

補足

使用許諾契約とは

使用許諾とは、Windows を使用することを許諾するものです。使用許諾契約に同意すると、次回から使用許諾契約の画面は表示されません。再セットアップするときも同意が必要です。

設定手順の表示項目について

以下の手順は、お客様がインストール済みモデルでの工場設定値を何もご指定いただいているない場合について記載しております。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されないあるいは、表示されても入力済みとなっているものがあります。

## □ 電源を入れる

### 1 リモートコンソールでサーバーブレードに接続する準備を行う。

リモートコンソール接続についての詳細は、『リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。

### 2 サーバーブレードの電源を入れる。



電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからシステム装置の電源を入れてください。また、電源を切るときには、システム装置の電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

- 3** システム装置立ち上げ後、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) にログオンする。
- 4** 使用する環境に合わせて設定を行う。

•••  
補足

サーバの構成変更（サービスの追加、プロトコルの追加など）を実施すると「Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」の CD-ROM を要求されることがあります。Windows Server 2003 R2 (32 ビット) インストール済みモデルをご購入の場合、システム装置に添付されている「セットアップ CD」をご使用ください。

- 5** 必要に応じて、残りパーティションを設定する。

詳細については Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の [コンピュータの管理] のオンラインヘルプをご参照ください。

## OS 修正モジュール

OS の修正パッチ、ドライバ、ファームの入手、及び最新情報は、以下の Web サイトで発信しています。また、情報は適時更新されておりますので、定期的な確認をお願いいたします。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony>

[サポート] ページの "ダウンロード" を参照してください。

# 電源を切る

通常は、次の方法でシステム装置の作業を終了して電源を切れます。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする。



いきなり POWERスイッチを押して電源を切らないでください。データが壊れたり、Windows が立ち上がらなくなる場合があります。



[Windows のシャットダウン] が表示される。

- 2 「実行する操作を選んでください」で [シャットダウン] を選択し、「シャットダウンイベントの追跡ツール」でシャットダウンの理由を選択する。



シャットダウンの理由が [その他] の場合は、「説明」を記述する必要があります。

**3** [OK] ボタンをクリックする。

システム装置の電源が切れる。

**4** ディスプレイなどの周辺機器の電源を切る。

## 日常、電源を入れる

2 回目以降は、電源を入れるとすぐにシステム装置を使えます。使用許諾契約や名前と組織名の入力画面などは表示されません。

**1** ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れる。

**2** システム装置前面の POWER スイッチを押す。

【ログオンの開始】画面が表示される。



システム装置の立ち上げ時にキーボードを連打しないでください。  
エラーメッセージが表示される場合があります。

ディスプレイの機種によっては、表示されるまで時間がかかることがあります。

**3** [Ctrl] キーと [Alt] キーとを押したまま [Delete] キーを押す。

【ログオン情報】画面が表示される。



リモートコンソールで接続している場合、[Alt] キーを押したまま [L] キーを押します。

**4** ユーザー名とパスワードを入力して [Enter] キーを押す。

Windows が立ち上がり、デスクトップ画面が表示される。

# システム装置を立ち上げ直す (リセット)

アプリケーションの処理中にシステム装置が動作しなくなった時に、アプリケーションを強制的に終了したり、システム装置を強制的に立ち上げ直したり（リセット）すると、正常に動作するようになることがあります。

## アプリケーションを強制的に終了する

タスクバーをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの【タスクマネージャ】をクリックします。【アプリケーション】タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、【タスクの終了】ボタンをクリックします。

## システム装置を強制的に立ち上げ直す

Windows が正常に動作しなくなった場合には、POWER スイッチを 4 秒以上押して電源を切ってください。ただし、HDD をフォーマットし直さなければシステム装置が使用できなくなる場合があります。



電源を入れた後、Windows が立ち上がるまでは非常時を除いて POWER スイッチを押さないでください。リセットした場合は、一度 Windows を立ち上げて正しく終了してから、立ち上げ直してください。

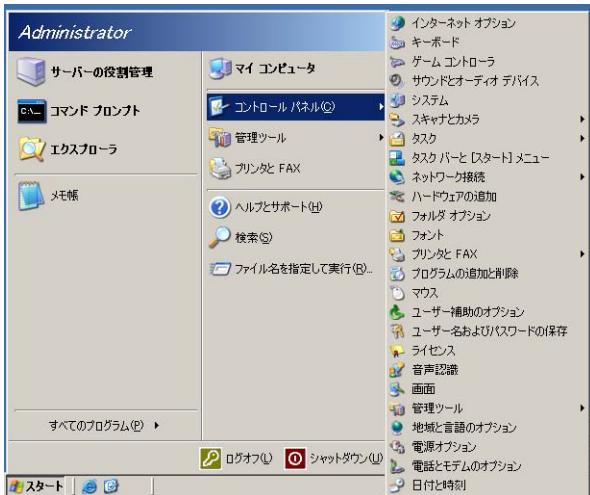
# Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作／設定変更方法

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本的な操作および設定の変更方法を説明します。

## [コントロール パネル] を表示する

[コントロール パネル] 内のアイコンをクリックすることで、システム装置を使いやすいうように設定できます。

**1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をポイントする。



[コントロール パネル] が展開される。

**2** 自分の設定する内容に応じたアイコンをクリックする。

- ◆ [画面] アイコン：  
画面の解像度を変更したり、デスクトップの画像を変更できる。
- ◆ [システム] アイコン：  
Windows のバージョンを調べたり、環境変数やユーザー プロファイルを調べることができる。
- ◆ [プログラムの追加と削除] アイコン：  
システム装置に新しいアプリケーションのインストールや削除を行ったりする。

## ヘルプの使い方

Windows には、使用方法について書かれているヘルプが用意されています。

### □ [ヘルプとサポート] を立ち上げる

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート] をクリックする。  
[ヘルプとサポートセンター] が立ち上がる。

### □ 知りたい操作を調べる

- 1 知りたい操作が書かれているトピックを探す。[ヘルプとサポートセンター] 画面左上にある [検索] に目的のトピックに関連したキーワードを入力し、[→] ボタンをクリックする。  
検索が始まり、しばらくすると検索結果が表示される。
- 2 目的のトピックが見つかったらクリックする。  
トピックが表示される。
- 3 ヘルプ本文を読む。
  - [戻る] ボタン : 直前に表示していたウィンドウに戻る。
  - [オプション] ボタン : 表示する文字の大きさを変更したり、検索オプションの変更が行える。
- 4 ヘルプを終了するには、ウィンドウの右上にある [×] (クローズ) ボタンをクリックする。

## [画面のプロパティ] の使い方

リモートコンソールを使用する場合に設定できる解像度については、「リモートコンソールアブリケーションユーザーズガイド」を参照してください。

# 付属ソフトウェアの使い方

このシステム装置に付属しているソフトウェアについて説明します。

## JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent

JP1/ServerConductor/Agent は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。

また JP1/ServerConductor/Advanced Agent は、電源制御など JP1/ServerConductor/Agent の拡張機能を使用するためのソフトウェアです。

インストールすることで、システム装置を効率よく管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使い方の詳細は『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM の次のファイルを開き、『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド』をご参照ください。

d:\Manual.htm

•••  
補足

画面やマニュアルに「ServerConductor/Agent」という表記がある場合、「JP1/ServerConductor/Agent」と読み替えてご使用ください。

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ハードウェア保守エージェント』CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf

# ソフトウェアの使用について

ここでは、ソフトウェアを使用するときの制限について説明します。

## Windows Server 2003 R2 SP2 (32 ビット) 使用上の制限

### □ SP2 適用時のネットワークに関する注意事項

SP2 インストール後、稀に TCP レイヤの通信プロトコルを使った通信ができないことが確認されています。詳細はマイクロソフト社 KB936594 (<http://support.microsoft.com/kb/936594/ja>) で公開されています。

Setup CD を使用してインストールした場合は、「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の各 LAN コントローラのプロパティにて、「詳細設定」タブ内に [ 受信側スケーリング ] が存在する場合、[ 受信側スケーリング ] が " オフ " であることを確認してください。" オン " の場合、ごく稀に通信が出来ない場合があります。

また、セットアップ CD のみによるインストールの場合には、下記の手順に従って "SNP 無効化ツール" を実行してください。

**1 "SNP 無効化ツール" を実行する。**

d:¥OPTION¥SNPDIS¥SNPDIS.bat

\*d: は CD/DVD ドライブ名

**2 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の各 LAN コントローラのプロパティを開く。**

「詳細設定」タブ内に [ 受信側スケーリング ] が存在する場合、[ 受信側スケーリング ] が " オフ " であることを確認してください。" オン " の場合、ごく稀に通信が出来ない場合があります。

**3 設定完了後、サーバの再起動を行う。**

…  
補足

LAN コントローラによっては [ 受信側スケーリング ] が表示されません。表示されない場合は設定する必要はありません。

## □ ヘルプとサポート

"Help and Support" サービスが消えてしまい、スタートメニューの「ヘルプとサポート」が起動できなくなる現象が確認されています。この場合、次の手順で "Help and Support" サービスを再登録してください。

**1** コマンドプロンプトを開きます。

**2** 次のディレクトリに移動します。

C:\Windows\PCHealth\HelpCtr\Binaries

**3** 次のコマンドを入力し、実行します。

start /w HelpSvc.exe /regserver /svchost netsvcs /RAInstall

**4** [スタート] メニュー → [コントロールパネル] \* → [管理ツール] → [サービス]を開きます。

\* クラシック [スタート] メニューに変更した場合は [設定] → [コントロールパネル]となります。

**5** サービス一覧に "Help and Support" サービスが存在することを確認し、サービスを「開始」します。

なお、詳細については次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/937055/ja>

## □ エクスプローラ

ネットワーク接続した共有フォルダから、エクスプローラを使用してファイルをドラッグ & ドロップすると、「このゾーンからファイルを移動したり、コピーできるようにしますか?」とダイアログが表示されることがあります。

これはSP2でセキュリティが強化されたための仕様となります。コマンドプロンプトでのcopyコマンドなどを使ったファイルコピーでは、ダイアログは表示されません。

## □ セキュリティの構成ウィザード

SP2をアンインストールすると、デスクトップ上の「セキュリティの構成ウィザード」ショートカットアイコンが消えることがあります。

ショートカットで表示される内容は、[スタート]メニュー [ヘルプとサポートセンタ]を起動し、"不要なサービスを無効"で検索し表示される、"セキュリティの構成ウィザード:セキュリティの構成ウィザード"で参照できます。

## □ Windows のシャットダウン

Windows立ち上げ時にスタートするよう登録されたサービスの立ち上げ中にシャットダウンを行うと、正常にシャットダウンできない場合があります。Windowsを立ち上げてから1分間以上時間をあけてください。

## □ ディスクの管理

FAT16 パーティション（[ディスクの管理] では FAT と表示されます）を作成する場合の最大容量は 4,094MB です。

ダイナミックボリュームについては [スタート] メニュー [ヘルプとサポート] を起動し、[ディスクとデータ] — [ディスクとボリュームを管理する] — [ディスクの管理] — [操作方法] — [ダイナミックボリュームを管理する] をご参照ください。

新しいハードディスクの追加／ハードディスクの物理フォーマットを行った場合、[ディスクの管理] を起動した場合に [ディスクのアップグレードと署名のウィザード] のダイアログボックスが表示されます。ダイアログの指示に従いディスクの署名をしてください。

## □ バックアップ

[システムツール] のバックアップと、SQL Server などほかのアプリケーションのバックアップ機能でテープを併用できません。

バックアップ／リストア時、ログに出力される処理したファイルのバイト数がバックアップ時とリストア時で異なります。ただし、バックアップ、リストアが正常に終了した意味のメッセージが表示されていれば問題ありません。

OS 標準のバックアップツールでは、チェンジャ付バックアップデバイスを使用しないでください。LTO チェンジャ等をご使用になる場合は、市販のバックアップアプリケーションを使用してください。

## □ リムーバブルディスクを使用する場合

Windows が立ち上がっている間にリムーバブルドライブのイジェクトボタンを押しても、ディスクが取り出せないことがあります。この場合、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置き、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は、Administrators グループに登録されていないメンバーは行えません。Administrators グループ以外のメンバーでディスクを取り出す場合、以下の方法でポリシーを変更してください。

- 1 [スタート] メニュー — [すべてのプログラム\*] — [管理ツール] — [ローカルセキュリティポリシー] を選ぶ。  
\* クラシック [スタート] メニューに変更した場合は [プログラム] となります。
- 2 [ローカルポリシー] — [セキュリティオプション] にマウスカーソルを合わせクリックする。
- 3 [デバイス：リムーバブルメディアを取り出すのを許可する] にマウスカーソルを合わせダブルクリックする。
- 4 [Administrators] を [Administrators と Interactive Users] に変更し、[OK] ボタンをクリックする。

## □ インターネットエクスプローラ使用上の制限

使用するアプリケーションによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このときは、いったんアプリケーションを最小化するなどして画面を再描画させてください。

## □ 画面表示

タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると正しく表示されます。

使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウィンドウの裏側に隠れて見えないことがあります。

表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了してください。アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正しく表示されます。

リモートコンソールアプリケーションを使う上での注意事項は、『リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。

## □ 節電機能

「スタンバイ」や「休止状態」の機能はサポートしておりません。

スタートメニューの [シャットダウン] より、[スタンバイ]、[休止状態] は選択しないようお願いいたします。

また、電源オプションの [システムスタンバイ]、[ハードディスクの電源を切る]、[休止状態] も使用できません。「なし」の設定のままでご使用ください。

## □ システムが停止したときの回復動作の設定

[自動的に再起動する] チェックボックスは、オフにすることを推奨いたします。

回復動作の設定手順、その他の制限事項については、[スタート] メニュー [ヘルプとサポート] をご参照ください。

## □ 2GB を超える物理メモリで完全メモリダンプを採取する方法

2GB を超えるメモリを搭載したシステム装置に Windows をセットアップした場合、[デバッグ情報の書き込み] で [完全メモリダンプ] は選択できません。2GB を超える物理メモリ環境で [完全メモリダンプ] を採取する場合、次の手順を行ってください。

- 1 CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 2 [スタート] メニュー [ファイル名を指定して実行] を選び、ファイル名に "d:\utility\dump\pmde.bat" と入力し [OK] ボタンをクリックする。

### 3 次のメッセージが表示されたら、何かキーを押す。

「完全メモリダンプを採取する設定に変更します。」

続行するには、何れかのキーを押してください。

中止するには、Ctrl + C を押してください。」

### 4 [コントロールパネル] – [システム] を選び、[詳細設定] タブ – [パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックする。

### 5 [詳細設定] タブ – [仮想メモリ] の [変更] ボタンをクリックする。

### 6 初期サイズを推奨のファイルサイズに変更して [設定] ボタンをクリックし、続けて [OK] ボタンをクリックする。

手順 2 を実行後、[起動と回復] の設定を立ち上げ、[OK] ボタンをクリックすると、[デバッグ情報の書き込み] で選択されているダンプ形式に変更されてしまいます。[OK] ボタンをクリックしてしまった場合は、手順 2 を実行してください。

## □ 「仮想メモリ」 サイズの設定

完全メモリダンプを取得する設定でご使用になる場合、「仮想メモリ」のファイルサイズは物理メモリの容量より大きく設定してください。「仮想メモリ」のファイルサイズを物理メモリより小さく設定しようとすると、「ボリューム c: のページファイルの初期サイズが xxx MB よりも小さい場合、システムは STOP エラーが発生してもデバッグ情報ファイルを作成できない可能性があります。続行しますか?」という警告メッセージが表示されます。この「xxx MB」に設定すると正しく完全メモリダンプが取得されないことがありますので、[xxx+11] MB 以上の大きさにファイルサイズを設定してください。

## □ デバイスマネージャ

- デバイスマネージャで、101/109 キーボードを接続しているにもかかわらず「101/102 英語キーボード」と表示される場合があります。キーボードのキー入力には問題ありませんが、正しく表示させる場合は次をご参照ください。  
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;415060>
- デバイスマネージャに"? SVPMASS"の表示がされる場合がありますが、リモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能に対するデバイスです。リモート FD の使用法については、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照願います。
- デバイスマネージャに"不明なデバイス"が表示される場合がありますが、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD/DVD 機能に対するデバイスです。リモート CD/DVD の使用法については、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照願います。

## □ イベントビューア

- OS の再起動直後に次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：Service Control Manager

イベント ID：7011

説明:Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト (30000 ミリ秒) になりました。

OS の再起動直後の一度のみ記録されるのであれば問題ありません。

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：DCOM

イベント ID：10016

説明：アプリケーション固有権限の設定では、CLSID {BA126AD1-2166-11D1-B1D0-00805FC1270E} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE SID (S-1-5-20) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

システムに影響はありません。なお、イベントログ「説明」内の CLSID、ユーザーについては使用環境により異なる場合があります。

詳細については、マイクロソフト社 ホームページから “KB900377” を検索してご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：NetBT

イベント ID：4307

説明：トランSPORTが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

コマンドプロンプトより、「nbtstat -n」を実行しコンピュータ名が正しく登録されているか確認してください。詳細については、マイクロソフト社 ホームページからイベント検索などでご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/support/default.mspx>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：情報

イベント ソース：Application Popup

イベント ID：41

説明：このマルチプロセッサ システムの CPU は、一部が同じリビジョン レベルではありません。すべてのプロセッサを使用するためにはオペレーティング システムをシステムで可能な最小のプロセッサに制限します。このシステムで問題が発生する場合は、CPU 製造元に問い合わせてこの混合プロセッサがサポートされているかどうかを確認してください。

これはサーバーブレードに搭載されている複数のCPUのステッピングレベルがすべて同じではない場合に発生しますが、動作検証済みであり問題ありません。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/support/default.mspx>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類 : エラー

イベント ソース : WMIxWDM

イベント ID: 106

説明: 報告されたマシンチェックイベントは修正されたエラーです。ブ

ロセッサー内部キャッシュの ECC エラーの発生を意味します  
が、自動的に訂正されるため問題ありません。

## □ USB フロッピードライブを使用する場合

USB フロッピードライブを接続した状態で Windows のセットアップを行った場合、システムイベントログに以下のイベントが記録される場合があります。

ソース : Sfloppy

種類 : 警告

イベント ID : 51

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Floppy0 上でエラーが検出されました

セットアップ以降、このエラーが表示されなければ問題ありません。

## □ LAN デバイスで WOL(Wake On Lan) 機能を使用する場合

標準の状態では、LAN デバイスの WOL 機能を使用できない場合があります。デバイスマネージャから、WOL を使用する LAN アダプタのプロパティを開き、[ 詳細設定 ] タブまたは [ 電力の管理 ] タブで以下の項目をデフォルト値から変更してください。

- Intel(R) PRO/1000 EB Backplane Connection with I/O Acceleration

(1) Intel(R) PROSet をインストールしていない場合

[ 詳細設定 ] タブで "PME をオンにする" を "オン" に設定する



## (2) Intel(R) PROSet をインストールしている場合

[電力の管理] タブで "電源オフ状態からの Wake On Magic Packet" にチェックを入れる



## 補足

Intel(R) PROSet のバージョンの確認は、[コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] から行ってください

- Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port Server Adapter

この内蔵 LAN での WOL は未サポートです。

LAN デバイスの確認方法については、次の「ローカル エリア接続について」を参照願います。

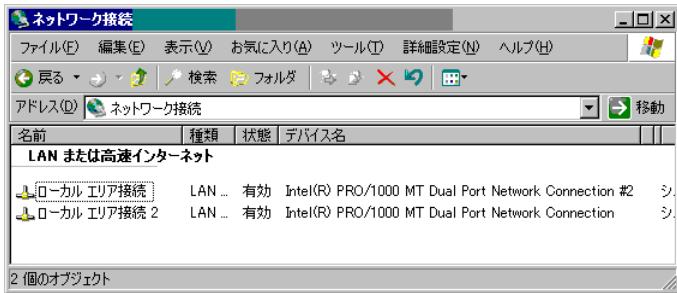
## □ ローカル エリア接続について

[コントロールパネル] - [ネットワークの接続] を開くと、"ローカル エリア接続 x" (x は数字) という名前でネットワークの接続が表示されます。"ローカル エリア接続" に付随する番号と、"デバイス名" に表示されている LAN デバイスの番号は独立したもので、必ず一致するわけではありません。また、"ローカル エリア接続" に付随する番号と、BladeSymphony SP のシャーシ背面にある、スイッチのサービス LAN ポートとの関係も独立しており、たとえば "ローカルエリア接続" (番号無し) が、必ずシャーシ背面からみて右側のスイッチのサービス LAN ポートに対応するわけではありません。

はじめてネットワークの設定を行う場合は、"ローカル エリア接続" と LAN デバイス、スイッチのサービス LAN ポートの対応を確認した上で、設定を行ってください。また、"ローカル エリア接続" の名前は変更可能ですので、確認後、使用環境でわかりやすい名前をつけておくことを推奨します。

## [ サーバーブレード内蔵 LAN デバイスの確認手順 ]

- 1 スタートメニューから、[コントロールパネル] - [ネットワーク接続] をマウスでポイントし、右クリックで表示されるメニューから“開く”を選択し、[ネットワーク接続]を開く。



- 2 調べたい“ローカルエリア接続”的上にマウスを右クリックし、表示されるメニューから“プロパティ”を選択し、プロパティを開く。



- 3 [全般] タブの [構成] ボタンを押す。



#### 4 LAN デバイスのプロパティに表示された内容で、“場所：“ の “機能” を確認する。

- “機能” が 0 であれば、シャーシ後ろから見て右側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続
- “機能” が 1 であれば、シャーシ後ろから見て左側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続



PCI バス NO.10 のデバイスについては、iSCSI ストレージに接続しているため設定変更しないでください。

#### OS インストールメディア

BladeSymphony SP Setup CD を使って OS セットアップを行う場合、使用する OS メディアに制限があります。詳細は [『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ](#) P.81 を参照してください。

### □ SAN 記憶域マネージャの制限

Windows Server 2003 R2 の追加コンポーネントである「SAN 記憶域マネージャ」を使用するには、Microsoft 社の VDS (Virtual Disk Service) 1.1 以降に対応したストレージサブシステムが必要です。2006/3 時点で SAN 記憶域マネージャの使用はできません。

### □ ネットワークアダプタの TCP/IP Checksum Offload 機能について

オンボード LAN アダプタおよび拡張 LAN ボードは、TCP/IP プロトコルのチェックサム計算を LAN コントローラにて実施する機能をもっていますが、本機能は用いずに OS 側で標準的に備えている TCP/IP のチェックサム計算機能をお使いになることを推奨します。

OS 側で計算するように設定した場合、OS のプロトコル処理の最終段階で、ネットワークから受信したパケットデータの整合性確認が行われることになり、より信頼性の高いシステムを構築いただけます。

LAN コントローラによるチェックサム機能をオフにするには、次の方法で LAN アダプタの設定を変更してください。



デバイスマネージャから各 LAN アダプタのプロパティを開き、[ 詳細設定 ] タブで下記項目の設定を「オフ」にしてください。Intel® PROSet がインストールされている場合は [ 詳細設定 ] タブ-[TCP/IP オフロードオプション]-[ プロパティ ] から、下記項目のチェックボックスをオフにしてください。

設定を変更した後は、システム装置を再起動してください。

- “受信 IP チェックサムのオフロード”
- “受信 TCP チェックサムのオフロード”
- “送信 IP チェックサムのオフロード”
- “送信 TCP チェックサムのオフロード”

## □ Windows Server 2003 のファイアウォール機能を使用する場合

Windows Server 2003 のファイアウォール機能を使用する場合、以下のエラーイベントがシステムイベントログに記録されます。

ソース :iSCSIprt

ID:20

種類 : エラー

Connection to the target was lost. The initiator will attempt to retry the connection.

ソース :iSCSIprt

ID:7

種類 : エラー

The initiator could not send an iSCSI PDU. Error status is given in the dump data.

このエラーは Windows ファイアウォールのサービスである "Windows Firewall/Internet Connection Sharing (ICS)" サービスが起動していると、OS 起動中も通信を遮断するために発生します。

HDD レスサーバーブレードで、Windows のファイアウォール機能を使用する場合は、以下の手順に従い設定を変更してください。設定を行うと、OS が起動してからファイアウォールが有効になります。

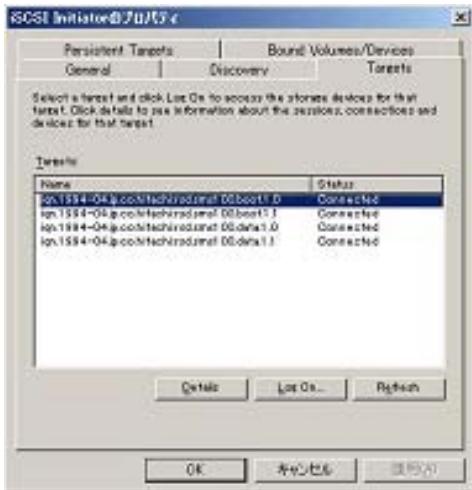
Windows のファイアウォールを使用する場合、ご使用の環境に合わせて適切に設定してください。

…  
補足

コントロールパネルの "Windows ファイアウォール" ダイアログの "全般" タブで、ファイアウォールが "無効" に設定していても、ファイアウォールの実体である "Windows Firewall/Internet Connection Sharing (ICS)" サービスのスタートアップの種類が "自動" になっている場合、同様にエラーイベントが記録されますので設定を行ってください。スタートアップの種類は、コントロールパネルの [ 管理ツール ]-[ サービス ] で確認してください。

…  
補足

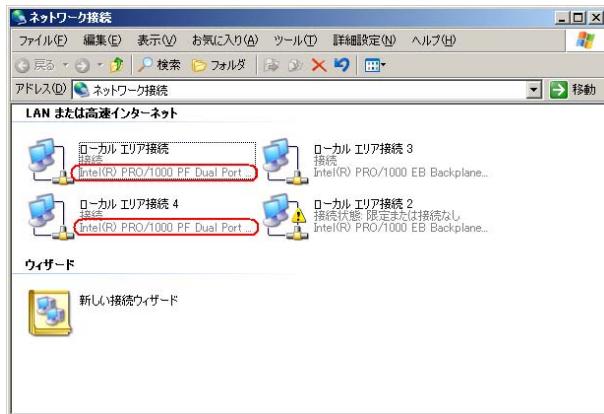
HDD レスサーバーブレードで、Windows のファイアウォール機能の使用により OS 起動中に上記エラーイベントが発生しても、通常は iSCSI 接続が自動的に回復します。接続が正常に回復していることを確認するには、デスクトップもしくはコントロールパネルから 「Microsoft iSCSI Initiator」を選択して開き、Targets タブから、下の画面例のように全てのターゲットが 「Connected」 になっている事を確認してください。



**1 「Administrator」でログオンする**

**2 ファイアウォール設定を行うネットワーク接続を確認する。**

- スタートメニューから、[コントロールパネル]-[ネットワーク接続]を開く。
- "Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port Server Adapter"を使用しているネットワーク接続を確認する。



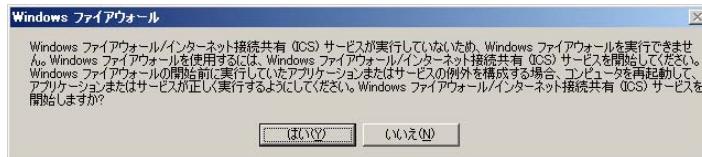
例 )

例では、"ローカルエリア接続"と"ローカルエリア接続4"が"Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port Server Adapter"を使用。

**3 スタートメニューから、[コントロールパネル]-[Windows ファイアウォール]を開く。"Windows ファイアウォール"が起動します。**

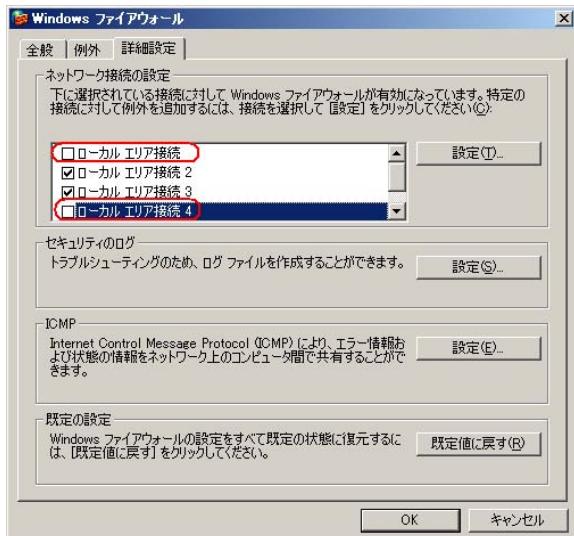
•••  
補足

"Windows Firewall/Internet Connection Sharing (ICS)"サービスが起動していない場合、起動確認のダイアログが表示されますので「はい」を選択してください。



設定が完了していないため、「はい」を押した時点でエラーイベントがシステムイベントログに記録されます。

**4 "詳細設定"タブを選択し、手順2で確認したネットワーク接続のチェックを外し、OKをクリックする。**



**5 ファイアウォールサービスの起動時設定のレジストリを設定する。**

- a) メモ帳などを使用し、下記内容を "IPNET\_SET.REG" のファイル名でファイルに保存する。

```
Windows Registry Editor Version 5.00

[HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\IpNat\Parameters]
"DisableBootTimeSecurity"=dword:00000001
```

- b) 保存した IPNET\_SET.REG をダブルクリックする。  
 c) 追加確認のダイアログが表示されるので、「はい」を選択する。  
 d) 追加完了のダイアログが表示されるので、「OK」を押下する。

# Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ

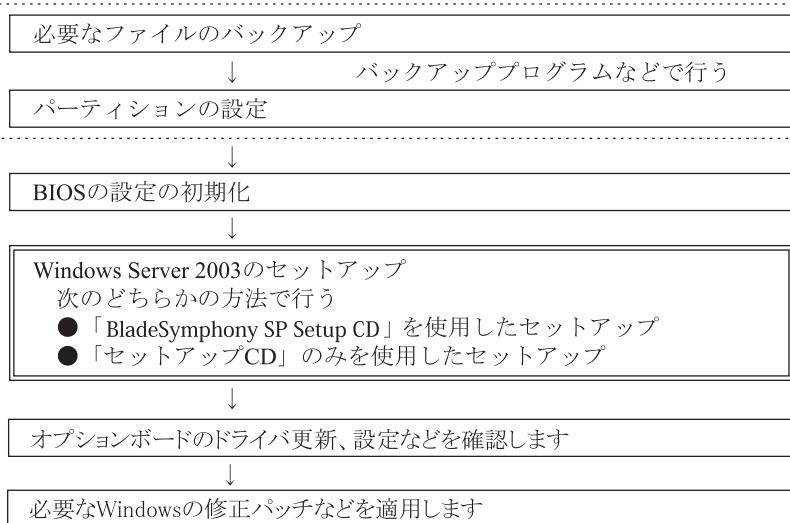
ここでは、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) モデルの初期設定を完了したあとの状態にセットアップし直す手順について説明します。OS なしサーバーブレードに、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) をセットアップするときも同様の手順で行ってください。

…  
補足

本資料で対象とするのは、iSCSI ストレージへの Windows セットアップのみです。

## Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの流れ

[ ] は必要に応じて行います。



セットアップし直すと、HDD の内容は削除されます。必要なファイルは事前にバックアップをお取りください。

再セットアップするときは「セットアップ時の制限」をご参照ください。

パーティションの設定については Windows Server 2003 R2(32 ビット)の[コンピュータの管理]のオンラインヘルプをご参照ください。

## BIOS 設定の確認

お使いの装置の構成に応じて、BIOS の設定を見直してください。OS の再セットアップを行う場合は、ハードウェア構成に変更が無ければ特に作業は必要ありません。

BIOS の設定項目詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

## Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの詳細

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップは、「『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ」と「『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ」のどちらかの方法で行なうことができます。

「『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ」はインストール時にドライバー FD などの入れ替えが必要はありませんがインストールに時間がかかります。「『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ」はインストール時にドライバー FD の入れ替えが必要ですが、インストールの時間は比較的短くてすみます。用途に応じて選択してください。

…  
補足

標準の CD/DVD ドライブ名は、HDD の次になります。  
あらかじめ、CD/DVD ドライブのドライブ名をご確認ください。

本マニュアルでは、セットアップに使用する CD-ROM を以下の名称で説明します。

省略名称	
「セットアップ CD」	Windows Server 2003 R2 インストール済みモデル付属の「サーバインストール CD-ROM Disc 1」
	一般の「Windows Server 2003」CD-ROM
	一般の「Windows Server 2003 R2 Disc 1」CD-ROM
「セットアップ CD 2」	Windows Server 2003 R2 インストール済みモデル付属の「サーバインストール CD-ROM Disc 2」
	一般の「Windows Server 2003 R2 Disc 2」CD-ROM

## □ 『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ

ここでは、システム装置に付属している Windows セットアップ支援ソフトウェア『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ方法を説明します。『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップでは、iSCSI セットアップドライバ、VGA ドライバのインストールが自動的に行われます。



### 制限

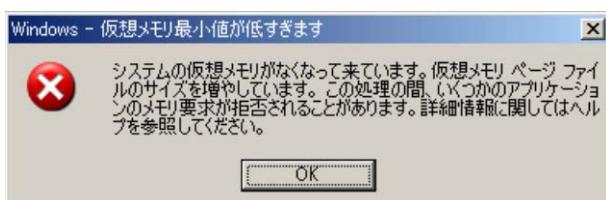
- BladeSymphony SP Setup CD でインストールできるのは、日本語版 OS のみです。英語版、他言語版、マルチランゲージ版はインストールできません。
- BladeSymphony SP Setup CD の各バージョンで使用できる OS メディアは以下です。  
下記バージョン以降の BladeSymphony SP Setup CD で各 OS メディアに対応します。

対応 OS メディア		
Windows Server 2003 R2		
初版	With SP2	
C51F3	01-00	01-00

インストールに使用する OS メディアは、SP2 適用済メディア以降を推奨します。

SP2 が適用されていない OS メディアを使用してインストールできますが、インストール後、必ず SP2 を適用してください。

- BladeSymphony SP Setup CD で Windows Server 2003 R2 With SP2 の OS メディアをセットアップに使用する場合、セットアップ中に以下のようなポップアップメッセージが表示される場合がありますが、セットアップに影響はありません。



[OK] をクリックして、セットアップを続行してください。

### セットアップ時の制限

- セットアップ時には、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードと接続してください。CD-ROM/DVD-ROM ドライブは、サーバーブレード前面の USB ポートに直に接続することを推奨します。
- パーティション (ドライブ) の設定
  - ブートディスク (LU) のサイズ  
ブレードから見える物理的なディスク (iSCSI ストレージ接続環境では LU) サイズは、8GB 以上にしてください。それ以下では BladeSymphony SP Setup CD でインストールはできません。

- インストールするパーティション (ドライブ)  
ブートディスクの最初のパーティションにインストールします。インストール先のパーティション内のプログラムやデータはすべて削除されます。
- パーティションのサイズについて  
指定できるパーティションのサイズは、以下の通りです。  
ただし、作成可能なパーティションのサイズはディスクやパーティション構成によって異なります。  
4000MB ~ 最大 250000MB

補足

250000MB を超えるパーティションサイズが必要な場合は、『セットアップ CD』のみを使用してセットアップを行ってください。

→ 『『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ』 P.97

- パーティションのファイルシステムについて  
パーティションのファイルシステムは NTFS になります。
- CD-ROM のイジェクトについて
  - CD/DVD ドライブのイジェクトボタンは、CD-ROM メディア交換時以外に押さないでください。ボタンを押された場合、インストールをやり直す必要があります。
- イニシエータ CD について  
インストール作業の前に、別な作業用 PC でソフトウェアイニシエータを入手し、イニシエータ CD を作成する。  
サポートしているソフトウェアイニシエータは、次のバージョン以降です。
  - Microsoft iSCSI Software Initiator Version 2.07 [boot version]

補足

ダウンロードセンタから、ボタン押下でダウンロードできるイニシエータは、ブート非対応のものです。

ブート対応のイニシエータは、ブート非対応イニシエータのダウンロードページで "Overview" に記載されている x86 用の URL を直接指定してダウンロードするか、下記 URL からダウンロードしてください。

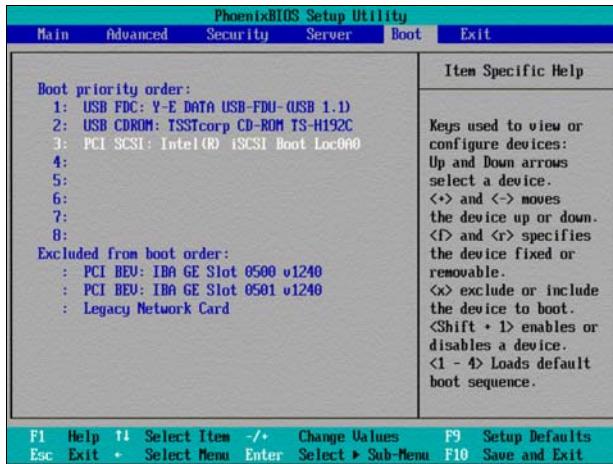
<http://download.microsoft.com/download/f/1/3/f136d796-5342-4479-80a7-0e6fae3875ee/Initiator-2.07-boot-build3640-x86fre.exe>

[2008 年 5 月 15 日現在の URL]

なお、イニシエータ CD とは上記入手ファイルを入れた CD です。

- OSのインストールに使用するLUは、LUN0をOS用に使用するようiSCSIストレージの設定を行ってください。また、サーバブレード起動時、F2キーを押してシステムBIOSのメニューに入り、ブートプライオリティが下記の通りに設定されていることを事前に確認してください。

- ◆ 見えているLUの中で該当LUのブートプライオリティが一番高くなっていること
- ◆ CD/DVD ドライブのブートプライオリティが、該当LUのブートプライオリティより高くなっていること



## セットアップ手順



複数のHDDレスサーバーブレードが同時にiSCSIストレージを使用している環境では、iSCSIストレージへのトラフィックが集中するため、HDDレスサーバーブレードとiSCSIストレージが一対一で接続されている環境と比較してOSのインストールに時間がかかる場合があります。

- 1 システム装置の電源を入れたら、すぐに『BladeSymphony SP Setup CD』をCD/DVD ドライブに入れる。

しばらくして、[注意] の画面が表示される。



実行[Enter] 終了[F3]

●●●  
補足

注意の画面が表示されない場合、電源投入後、[F12] キーを押して BIOS のブートメニューで CD-ROM のブートプライオリティを上位に設定してください。(設定方法は、ユーザーズガイドの「5 章 ブレードサーバシステムの BIOS の設定の詳細」を参照してください)

!  
制限

本プログラムを実行するとハードディスクの内容が変更されます。必要なデータなどがある場合は回復作業を中断して先にバックアップを取ってください。

## 2 [Enter] キーを押す。

[OS 選択] の画面が表示される。

●●●  
補足

HDD レスサーバーブレードは Standard Edition のみ対応しています。

## 3 Windows Server 2003 R2 を選択して、[Enter] キーを押す。

[インストールの方法] の画面が表示される。



## 4 インストール方法を選択し、[Enter] キーを押す。

「1. 新規インストール」を選択した場合、手順 5 へ進む。



「1. 新規インストール」を選択すると、起動するハードディスクの内容はすべて削除されます。

ディスク上に複数のパーティションがある場合、「2. 既存のパーティションを残してインストール」を選択すると最初のパーティション以外を残すことができます。ただし、最初のパーティションの内容はすべて削除されます。



次のような場合は「2. 既存のパーティションを残してインストール」が選択できません。

- ディスク上にパーティションが一つしかない場合
- ディスクの最初のパーティションまたは空き領域に充分なインストール容量が確保できない場合
- パーティションテーブルの記述に誤りがある場合

**5** [新規インストール] の画面が表示されるので、[Y] キーを選択し、[Enter] キーを押す。

手順 7 へ進む。

**6** [確認] または [パーティションの削除] の画面が表示されるので、[Y] キーを選択し [Enter] キーを押す。

手順 7 へ進む。



[確認] 画面は、インストールするハードディスクの最初の領域に 4GB 以上の空きがある場合に表示されます。

[パーティションの削除] 画面は、インストールするハードディスクの最初に 4GB 以上のパーティションがある場合に表示されます。

**7** [パーティションサイズ] の画面が表示されるのでパーティションサイズを入力し、[Enter] キーを押す。

[インストール先指定] の画面が表示される。

**8** インストール先のディレクトリを 11 文字以内で入力し、[Enter] キーを押す。

[インストール確認] の画面が表示される。

(入力例) ¥WINDOWS

**9** 設定内容を確認し、[Enter] キーを押す。

[最終確認] の画面が表示される。



入力[Y][N] 実行[Enter] 終了[F3]

**10** [Y] キーを選択し、[Enter] キーを押す。

パーティションの作成、ハードウェアの検出が開始され、しばらくすると [CD 入れ替え] の画面が表示される。



続行[Enter] 中止[ESC]

**11** 「セットアップ CD」を CD/DVD ドライブに入れ替えて、[Enter] キーを押す。

ファイルコピーが開始される。

ファイルコピーが完了すると、[CD 入れ替え] の画面が表示される。



**12** 「セットアップ CD 2」を CD/DVD ドライブに入れ替えて、[Enter] キーを押す。

「セットアップ CD 2」が確認されると、システム装置が再起動する。

しばらくすると [Windows セットアップウィザードの開始] 画面が表示される。

**13** [次へ] のボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示される



システムが再起動してからライセンス契約画面を過ぎるまでキー ボードが使用できません。必ずマウスで操作を行ってください。

**14** [同意します] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

しばらくすると [地域と言語のオプション] 画面が表示される。



Windows のインストール途中に、[セキュリティの警告 - ドライバーのインストール] 画面または [ソフトウェアのインストール] 画面、[ハードウェアのインストール] 画面が表示される場合があります。[はい] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

**15** 必要に応じてカスタマイズを行い、[次へ] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの個人用設定] 画面が表示される。

**16** 名前を入力する。必要に応じて組織名を入力する。



稀に Enter キーが押されたままの状態となるためにエラーメッセージが連続表示されることがあります。このような状態になった場合は、Enter キーを 1 度押して、状態を回復してください。

- 17 [次へ] ボタンをクリックする。
- 18 [プロダクトキー] 画面が表示された場合、システム装置に貼られている「Certificate of Authenticity シール」のプロダクトキーを入力して、[次へ] ボタンをクリックする。  
[ライセンス モード] 画面が表示される。
- 19 使用するライセンスマードを選択して、[次へ] ボタンをクリックする。  
[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示される。

●●●  
補足

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) は、5 クライアントアクセス ライセンスが含まれています。

- 20 コンピュータ名を入力する。必要に応じて Administrator のパスワードを入力して、  
[次へ] ボタンをクリックする。  
[日付と時刻の設定] 画面が表示される。

●●●  
補足

コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。

コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。

設定したパスワードを忘れてしまうと、次回の立ち上げから Windows にログオンできなくなります。その場合、Windows を再インストールする必要があります。

Administrator のパスワードを設定しないと、警告のポップアップ メッセージが表示されます。パスワードの設定をしない場合は [はい] ボタンをクリックして先に進んでください。

- 21 表示されている日付と時刻の確認（必要に応じて変更）を行い、[次へ] ボタンをクリックする。  
しばらくすると [ネットワークの設定] 画面が表示される。
- 22 [標準設定] か [カスタム設定] のどちらかをチェックして [次へ] ボタンをクリックする。
- 23 [カスタム設定] を選択した場合は、[ネットワークコンポーネント] 画面が表示されるので、必要となるコンポーネントをインストールし [次へ] ボタンをクリックする。  
[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示される。
- 24 使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ] ボタンをクリックする。  
以降、インストール処理が行われ、しばらくするとシステム装置が立ち上げ直される。

**25** システム装置が立ち上がったあと、Windows にログオンする。

以下の [R2 セットアップ継続] 画面が表示される。



**26** CD-ROM ドライブに「セットアップ CD 2」が入っているのを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

しばらくするとセットアップが完了し、以下の画面が表示される。



**27** [OK] ボタンをクリックしログオンが完了したら、スタートメニューから再起動を行う。

•••  
補足

セットアップ完了後、再起動をしないと画面の表示などが Windows Server 2003 のままで、Windows Server 2003 R2 と表示されません。

**28** システム装置が立ち上がった後、Windows にログオンする。

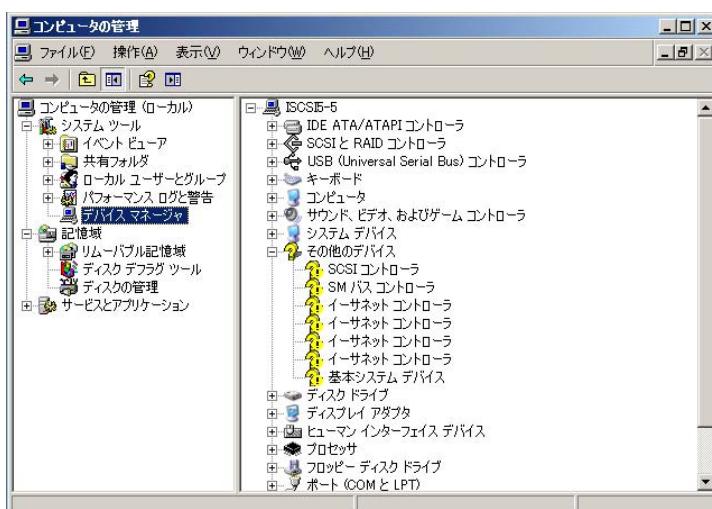
**29** "Windows Server 2003 R2 Standard Edition with SP2 x86" 以外のメディアを使用して、OS のインストールを行った場合、再起動後、次項以降を実施する前に、サービスパック 2 を適用し、サーバの再起動を行う。

•••  
補足

サービスパック 2 の適用を行わなかった場合、次項以降の設定が正常に行われません。

**30** 次の手順にて、ブートパス以外の LAN に、LAN ドライバを適用する。

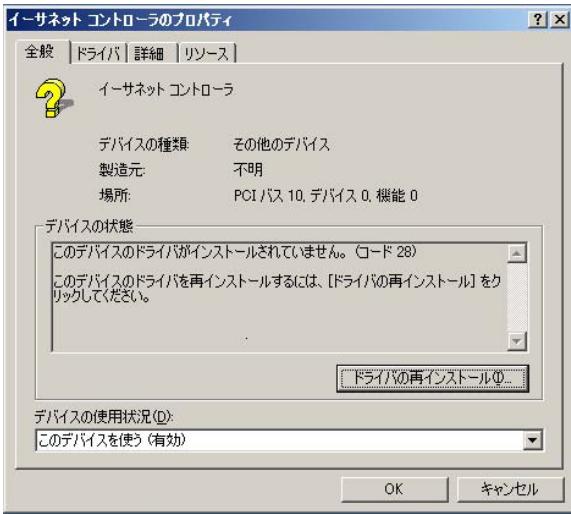
**31** 「コンピュータの管理」-「デバイスマネージャ」を起動し、4 つのイーサネットコントローラに、ドライバが適用されていないことを確認する。



- 32** 各イーサネットコントローラのプロパティの"場所"表示を参照し、ブートパスを確認する。

プロパティの「全般」タブを参照してください。

- a) 場所 : PCI バス 10、デバイス 0、機能 0 . . . . . iSCSI ブートのプライマリパス (ブートパス)
- b) 場所 : PCI バス 10、デバイス 0、機能 1 . . . . . iSCSI ブートのセカンダリパス
- c) 場所 : PCI バス 5、デバイス 0、機能 0 . . . . . 管理または業務ネットワーク用
- d) 場所 : PCI バス 5、デバイス 0、機能 1 . . . . . 管理または業務ネットワーク用



- 33** CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。

- 34** 前手順で確認した、iSCSI ブートのプライマリパス (ブートパス | 場所 : PCI バス 10、デバイス 0、機能 0) 以外の LAN デバイスを右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

- 35** "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

- 36** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

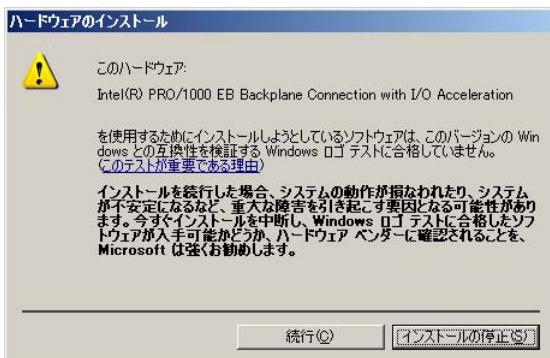
- 37** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

d:¥C51x3¥F¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

下記の画面が表示される場合は、続行を選択してください。



**38** [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

**39** LAN ドライバーの更新をしていないブートパス以外のネットワークアダプタが残っている場合は、

手順 34 ~ 38 をネットワークアダプタごとに繰り返す。

**40** [その他のデバイス] - [基本システムデバイス] を右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

**41** "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**42** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**43** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

d:\¥C51x3¥F¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

**44** [完了] ボタンをクリックする。

■ ドライバーのセットアップ時、「このハードウェアを開始できません」と表示される場合がありますが、システム装置を再起動することにより正常に動作します。[デバイスマネージャ] で、デバイスが正常に動作していることをご確認ください。

■ 毎回のシステム起動時にネットワークアダプタでエラーイベントログが発生することがあります。ネットワークアダプタがリンクダウンしている可能性があります。

[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタが接続されていることをご確認ください。Intel(R)PROSet をインストールしている場合は、[デバイスマネージャ] で対象のネットワーク

アダプタを右クリックして、メニューから「プロパティ」をクリックし、[リンク速度] タブ (Intel(R)PROSet のバージョンにより [リンク] タブとして表示されることがあります) の「リンクのステータス」の状態から確認することもできます。



オンボード LAN デバイスの回線速度は変更できません。



リンクアップ時、ネットワークのプロパティやタスクトレイのネットワーク状態がすぐに更新されない場合があります。状態を確認するため、ネットワークのプロパティにて、[表示] - [最新の情報に更新] を選択してネットワーク状態の更新を行ってください。

- 45 "システム設定の変更"ダイアログにて、"はい"をクリックし、サーバの再起動を行う。
- 46 再起動後、「Administrator」でログオンする。
- 47 CD/DVD ドライブに手順P.82セットアップ時の制限で作成した イニシエータCDを入れる。
- 48 iSCSI Initiator のインストーラ [Initiator-2.07-boot-build3640-x86fre.exe]を実行し、インストーラが起動したら、「次へ」ボタンをクリックする。



- 49 全てのチェックボックスにチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックする。



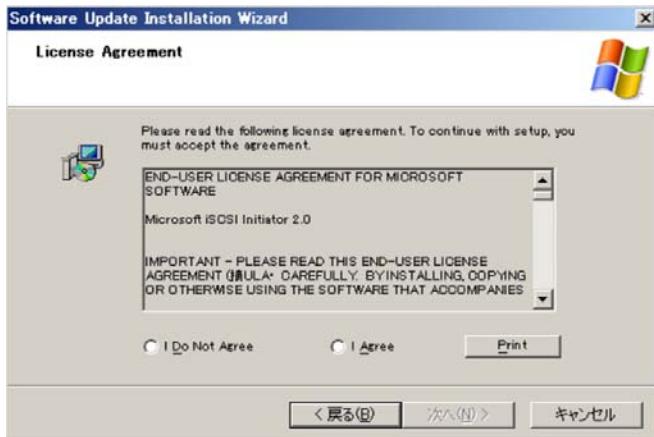
- 50** 「Configure iSCSI Network Boot Support」にチェックを入れ、「Description」表示が「Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port...」である行を選択し、「次へ」ボタンをクリックする。



•••  
補足

上記 iSCSI Initiator の設定にて、選択する LAN デバイスを誤ると OS の再インストールが必要になりますので、よく確認した上でつぎの手順に進んでください。

- 51** 「I Agree」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする。



- 52** iSCSI Initiator のインストール完了後、「完了」ボタンをクリックする。



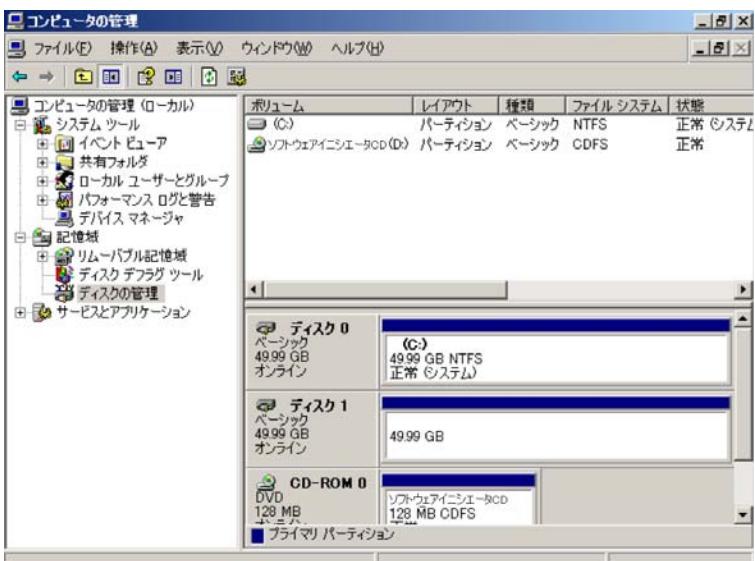
- 53** インストール完了後、"Reboot Required" ダイアログにて、"はい"をクリックし、サーバの再起動を行う。



補足

"Reboot Required" ダイアログは、iSCSI initiator のインストールランチャの後に隠れている場合があります。

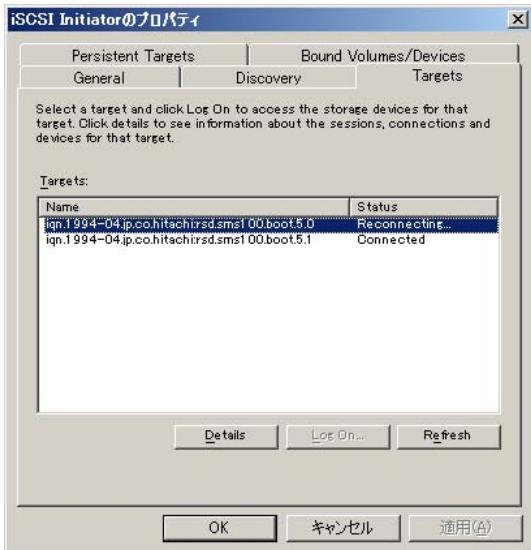
- 54** 再起動後、「Administrator」でログオンし、「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」で Logical Unit が認識されていることを確認する。



●●●  
補足

ディスク 0 と同容量のディスクが認識されますが、そのディスクには何もしないでください。

- 55** デスクトップ上の「Microsoft iSCSI Initiator」アイコンをダブルクリックし、"iSCSI Initiator" のプロパティを表示する。
- 56** 「Targets」タブを選択し、" ~ boot.x.0" の「Status」が "Reconnecting" であること、" ~ boot.x.1" の「Status」が "Connected" であることを確認しプロパティを閉じる。

●●●  
補足

Intel iSCSI Setup Driver で接続されているため、この段階では "Connected" にはなりません。

- 57** 「Administrator」でログオンし Blade Symphony Setup CD を CD/DVD ドライブ(USB ドライブ)に入れる。
- 58** Blade Symphony Setup CD 上の、iSCSI App [iSCSIApp.exe] を実行する。  
d:¥C51x3¥F¥WIN2003¥iSCSI¥SETUP¥iSCSIApp.exe  
"iSCSI Setup Uninstall" ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンをクリックしてください。  
続いて「OK」ボタンをクリックしてください。

●●●  
補足

これによって、シングルバス起動のセットアップドライバが無効化され、"iSCSI Initiator" で提供される、マルチバス対応の起動ドライバでの起動に替わります。

- 59** 再起動後、「Administrator」でログオンし、CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 60** ブートバスの LAN デバイスに、手順 34 ~ 38 にて、LAN ドライバを適用する。

**61** コマンドプロンプトを起動し、「iscsibcg.exe /verify /fix」コマンドを実行する。

以下のメッセージが表示されることを確認してください。

「Nic Service used for iSCSI Boot is e1express

Driver e1express is not set to boot start

Driver e1express fixed to be boot start

All iSCSI boot verification checks completed」

•••  
補足

「iscsibcg.exe /verify /fix」では「iscsibcg.exe」と「/verify」の間、及び「/verify」と「/fix」の間にスペースを一つ含みます。

**62** OS を再起動する。**63** [スタート] - [コントロールパネル] - [システム] を選ぶ。

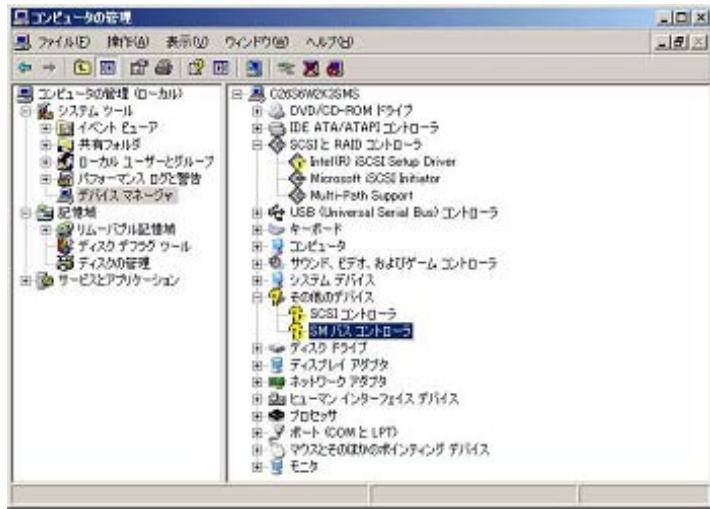
[システムのプロパティ] が表示される。

**64** [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] が表示される。



**65** 一覧から [iSCSI Setup Driver] を右クリックし [削除] をする。



**66** 「iiscsibcg ユーティリティ自動実行を構成する」P.112 に進み、残りのセットアップ手順を実施してください。

□ 『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ方法を説明します。

『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップでは、iSCSI セットアップドライバ、表示ドライバは自動的に、セットアップされます。

『セットアップ CD』のみを使用したセットアップでは、これらのドライバも個々にセットアップする必要があります。

セットアップの全体の流れは「Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの流れ」P.79 をご参照ください。

…  
補足

『セットアップ CD』を使用したセットアップの場合、Windows のブートデバイス用ドライバーをインストールするため、FD ドライブを使用する必要があります。CD-ROM ドライブと FD ドライブを同時に使用する必要があるため、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD 機能を使用してください。

BladeSymphony SP Setup CD を使用したインストールでは FD ドライブは必要ありません。FD ドライブが無い環境で、インストールを行う場合は BladeSymphony SP Setup CD を使用することを推奨いたします。

## セットアップ時の制限

### ■ パーティション (ドライブ) の設定

インストールするパーティション (ドライブ)

HDD の最初のパーティションにインストールしてください。

### ■ Windows Server 2003 セットアップ時に報告されている現象

Windows Server 2003 の OS メディアを使用してのインストール時、Microsoft 社より以下の現象が報告されております。詳細は、以下の web サイトで KB (番号) を検索してください。

<http://support.microsoft.com/>

KB827052 Universal serial bus (USB) input devices may not work when unsigned drivers are being installed during Windows Setup

⇒ USB 接続のマウス・キーボードがセットアップ中動作しない場合があります。セットアップが終了すれば問題ありません。

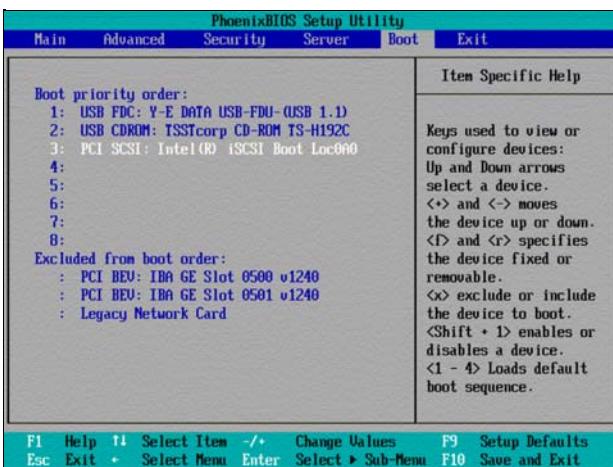
### ■ リモートコンソールアプリケーションのリモート FD について

リモートコンソールアプリケーションのリモート FD をを使った場合、Windows セットアップ時にドライバ FD を認識させることはできません。FD を使用する場合は、USB FD ドライブをサーバーブレード前面の USB ポートに接続してください。

BladeSymphony SP Setup CD でのインストールにおいてはUSB FD ドライブは必要ありません。

### ■ OSのインストールに使用するLUは、LUN0をOS用に使用するようiSCSIストレージの設定を行ってください。また、サーバーブレード起動時、F2キーを押してシステム BIOS のメニューに入り、ブートプライオリティが下記の通りに設定されていることを事前に確認してください。

- ◆ 見えているLUの中で該当LUのブートプライオリティが一番高くなっていること
- ◆ CD/DVD ドライブのブートプライオリティが、該当LUのブートプライオリティより高くなっていること





複数のHDD レスサーバーブレードが同時に iSCSI ストレージを使用している環境では、iSCSI ストレージへのトラフィックが集中するため、HDD レスサーバーブレードと iSCSI ストレージが一対一で接続されている環境と比較して OS のインストールに時間がかかる場合があります。

**1 インストール作業の前に、別な作業用 PC でブートデバイス用ドライバー FD を用意する**

『BladeSymphony SP Setup CD』内の下記ファイルを実行  
d:\¥C51x¥F¥WIN2003\iSCSI\¥MKFD.bat

インストール作業の前に、別な作業用 PC でソフトウェアイニシエータを入手し、イニシエータ CD を作成する。

サポートしているソフトウェアイニシエータは、次のバージョン以降です。

- Microsoft iSCSI Software Initiator Version 2.07 [boot version]



ダウンロードセンタから、ボタン押下でダウンロードできるイニシエータは、ブート非対応のものです。

ブート対応のイニシエータは、ブート非対応イニシエータのダウンロードページで "Overview" に記載されている x86 用の URL を直接指定してダウンロードするか、下記 URL からダウンロードしてください。

<http://download.microsoft.com/download/f/1/3/f136d796-5342-4479-80a7-0e6fae3875ee/Initiator-2.07-boot-build3640-x86fre.exe>

[2008 年 5 月 15 日現在の URL]

なお、イニシエータ CD とは上記入手ファイルを入れた CD です。

**2 システム装置の電源を入れたら、すぐに「セットアップ CD」または『「Microsoft (R) Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」CD-ROM』を CD/DVD ドライブに入れる。**



HDD レスサーバーブレードは、Standard Edition のみ対応しています。

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) インストール済みモデルをご購入の場合、システム装置に付属している『サーバインストール CD-ROM』を CD/DVD ドライブに入れてください。

**3 画面に「Press any key to boot from CD」が表示された場合、すぐに任意のキーを押す。**



キーを押すタイミングが遅いと、CD-ROM から立ち上がらずに、すでにインストール済みの OS が立ち上がりります。その場合は手順 1 からやり直してください。

- 4** 画面下部に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」と表示されたら、

- [F5] キーと [F6] キーを押す

ファイルが読み込まれると、各種のコンピューター一覧が表示される。

Windows Setup

Setup could not determine the type of computer you have, or you have chosen to manually specify the computer type.

Select the computer type from the following list, or select "Other" if you have a device support disk provided by your computer manufacturer.

To scroll through the menu items press up arrow or down arrow.

ACPI Multiprocessor PC  
ACPI Uniprocessor PC  
Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) PC  
MPS Uniprocessor PC  
MPS Multiprocessor PC  
Standard PC  
Other

Enter=Select F3=Exit

- 5** [↑]、[↓] キーを使って一覧から「ACPI Multiprocessor PC」を選択し、[Enter] キーを押す。

- 6** しばらくして次の画面が表示されるので、[S] キーを押す。

Windows Setup

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

<none>

- \* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows, including those for which you have a device support disk from a mass storage device manufacturer, press S.
- \* If you do not have any device support disks from a mass storage device manufacturer, or do not want to specify additional mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device Enter=Continue F3=Exit

- 7** ドライバー FD をドライブ A (USB FD ドライブ) に入れ、[Enter] キーを押す。

補足

Bladesymphony Setup CD を使用せず、セットアップ CD を使用してインストールする場合は、セットアップ CD をリモートコンソールアプリケーション側でセットしてください。リモートコンソールアプリケーションのリモートFDを使った場合、Windows セットアップ時にドライバFDを認識させることはできません。

CD はリモートコンソールのリモート CD/DVD 機能を使用し、FD はサーバブレード前面の USB ポートに FD ドライブを接続して使用します。

**9** 下記の画面が表示されたら、[S] キーを押す。

Windows Setup

The driver you provided seems to be older than the Windows default driver.

Windows already has a driver that you can use for "XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX".

Unless the device manufacturer prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

S=Use the driver on floppy Enter=Use the default Windows driver

**10** 手順 6 の画面へ戻るので [Enter] キーを押す。

**11** しばらくして [セットアップの開始] が表示されたら、[Enter] キーを押す。

[Windows ライセンス契約] が表示される。

**12** 内容を確認し、[F8] キーを押す。

次の画面が表示された場合は、[Esc] キーを押す。

Windows Server 2003, Standard Edition セットアップ

次のインストール済みの Windows の 1 つが壊れている場合は、修復を試行できます。

上下の方向キーを使って、1つを選択してください。

- 選択した Windows を修復するには、R キーを押してください。
- 修復しないで別の新しい Windows のインストールを続行するには、Esc キーを押してください。

C:\WINDOWS "Windows Server 2003, Standard Edition"

F3=終了 R=修復 Esc=修復しない

**13** 使用するキーボードの選択画面が表示される。

Windows Server 2003, Standard Edition セットアップ

以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。

半角/全角キー：106日本語キーボードの場合

スペースキー：101英語キーボードの場合

'S'キー：その他のキーボードの場合

・セットアップを終了するには、F3キーを押してください。

**14** [半角 / 全角] キーを押す。

キーボード選択確認画面が表示される。

**15** 「106 Japanese Keyboard (Including USB)」が選択されていることを確認して [Y] キーを押す。

インストールするパーティションの選択画面が表示される。

**16** 画面に従い、インストールするパーティションの設定を行う。

ファイルのコピーが開始され、完了するとシステム装置が立ち上げ直される。

●●  
補足

FATフォーマットを2047MBを超えるサイズで作成した場合は、パーティションの構成がFAT32になります。

**17** ドライバーFDがドライブAに挿入されている場合は、ドライバーFDを取り出す。

Windowsのインストールが続行され、しばらくすると「地域と言語のオプション」が表示される。

●●  
補足

Windowsのインストール途中に、「セキュリティの警告 - ドライバーのインストール」画面または「ソフトウェアのインストール」画面、「ハードウェアのインストール」画面が表示される場合があります。「[はい]」ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

**18** 必要に応じてカスタマイズを行い、[次へ] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの個人用設定] が表示される。

**19** 名前を入力する。必要に応じて組織名を入力する。

**20** [次へ] ボタンをクリックする。

**21** [プロダクトキー] 画面が表示された場合、Windowsインストール済みモデルの場合はシステム装置に貼られている「Certificate of Authenticity シール」に記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ] ボタンをクリックする。それ以外は、Windows Server 2003 R2 (32ビット) 購入時のプロダクトキーを使用してください。

[ライセンスモード] が表示される。

●●●  
補足

システム装置に貼られている個所が見えない場合、本書にコピーが貼られています。こちらでご確認ください。

**22** 使用するライセンスモードを選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] が表示される。

●●●  
補足

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) Standard Edition は、5 クラウントアクセスライセンスが含まれています。

**23** コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する。[次へ] ボタンをクリックする。

[日付と時刻の設定] が表示される。

●●●  
補足

コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。

コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。

設定したパスワードを忘れてしまうと次回の立ち上げから Windows にログオンできなくなります。その場合、Windows を再インストールする必要があります。

Administrator のパスワードを設定していないと、警告のポップアップメッセージが表示されます。パスワードの設定をしない場合は [はい] ボタンをクリックして先へ進んでください。

**24** 表示されている日付と時刻の確認（必要に応じて変更）を行い、[次へ] ボタンをクリックする。

以降、インストール処理が行われ、最後にシステム装置が立ち上げ直される。

**25** システム装置が立ち上がったあと、Windows にログオンする。

以下の画面が表示される。



**26** 「セットアップ CD 2」を CD-ROM ドライブにいれ、[OK] を押す。

[Windows Server 2003 R2 セットアップウィザード] が表示される。

●●●  
補足

セットアップ完了後、再起動をしないと画面の表示などが Windows Server 2003 のままで、Windows Server 2003 R2 と表示されません。

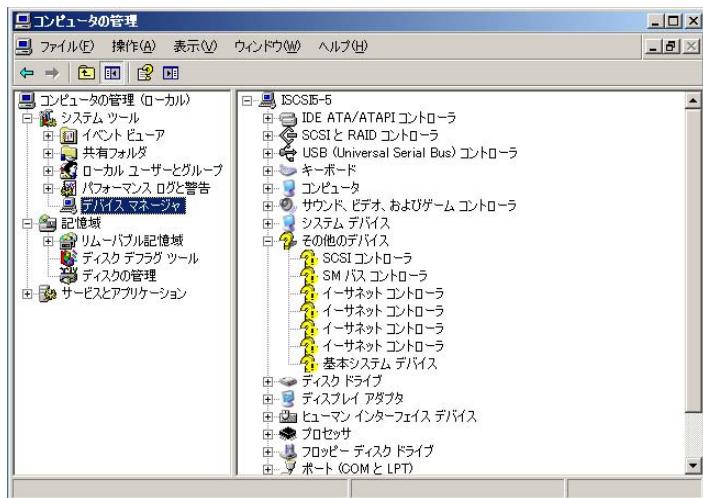
**29** "Windows Server 2003 R2 Standard Edition with SP2 x86" 以外のメディアを使用して、OS のインストールを行った場合、再起動後、次項以降を実施する前に、サービスパック 2 を適用し、サーバの再起動を行う。

●●●  
補足

サービスパック 2 の適用を行わなかった場合、次項以降の設定が正常に行われません。

**30** 次の手順にて、ブートパス以外の LAN に、LAN ドライバを適用する。

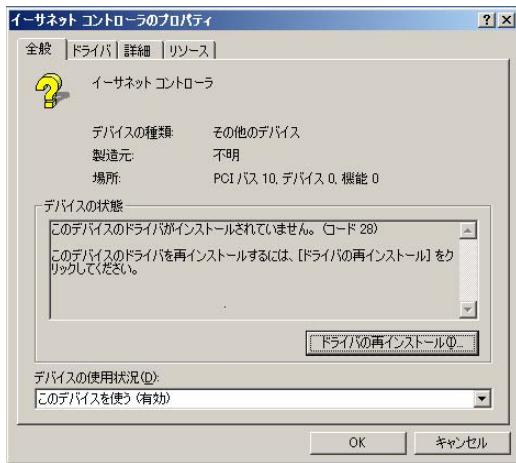
**31** 「コンピュータの管理」-「デバイスマネージャ」を起動し、4 つのイーサネットコントローラに、ドライバが適用されていないことを確認する。



**32** 各イーサネットコントローラのプロパティの "場所" 表示を参照し、ブートパスを確認する。

プロパティの「全般」タブを参照してください。

- a) 場所 : PCI バス 10、デバイス 0、機能 0 . . . . . iSCSI ブートのプライマリバス (ブートパス)
- b) 場所 : PCI バス 10、デバイス 0、機能 1 . . . . . iSCSI ブートのセカンダリバス
- c) 場所 : PCI バス 5、デバイス 0、機能 0 . . . . . 管理または業務ネットワーク用
- d) 場所 : PCI バス 5、デバイス 0、機能 1 . . . . . 管理または業務ネットワーク用



- 33** CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 34** 前手順で確認した、iSCSI ブートのプライマリバス（ブートバス | 場所：PCI バス 10、デバイス 0、機能 0）以外の LAN デバイスを右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。
- [ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。
- 35** "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか？" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 36** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 37** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

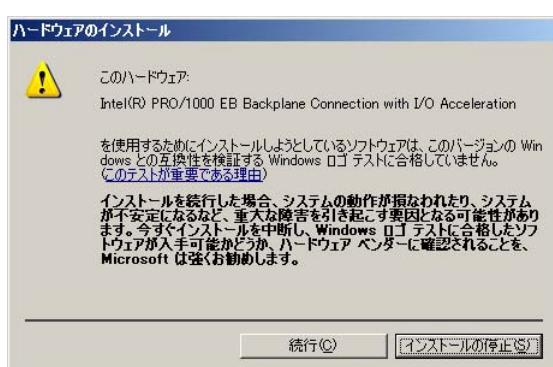
d:\¥C51x3¥F¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

•••  
補足

下記の画面が表示される場合は、続行を選択してください。



**38** [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

**39** LAN ドライバーの更新をしていないポートパス以外のネットワークアダプタが残っている場合は、

手順 34～38 をネットワークアダプタごとに繰り返す。

**40** [その他のデバイス] - [基本システムデバイス] を右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

**41** "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**42** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**43** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

d:¥C51x3¥F¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

**44** [完了] ボタンをクリックする。

…  
補足

- ドライバーのセットアップ時、「このハードウェアを開始できません」と表示される場合がありますが、システム装置を再起動することにより正常に動作します。[デバイスマネージャ] で、デバイスが正常に動作していることをご確認ください。
- 毎回のシステム起動時にネットワークアダプタでエラーイベントログが発生することがあります。ネットワークアダプタがリンクダウンしている可能性があります。  
[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタが接続されていることをご確認ください。Intel(R)PROSet をインストールしている場合は、[デバイスマネージャ] で対象のネットワークアダプタを右クリックして、メニューから「プロパティ」をクリックし、[リンク速度] タブ (Intel(R)PROSet のバージョンにより [リンク] タブとして表示されることがあります) の「リンクのステータス」の状態から確認することもできます。

!  
制限

オンボード LAN デバイスの回線速度は変更できません。

…  
補足

リンクアップ時、ネットワークのプロパティやタスクトレイのネットワーク状態がすぐに更新されない場合があります。状態を確認するため、ネットワークのプロパティにて、[表示] - [最新の情報に更新] を選択してネットワーク状態の更新を行ってください。

**45** "システム設定の変更"ダイアログにて、"はい"をクリックし、サーバの再起動を行う。

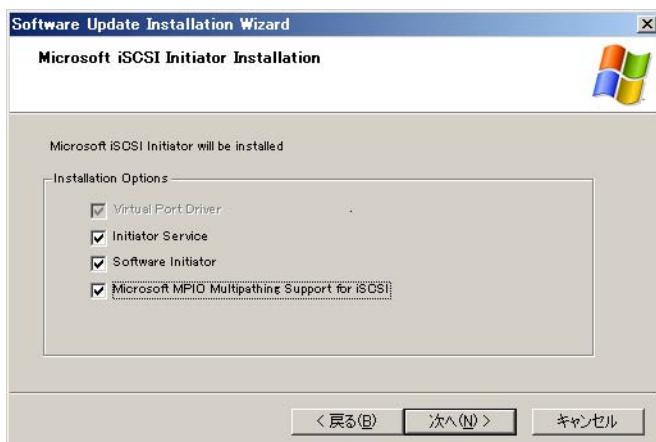
- 46** 再起動後、「Administrator」でログオンする。
- 47** CD/DVD ドライブに手順「[セットアップ時の制限](#)」P.98 で作成した イニシエータ CD を入れる。
- 48** iSCSI Initiator のインストーラ[Initiator-2.07-boot-build3640-x86fre.exe]を実行し、インストーラが起動したら、「次へ」ボタンをクリックする。



•••  
補足

iSCSI イニシエータのファイル名は、バージョン 2.07 の場合です。

- 49** 全てのチェックボックスにチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックする。



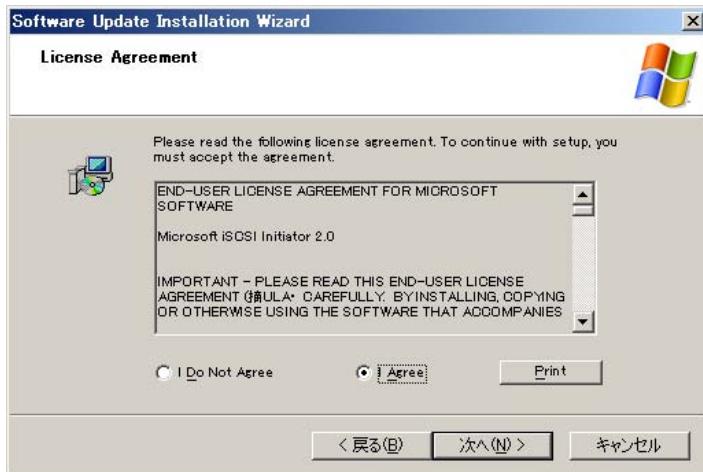
- 50** 「Configure iSCSI Network Boot Support」にチェックを入れ、「Description」表示が「Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port...」である行を選択し、「次へ」ボタンをクリックする。



補足

上記 iSCSI Initiator の設定にて、選択する LAN デバイスを誤ると OS の再インストールが必要になりますので、よく確認した上でつぎの手順に進んでください。

- 51** 「I Agree」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする。



- 52** iSCSI Initiator のインストール完了後、「完了」ボタンをクリックする。



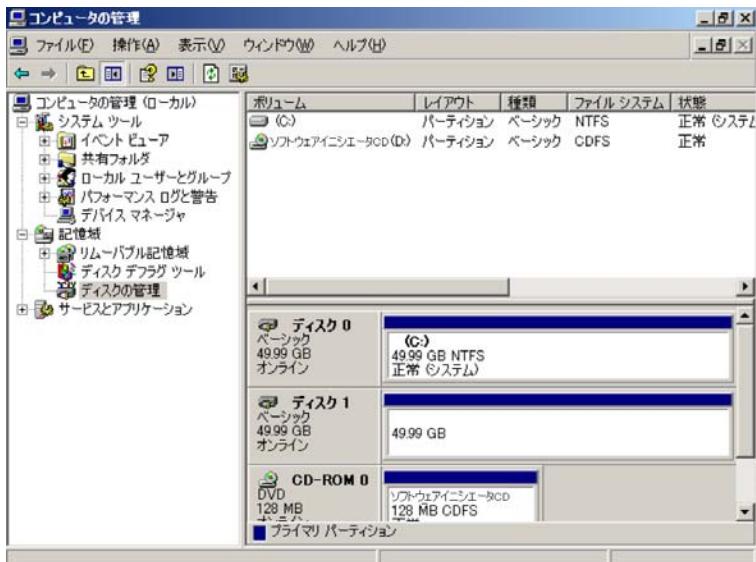
- 53** インストール完了後、"Reboot Required" ダイアログにて、"はい"をクリックし、サーバの再起動を行う。



補足

"Reboot Required" ダイアログは、iSCSI Initiator のインストールランチャの後ろに隠れている場合があります。

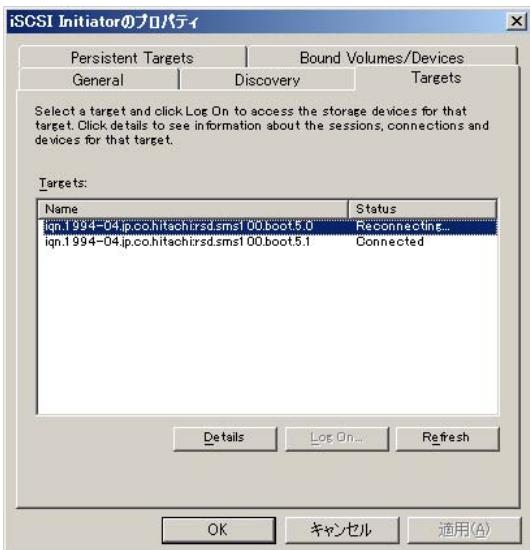
- 54** 再起動後、「Administrator」でログオンし、「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」で Logical Unit が認識されていることを確認する。



●●●  
補足

ディスク 0 と同容量のディスクが認識されますが、そのディスクには何もしないでください。

- 55** デスクトップ上の「Microsoft iSCSI Initiator」アイコンをダブルクリックし、"iSCSI Initiator" のプロパティを表示する。
- 56** 「Targets」タブを選択し、" ~ boot.x.0" の「Status」が "Reconnecting" であること、" ~ boot.x.1" の「Status」が "Connected" であることを確認しプロパティを閉じる。

●●●  
補足

" ~ boot.x.0" は Intel iSCSI Setup Driver で接続されているため、この段階では "Connected" にはなりません。

- 57** 「Administrator」でログオンし Blade Symphony Setup CD を CD/DVD ドライブ(USB ドライブ)に入れる。

- 58** ドライバ FD 上の、iSCSI App [iSCSIApp.exe] を実行する。

"iSCSI Setup Uninstall" ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンをクリックしてください。

続いて「OK」ボタンをクリックしてください。

●●●  
補足

これによって、シングルパス起動のセットアップドライバが無効化され、"iSCSI Initiator" で提供される、マルチパス対応の起動ドライバでの起動に替わります。

- 59** 再起動後、「Administrator」でログオンし、CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。

- 60** ブートパスの LAN デバイスに、手順 34 ~ 38 にて、LAN ドライバを適用する。

- 61** コマンドプロンプトを起動し、「iscsibcg.exe /verify /fix」コマンドを実行する。

以下のメッセージが表示されることを確認してください。

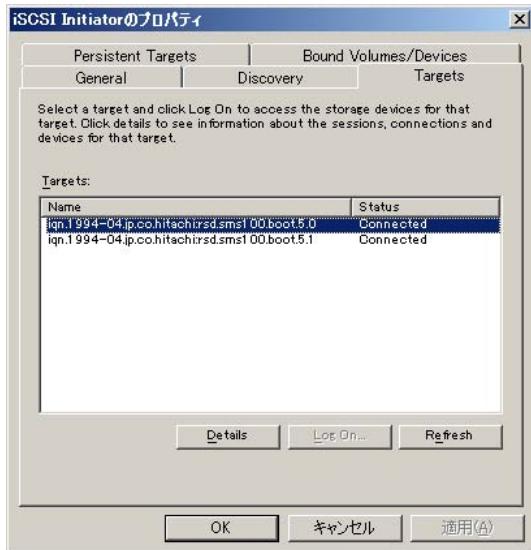
•••  
補足

「Nic Service used for iSCSI Boot is e1express  
Driver e1express is not set to boot start  
Driver e1express fixed to be be boot start  
All iSCSI boot verification checks completed」

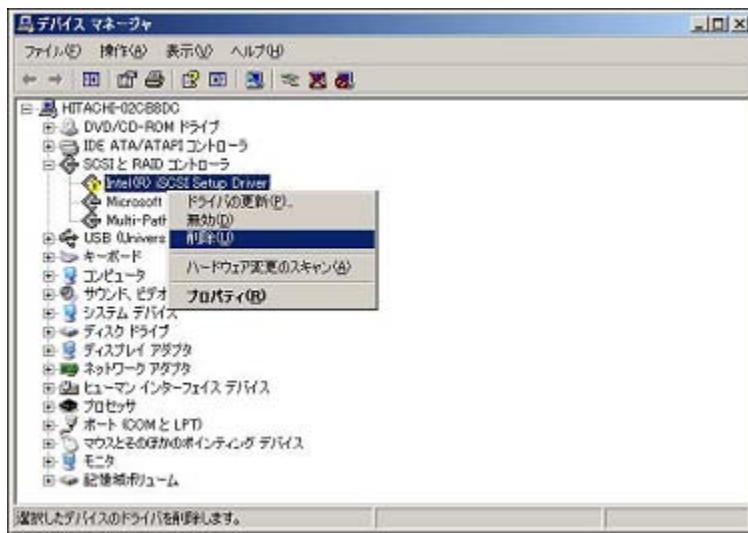
「iscsibcg.exe /verify /fix」では「iscsibcg.exe」と「/verify」の間、及び「/verify」と「/fix」の間にスペースを一つ含みます。

**62** OS を再起動する。

- 63** 再起動後、「Administrator」でログオン後、デスクトップ上の「Microsoft iSCSI Initiator」アイコンをダブルクリックし、"iSCSI Initiator" のプロパティを表示する。
- 64** 「Targets」タブを選択し、" ~ boot.x.0" と " ~ boot.x.1" の両方の「Status」が "Connected" であることを確認しプロパティを閉じる。



## 65 一覧から [iSCSI Setup Driver] を右クリックし [削除] する。



### □ iscsibcg ユーティリティ自動実行を構成する

シャットダウン時に、iscsibcg ユーティリティが自動的に実行されるように構成します。

1. システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
2. ファイル名を指定して実行をクリックする。
3. gpedit.msc と入力し、OK をクリックする。
4. グループポリシー ウィンドウで、コンピュータの構成を展開する。
5. Windows の設定を展開する。
6. スクリプト（スタートアップ / シャットダウン）を展開する。
7. スクリプト（スタートアップ / シャットダウン）ウィンドウで、シャットダウンをダブルクリックする。
8. "シャットダウンのプロパティ" ダイアログ ボックスで、追加をクリックし、スクリプト名 フィールドに iscsibcg ユーティリティのフルパスを入力する。  
"C:\Windows\system32\iscsibcg.exe"
9. 次に、スクリプトのパラメータフィールドに、"/verify /fix" を入力する。
10. OK を 2 回クリックする。
11. グループポリシーオブジェクトエディタを終了する。

#### 補足

LAN ドライバの更新や、QFE の適用などを行った場合、シャットダウン前に「iscsibcg.exe / verify / fix」を実行しないと、次回起動に失敗することがあります。

#### 補足

「iscsibcg.exe / verify / fix」では「iscsibcg.exe」と「/verify」の間、及び「/verify」と「/fix」の間にスペースを一つ含みます。

## □ レジストリの更新

CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れ、以下のバッチを実行してください。  
(d: は CD/DVD ドライブ名とします。)

ブレードのダンプボタンを有効にします。  
d:\utility\dump\NMIID.bat

PCI ドライバの設定を行います。  
d:\utility\pci\avoidD3.bat

LAN ドライバのパラメタ設定を行います。  
d:\UTILITY\BSLANDEVD\NDBS3202.bat

メッセージに従って再起動してください。

## □ チップセットドライバー

次の手順でチップセットドライバーをインストールしてください。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
- 4 次のように入力して [OK] ボタンをクリックする。  
d:\C51x3\F\WIN2003\CHIPSET\infinst\_autol.exe  
\*d は CD/DVD ドライブ名  
[セットアップ] 画面が表示される。
- 5 [次へ] ボタンをクリックする。  
[使用許諾契約書] が表示される。
- 6 使用許諾の内容を読み、[はい] ボタンをクリックする。  
以下画面に従い、セットアップを続行してください。  
最後に [InstallShield(R) ウィザードが完了しました。] が表示されます。
- 7 CD-ROM をドライブから取り出し、[コンピュータを後で再起動する。] を選び [完了] ボタンをクリックする。
- 8 スタートメニューから、"シャットダウン" を選び、Windows をシャットダウンする。

## □ RAID ドライバー

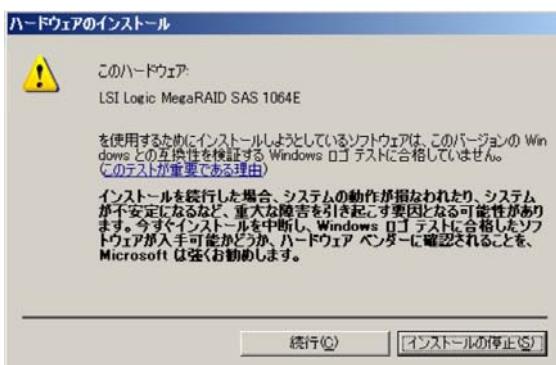
- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 3 [スタート] - [コントロールパネル] - [システム] を選ぶ。  
[システムのプロパティ] が表示される。

- 4 [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。  
[デバイスマネージャ] が表示される。
- 5 "SCSI コントローラ" を右クリックし、[ドライバの更新] をクリックする。  
[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。
- 6 "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、  
[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 7 [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 8 [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。  
d:\¥C51x3¥F¥WIN2003¥RAID  
\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

…  
補足

下記の画面が表示される場合は、続行を選択してください。



- 9 [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

…  
補足

RAID ドライバインストール時に iSCSI WMI 未サポートのイベントソース :MSiSCSI、イベント ID:108 が記録されますが、問題ありません。

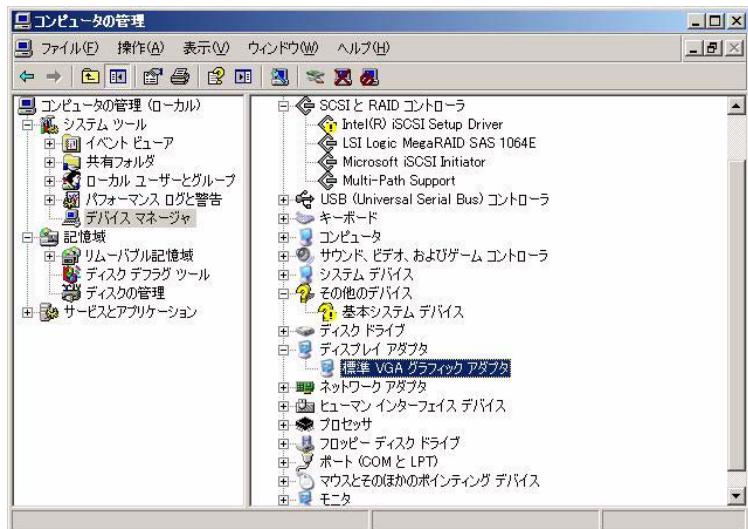
## □ 表示ドライバー

「セットアップ CD」のみでセットアップを行った場合、次の手順で表示ドライバーをインストールしてください。



/3GB スイッチを使用しているままではドライバのインストールはできません。/3GB スイッチを使用しない状態で Windows を起動してからドライバのインストールを行ってください。

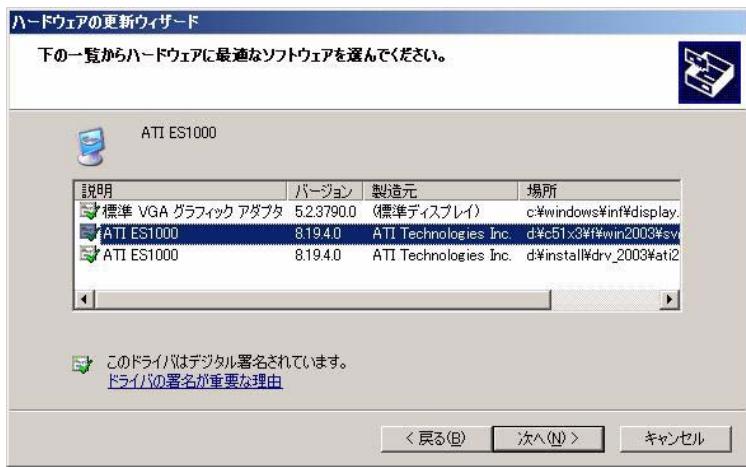
- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れる。
- 3 [スタート] – [コントロールパネル] – [システム] を選ぶ。  
[システムのプロパティ] が表示される。
- 4 [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。  
[デバイスマネージャ] が表示される。
- 5 ディスプレイアダプタの下の標準 VGA グラフィックアダプタを右クリックし、[ドライバの更新] をクリックする。[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。



- 6 "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 7 [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 8 [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。  
d:¥C51x3¥WIN2003¥SVGA

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示されるので次へをクリックする。



**9** [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

## □ ダンプファイル作成設定

iSCSI 環境では、通常のダンプファイルの取得設定以外に、下記を実施しておく必要があります。下記 Microsoft 社の Web サイトから KB939875 の HotFix をダウンロードして、適用してください。

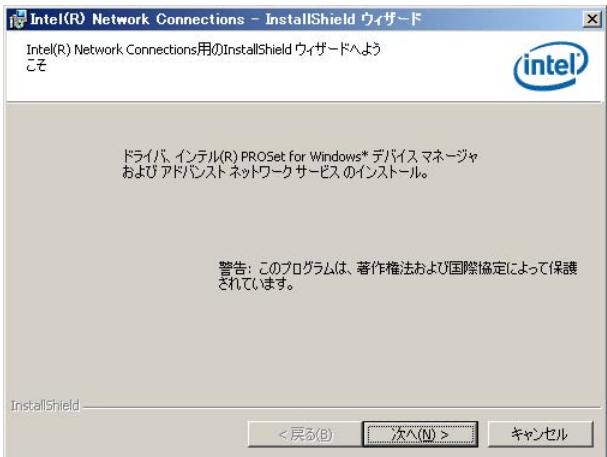
<http://support.microsoft.com/kb/939875/ja>

## □ Intel(R) PROSet のインストール

- 1 システム装置の電源を入れ、Windowsを立ち上げ、「Administrator」でログオンします。
- 2 CD/DVD ドライブにシステム装置添付の『BladeSymphony SP Setup CD』CD-ROM を入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 以下のファイルを指定して [OK] ボタンをクリックします。

D:\OPTION\TOOLS\WIN2003\INTELLAN\APPS\PROSETDX\WIN32\DXSetup.EXE

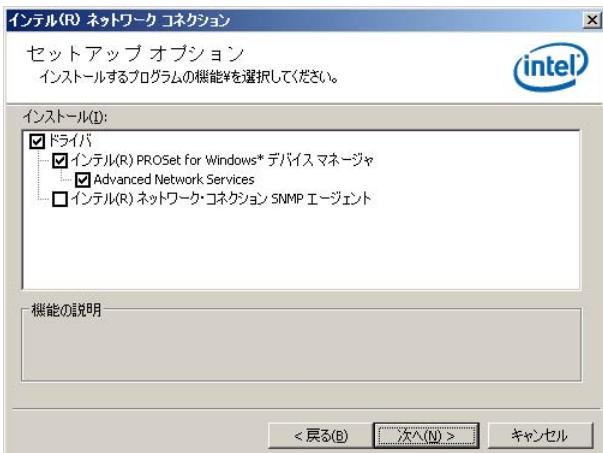
**5** セットアッププログラムが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



**6** 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認し「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックをして、[次へ] ボタンをクリックします。



**7** セットアップオプションが表示されますので、「インテル(R) PROSet for Windows\* デバイスマネージャ」と「Advanced Network Services」にチェックが入っていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。





「インテル(R) ネットワーク・コネクション SNMP エージェント」にはチェックを入れないでください。

- 8 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されますので、[インストール] ボタンをクリックします。
- 9 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されますので、[完了] ボタンをクリックし、システム装置を再起動します。



Intel(R) PROSet のインストール後、[WMI] の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります、問題ありません。



HDDレスサーバーブレードにて、メモリダンプの採取を行うためには、Intel PROSet のインストールが必要です。



iSCSI 環境でのダンプ採取用ドライバが、コピーされます。

## □ ダンプ採取用ドライバの設定

CD/DVD ドライブに『BladeSymphony SP Setup CD』を入れ、以下のバッチを実行する。  
(d: は CD/DVD ドライブ名とします。)

```
d:¥utility¥dump¥iSCSI_DMP.bat
```



ダンプ採取用ドライバの設定が行われます。

## □ サービスパック 2 (SP2)

HDD レスサーバーブレードで Windows Server 2003 を使用する場合は、必ず SP2 以降のサービスパックを適用してください。SP2 は、Microsoft 社の Web サイトからダウンロード可能です。Windows Server 2003 SP2 の動作確認状況については、以下の web サイトをご確認ください。  
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/techinfo/wsv/servicepack/wsvsp2-old.html>

[サポート] の "Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 関連情報"

SP2 を適用するための前提ドライバや、SP2 適用後に必要な修正モジュール等、注意事項がありますので、上記 web サイトを確認の上、SP2 を適用してください。

## □ 修正プログラムの適用について

SP2 適用後、Microsoft 社より提供される次の修正プログラムを漏れなく適用してください。適用しない場合、Windows が正常に動作しません。

「Windows Server 2003 用の記憶域ドライバ Storport の更新版 (バージョン 5.2.3790.4021)」について修正プログラムは、以下の web サイトより、使用しているエディションに合わせてダウンロードしてください。

<http://support.microsoft.com/kb/932755/ja>

Windows Server 2003 R2 SP2 のインストール代行サービスをご購入の場合には本修正モジュールは適用済みです。

また、セキュリティパッチに代表されるそのほかの Windows の修正プログラムも、必要に応じ適用してください。

## □ iSCSI 制限事項

Windows Server 2003 の、iSCSI ソフトウェアインシエータ環境では、下記の制限があります。

### 1 ダイナミックディスクボリュームは、サポートされません。

システム起動時に、ダイナミックディスクボリュームが有効にならないことがあります。

### 2 iSCSI 接続の NIC Teaming はサポートされません。

NIC Teaming は iSCSI 接続を行っている LAN インタフェース (NIC) では、サポートされません。

外部接続用の LAN インタフェースでのみ使用可能です。

### 3 multipath I/O(MPIO) をアンインストールすると、システムが起動しない場合がある。

詳しくは、以下の Microsoft 社 Web サイトをご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/952775>

iSCSI 起動シーケンスが有効なのを持つ Windows Server 2003 ベースのコンピュータで MPIO をアンインストールした後に、エラー メッセージ : " 停止する : 0x0000007B "

### 4 セーフモードで起動する場合は、"セーフモードとネットワーク"を選択してください。

" セーフモード " や " セーフモードとコマンドプロンプト " を選択すると、正常に起動できません。

### 5 データバスのHDDに、ネットワーク共有を作成する場合は、以下の Microsoft 社 Web サイトをご参照し、Bind 設定を行ってください。

<http://support.microsoft.com/kb/870964/en-us>

File shares on iSCSI devices may not be re-created when you restart the computer

<http://support.microsoft.com/kb/870964/ja>

コンピュータを再起動すると、iSCSI デバイスのファイル共有が再作成できません。

### 6 前述の"ダンプファイル作成設定"を実施していない場合、システムイベントログに、ソース : Ftdisk イベント ID : 49 のログが、記録されます。

- 7** iSCSI のネットワーク接続に対して、ファイアウォールの設定を行っている場合、起動時に、システムイベントログに、ソース : iSCSIprt イベント ID : 7 及びソース : iSCSIprt イベント ID : 20 のログが、記録される場合があります。再接続の成功を示すイベント、ソース : iSCSIprt イベント ID : 34 が記録されている場合は問題ございません。

•••  
補足

上記 Web に記載された設定を行うと、起動時間が若干長くなります。

## □ ロードバランス設定と データバス接続デバイスの自動認識

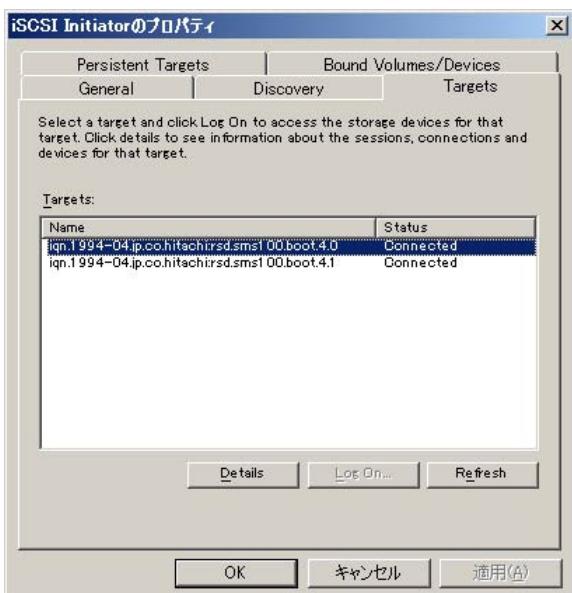
下記手順にて、MPIO のロードバランス設定を、ブートバス / データバス共に実施してください。

•••  
補足

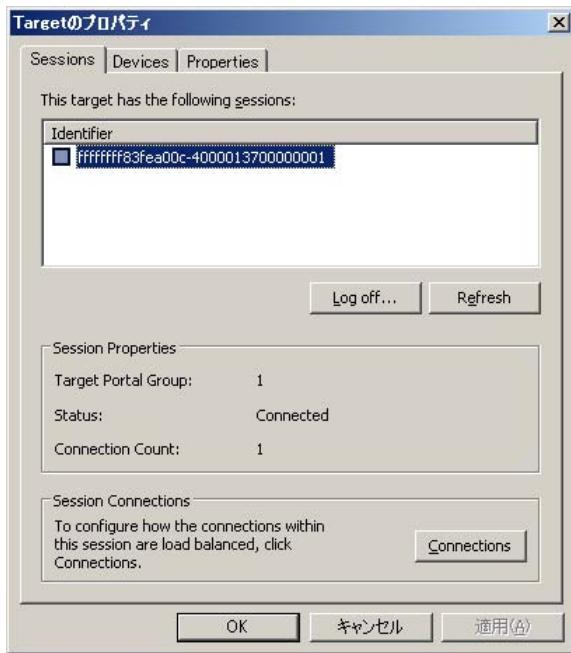
"データバス設定" に記載されている設定を行うことで、データバスに接続されているデバイスが起動時に自動認識されるようになります。

### ブートバスの設定

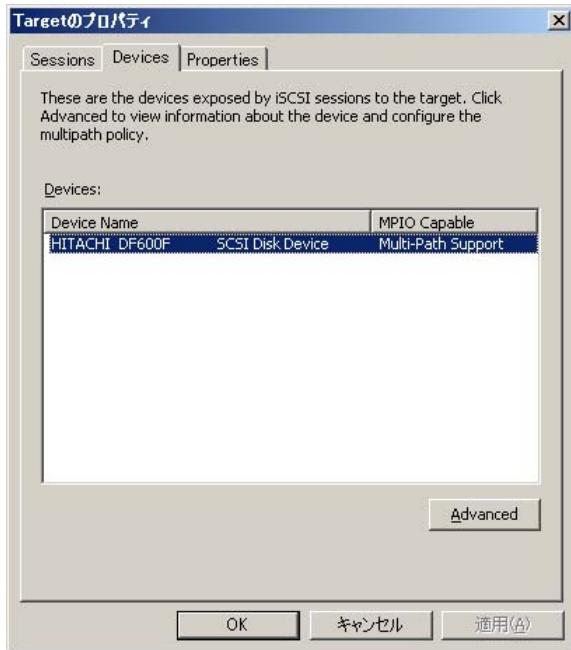
- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 デスクトップ上の「Microsoft iSCSI Initiator」アイコンをダブルクリックし、"iSCSI Initiator" のプロパティを表示する。
- 3 「Targets」タブを選択する。
- 4 "～boot.x.0" と "～boot.x.1" の両方の「Status」が "Connected" であることを確認し、"～boot.x.0" を選択し、「Detail」をクリックする。



- 5 セッションが 1 つであることを確認し、「Device」タブを選択する。



- 6 Device が 1 つであることを確認し、「Advanced」ボタンをクリックする。

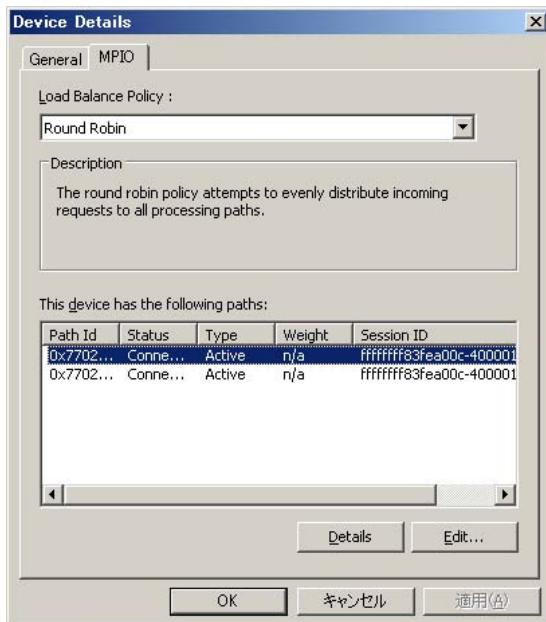


7 「MPIO」タブをクリックする。



8 「Load Balance Policy:」で「Round – Robin」を選択する。

9 2つの経路の TYPE が「Active」になったことを確認し、「OK」を 2 回クリックする。



## データパス設定

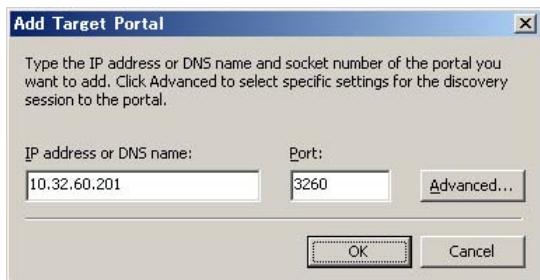
…  
補足

下記設定を行うことで、起動時に自動認識されるようになります。

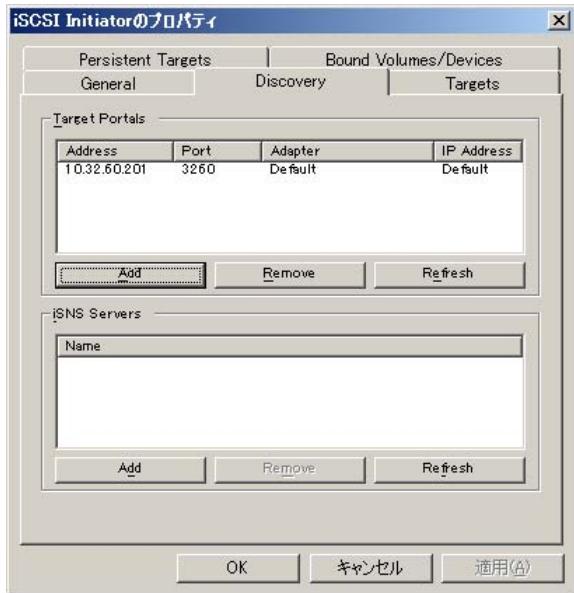
- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 デスクトップ上の「Microsoft iSCSI Initiator」アイコンをダブルクリックし、「iSCSI Initiator」のプロパティを表示する。
- 3 「Discovery」タブを選択し、「Add」ボタンをクリックする。



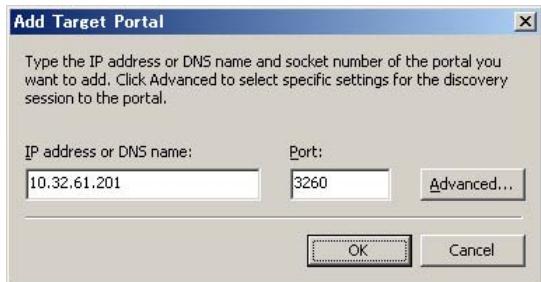
- 4 ターゲットのプライマリ「IP アドレス (10.32.60.201)」を設定し、「OK」ボタンをクリックする。



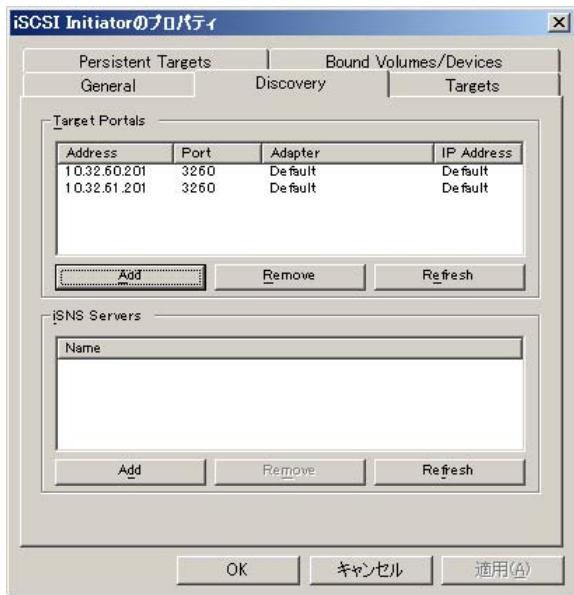
5 再度「Add」ボタンをクリックする。



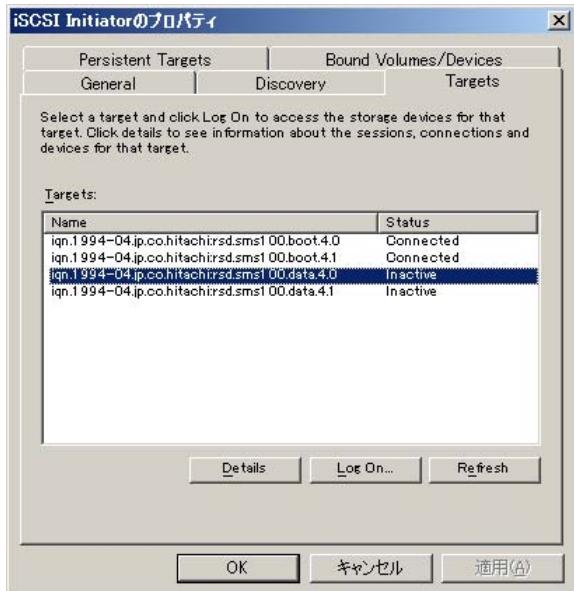
6 ターゲットのセカンダリ「IP アドレス (10.32.61.201)」を設定し、「OK」ボタンをクリックする。



- 7 データパス用のターゲットの IP アドレスが 2 つ認識されていることを確認し、「Target」タブを選択する。



- 8 ターゲットが 4 つ認識されていることを確認して、「Status」が「Inactive」であるデータパスのターゲットを選択し、「Log On」をクリックする。

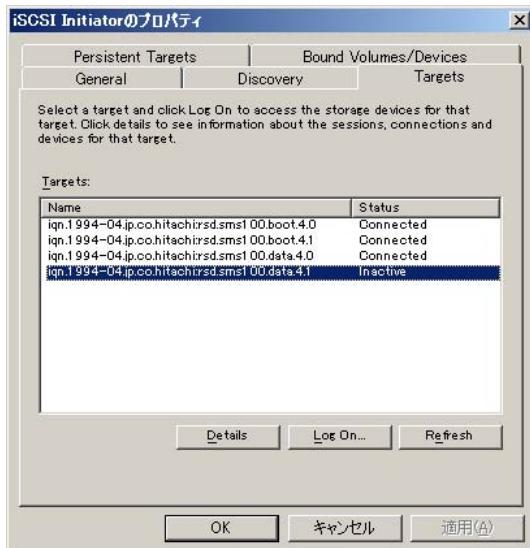


**9** 全てのチェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックする。

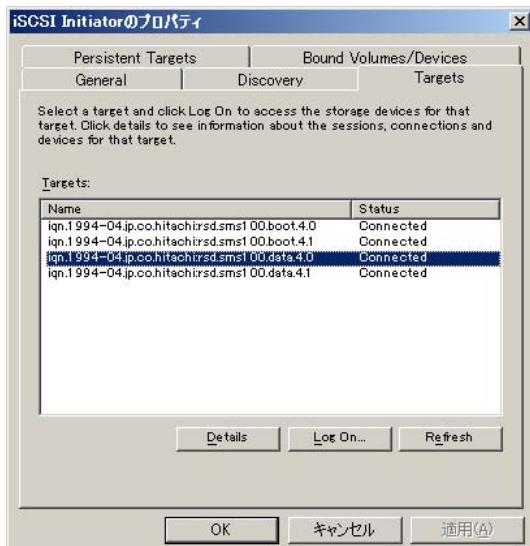


**10** 設定したターゲットの「Status」が「Connected」に変更されることを確認する。

同様にしてもう1つのターゲットの設定を行う。



**11** 4つのターゲットの「Status」が「Connected」に変更されたら、「~.data.x.0」を選択し、「Detail」をクリックする。



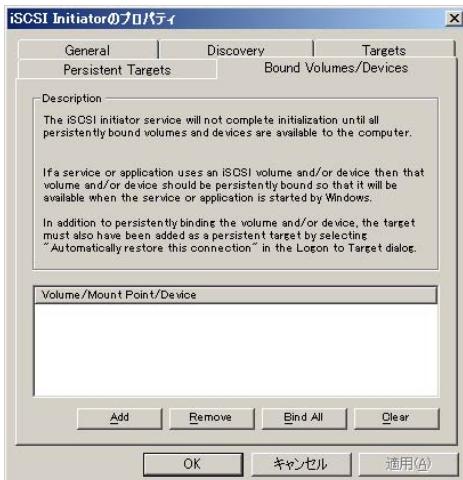
## 12 以下ブートパスの設定と同様にしてデータパスのラウンドロビン設定を行う。

### 補足

データパスのターゲットに、複数の LU を接続している場合は、Target のプロパティの「Device」タブに、接続している LU の数と同じ数のデバイスが表示されます。

表示されている、全てのデバイスに対して、ラウンドロビン設定を行ってください。

## 13 データパスのロードバランス設定が終了したら、"Bound Volumes/Devices" タブを選択し、"Bind All" ボタンをクリックし、OK ボタンをクリックする。



### 補足

"Bind All" ボタンをクリック後に表示されたドライブを含むデバイスが起動時に有効になるまで、起動を待つようになりますので、若干起動時間が長くなります。この設定を行わなかった場合に発生する問題については、以下の Microsoft 社 Web サイトなどをご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/870964/en-us>

File shares on iSCSI devices may not be re-created when you restart the computer

<http://support.microsoft.com/kb/870964/ja>

コンピュータを再起動すると、iSCSI デバイスのファイル共有が再作成できません。

データパス設定中に、ソース : mpio イベント ID : 17 のイベントが記録されることがあります。これは、プライマリとセカンダリを別々に設定しているためです。



# 3

## インテル (R) Xeon(R) プロセッサ 搭載サーバーブレード (管理サーバーブレード) Windows Server 2008 (32 ビット) 編

この章では、Windows Server 2008 の操作やセットアップについて説明します。

電源を入れる・切る.....	130
システム装置を立ち上げ直す（リセット）.....	135
Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法.....	136
付属ソフトウェアの使いかた .....	138
ソフトウェアの使用について .....	140
Windows Server 2008 のセットアップ .....	150

# 電源を入れる・切る

ここでは、システム装置に電源を入れ OS を起動する方法と、OS をシャットダウンしてシステム装置の電源を切る方法、アプリケーションやシステム装置の強制終了について説明します。

なお、システム装置の電源の操作については『ユーザーズガイド』「電源を入れる/切る」もご参照ください。

## はじめて電源をいれる

インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレードは、ディスプレイやキーボード、マウスなどのデバイスは接続されません。基本的な操作は、リモートコンソールアプリケーションによりネットワーク経由で行います。Windows の起動後は、リモートデスクトップ接続で操作することも可能です。

Windows プレインストールモデルをご購入いただいた場合、はじめて電源を入れるときは、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードに接続して作業を行ってください。リモートコンソールへの接続方法、及びリモートコンソールアプリケーションについての詳細は、「リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド」を参照してください。

OS なしサーバーブレードをご購入され、Windows をセットアップする場合は、『Windows Server 2008 のセットアップ』 P.150 をご参照ください。

### 補足

- 使用許諾契約とは  
使用許諾とは、Windows を使用することを許諾するものです。使用許諾契約に同意すると、次回から使用許諾契約の画面は表示されません。再セットアップするときも同意が必要です。
- 設定手順の表示項目について  
以下の手順は、お客様がプレインストールモデルでの工場設定値を何もご指定いただいている場合について記載しております。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されないあるいは、表示されても入力済みとなっているものがあります。

## □ 電源を入れる

### 1 リモートコンソールでサーバーブレードに接続する準備を行います。

リモートコンソール接続についての詳細は、『リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド』を参照してください。

## 2 サーバブレードの電源を入れます。



電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからシステム装置の電源を入れてください。また、電源を切るときには、システム装置の電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

これ以降、操作を間違えたときは、画面の [戻る] ボタンもしくは ←ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

### 3 リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。

しばらくすると [ライセンス条項をお読みください] が表示される。

### 4 内容を確認し問題なければ [ライセンス条項に同意します] をチェックし [次へ] ボタンをクリックします。

[ありがとうございます] と表示されます。

### 5 [開始] ボタンをクリックします。

[ユーザは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません] と表示されます。

### 6 [OK] ボタンをクリックし、「新しいパスワードおよびパスワードの確認入力」を入力します。

[SystemInstaller 構成マネージャ] が起動します。

### 7 [SystemInstaller 構成マネージャ] から必要となるコンポーネントをインストールします。

詳細については、『[SystemInstaller] によるセットアップ』 P.162 をご参照ください。

### 8 使用する環境に合わせて設定を行います。

### 9 必要に応じて、残りパーティションを設定します。

詳細については、Windows Server 2008 のヘルプをご参照ください。

## OS 修正モジュール

OS の修正パッチ、ドライバ、ファームの入手、及び最新情報は、以下の Web サイトで発信しています。また、情報は適時更新されており、定期的な確認をお願いいたします。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony>

[サポート] ページの "ダウンロード" を参照してください。

# OS 修正モジュールのバックアップ (Windows プレインストールモデルのみ )

Windows プレインストールモデルをご購入いただいたお客様は、OS の修正モジュールが適用されており、このバックアップデータがハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\HITACHI\QFE

セキュリティパッチは、必要に応じ最新のものを Windows Update サイト等から入手してください。

## 電源を切る

通常は、次の方法でシステム装置の作業を終了して電源を切ります。

### 注意

いきなり POWER スイッチを押して電源を切らないでください。データが壊れたり、Windows が起動しなくなる場合があります。

シャットダウンを行って電源を切ってください。

1 [スタート] ボタンをクリックし、① をクリックします。



[Windows のシャットダウン] が表示されます

**2 「シャットダウンイベントの追跡ツール」でシャットダウンの理由を選択します。**



…  
補足

シャットダウンの理由が「その他」の場合は、「説明」を記述する必要があります。

**3 [OK] ボタンをクリックします。**

システム装置の電源が切れます。

**4 ディスプレイなどの周辺機器の電源を切ります。**

## 日常電源を入れる

電源を入れる手順について説明します。

…  
補足

セットアップ終了以降は、電源を入れるとすぐにシステム装置を使えます。

**1 ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。**

**2 システム装置前面の POWER スイッチを押します。**

【ログオンの開始】画面が表示されます。

!  
制限

システム装置の起動時にキーボードを連打しないでください。  
エラーメッセージが表示される場合があります。

…  
補足

ディスプレイの機種によっては、表示されるまで時間がかかることがあります。

システム装置は電源が入ったあと、POSTを行います。システム装置によっては【ログオンの開始】画面が表示されるまで 10 分近くかかることがあります。

- 3** [Ctrl] キーと [Alt] キーとを押したまま [Delete] キーを押します。  
[ログオン情報] 画面が表示されます。
- 4** ユーザー名とパスワードを入力して [Enter] キーを押します。  
Windows が起動し、デスクトップ画面が表示されます。

# システム装置を立ち上げ直す (リセット)

アプリケーションの処理中にシステム装置が動作しなくなった時に、アプリケーションを強制的に終了したり、システム装置を強制的に立ち上げ直したり(リセット)すると、正常に動作するようになることがあります。

## アプリケーションを強制的に終了する

タスクバーをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの【タスクマネージャ】をクリックします。【アプリケーション】タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、【タスクの終了】ボタンをクリックします。

## システム装置を強制的に立ち上げ直す

Windows が正常に動作しなくなった場合には、POWER スイッチを 4 秒以上押して電源を切ってください。ただし、HDD をフォーマットし直さなければシステム装置が使用できなくなる場合があります。



電源を入れた後、Windows が立ち上がるまでは非常時を除いて POWER スイッチを押さないでください。リセットした場合は、一度 Windows を立ち上げて正しく終了してから、立ち上げ直してください。

# Windows Server 2008 の基本操作／設定変更方法

Windows Server 2008 の基本的な操作を説明します。

## ヘルプの使いかた

Windows の操作についてはヘルプをご参照ください。Windows には、使用方法について書かれているヘルプが用意されています。

### □ [ヘルプとサポート] を立ち上げる

1 [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート] をクリックします。

[Windows ヘルプとサポートセンター] が立ち上がりります。

…  
補足

初回起動時に [ヘルプを検索するときに最近のヘルプコンテンツを取得しますか?] というポップアップが表示される場合があります。 「はい」を選択した場合インターネットに接続されたときに、最新のコンテンツを Windows オンラインヘルプから取得します。状況に応じ適切に選択してください。

初回設定後もしくは初回起動時に表示されなかった場合は、[オプション] – [設定] から設定を変更することができます。

## □ 知りたい操作を調べる

- 1** 知りたい操作が書かれているトピックを探します。[Windows ヘルプとサポート] 画面上にあるボックスに目的のトピックに関連したキーワードを入力し、 ボタンをクリックします。

検索が始まり、しばらくすると検索結果が表示されます。



- 2** 目的のトピックが見つかったらクリックします。

トピックが表示されます。

- 3** ヘルプの本文を読みます。

ヘルプは次のとおり操作します。

-  ボタン : 直前に表示していたウィンドウに戻ります。
- [オプション] ボタン : 表示する文字の大きさを変更したり、検索オプションの変更が行えます。

- 4** ヘルプを終了するには、ウィンドウの右上にある [×] (クローズ) ボタンをクリックします。

# 付属ソフトウェアの使いかた

このシステム装置に付属しているソフトウェアについて説明します。

## JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent

JP1/ServerConductor/Agent は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。

また JP1/ServerConductor/Advanced Agent は、電源制御など JP1/ServerConductor/Agent の拡張機能を使用するためのソフトウェアです。

インストールすることで、システム装置を効率よく管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使い方の詳細は『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM の次のファイルを開き、『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系システム管理者ガイド』をご参照ください。

d:\Manual.htm

補足

画面やマニュアルに「ServerConductor/Agent」という表記がある場合、「JP1/ServerConductor/Agent」と読み替えてご使用ください。

## MegaRAID Storage Manager

ディスクアレイ装置を管理するために必要なソフトウェアです。

インストールを行わないとハードディスク障害を検知できず二重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使いかたの詳細は『SystemInstaller』CD-ROM の次のファイル『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\MANUAL\MSManager.pdf

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ハードウェア保守エージェント』CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf

ハードウェア保守エージェントの Windows Server 2008 のサポートは、Ver.07-02 以降で行われています。

お手持ちのハードウェア保守エージェントのバージョンが Ver.07-01 以前の場合には、上記『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』中の「アップデート手順」を参照して、最新版の入手・適用をお願い致します。

# ソフトウェアの使用について

ここでは、Windows Server 2008 を使用するときの制限について説明します。

## Windows Server 2008 の制限

### □ Server Core について

Server Core インストールはサポートしておりません。インストールしないでください。

### □ Hyper-V

本装置は Hyper-V の仮想化機能をサポートしておりません。

ベータ版の Hyper-V モジュールを含む Windows Server のインストールメディアを使用する場合は、Hyper-V 製品版モジュールを入手し適用する必要があります。Hyper-V は Windows Server2008(64bit) でのみ動作しますが、管理ツール (Hyper-V マネージャ) が Windows Server 2008 (32bit) にも含まれるため、製品版モジュールとしては 32bit 用も存在します。

Windows Server 2008 ブレインストールモデルを購入された場合、お手持ちの「サーバインストール DVD-ROM」の以下のフォルダ内に Hyper-V 製品版のモジュールが格納されていますので、適用してください。

\*D: は DVD-ROM ドライブ

D:\HITACHI\WINDOWS6.0-KB950050-X86.MSU

一般に市販されている OS メディアで Hyper-V 管理ツール (Hyper-V マネージャ) をご使用になる場合は下記 web より製品版を入手して適用ください。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=6F69D661-5B91-4E5E-A6C0-210E629E1C42>

### 補足

Windows Server 2008 ブレインストールモデルは、この製品版モジュールを適用済みの状態で出荷しています。

### □ Windows のシャットダウン

Windows の起動時にスタートするよう登録されたサービスが完全に起動する前にシャットダウンを行うと、正常にシャットダウンできない場合があります。Windows を起動してから 1 分以上時間をあけてください。



## □ Active Directory を使用する場合

日本語ロケール環境で Active Directory を使用または使用する計画がある場合は、次のマイクロソフト社ホームページをご参照いただき、修正プログラムを適用の上ご使用ください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/updateinfo.mspx>

...  
補足

Windows Server 2008 プラインストールモデルは、この修正プログラムを適用済みの状態で出荷しています。

## □ 「コンピュータを修復する」について

OS のインストールメディアによっては、「[セットアップ手順](#) P.154 の手順 4 の画面が表示されない場合があります。この場合、手順 4 の画面に表示される「コンピュータを修復する」をクリックして、Windows Recovery Environment (以下、Windows RE) を起動することができません。

...  
補足

iSCSI ブート環境では、常に以下の手順にて Windows RE を起動するようにしてください。上記手順 4 の画面にて、「コンピュータを修復する」をクリックして、Windows RE を起動しても、iSCSI のディスクを参照することができません。

<http://support.microsoft.com/kb/951495>

Windows RE を起動する必要があるときは、次のとおり起動してください。

- 1 [インストールするオペレーティングシステムを選択] ウィンドウで [Shift] キーを押しながら [F10] キーを押します  
コマンドプロンプトが表示されます。
- 2 表示されたコマンドプロンプトで次のようにコマンドを入力し、“recenv.exe”を実行します。  

```
> cd /d %SystemDrive%\$source\$recovery  
> RecEnv.exe
```
- 3 Windows RE が起動します。

## □ フォールトトレラント

スパンボリューム、ストライプボリューム、RAID-5 ボリューム、ミラーボリュームはサポートしておりません。定期的にバックアップを行ってください。

## □ バックアップ

Windows Server バックアップでは、テープ装置にバックアップを取得することができません。テープ装置にバックアップを取得する場合は、バックアップソフトウェアを別途ご購入ください。また、Windows Server バックアップのDVDメディアへのバックアップはサポートしておりません。

## □ 画面表示

タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると正しく表示されます。

使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウィンドウの裏側に隠れて見えないことがあります。

表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了させてから実行してください。終了せず実行した場合、アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正しく表示されます。

ディスプレイによっては、正しく表示できないリフレッシュレートがあります。リフレッシュレートを変更する場合は、正しく表示できることをご確認ください。

動画ファイルを再生するアプリケーションによっては、再生を停止しても画面が残ったままになることがあります。このときは、別のウィンドウを最大化するなど画面の切り替えを行ってください。

## □ 節電機能

電源オプションの【スリープ】【ハイブリットスリープ】【休止状態】はサポートしておりません。設定しないでください。

また、電源オプションは【ディスプレイの電源を切る】の時間以外の設定を変更しないでください。

いずれも正しく動作しないおそれがあります。

## □ システムが停止したときの回復動作の設定

システムエラー時、自動的にシステムが再起動しないように設定することをお勧めします。

- 1 [スタート] – [管理ツール] – [サーバーマネージャ] をクリックし、[サーバーマネージャ] を開きます。
- 2 [システムプロパティの変更] をクリックし [システムのプロパティ] を開きます。
- 3 [詳細設定] タブの [起動と回復] の [設定] ボタンをクリックし、[起動と回復] を開きます。
- 4 [自動的に再起動する] チェックボックスを外し、[OK] ボタンをクリックします。

## □ 2GB を超える物理メモリで完全メモリダンプを採取する方法

2GB を超えるメモリを搭載したシステム装置に Windows をセットアップした場合、[起動と回復] の [デバッグ情報の書き込み] で [完全メモリダンプ] は選択できません。2GB を超える物理メモリ環境で [完全メモリダンプ] を採取する場合、次の手順を行ってください。ただし、[デバッグ情報の書き込み] のリスト上は [完全メモリダンプ] とは表示されません。

詳細については次をご参照ください。(対象の OS に Windows Server 2008 について記載されていませんが、Windows Server 2003 を Windows Server 2008 に置き換えてお読みください)

<http://support.microsoft.com/kb/274598/ja>

- 1 CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM を入れます。
- 2 [スタート] メニューー [ファイル名を指定して実行] を選び、ファイル名に "d:\Win2008\Tools\Dump\PMDE.BAT" と入力し [OK] ボタンをクリックします。
- 3 次のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。  
"完全メモリダンプを採取する設定に変更します。  
続行するには、何れかのキーを押してください。  
中止するには、Ctrl + C を押してください。"
- 4 仮想メモリのサイズを設定します。詳細は次をご参照ください。  
→ 「[仮想メモリ] サイズの設定」 P.143

手順 2 を実行後、[起動と回復] の設定を立ち上げ、[OK] ボタンをクリックすると、[デバッグ情報の書き込み] で選択されているダンプ形式に変更されてしまいます。[OK] ボタンをクリックしてしまった場合は、手順 2 を実行してください。

## □ 「仮想メモリ」 サイズの設定

完全メモリダンプを取得する設定でご使用になる場合、「仮想メモリ」のファイルサイズは物理メモリの容量より大きく設定してください。「仮想メモリ」のファイルサイズを物理メモリよりも小さく設定しようとすると、「ページングファイルを無効にするか、初期サイズが xxxMB よりも小さく設定するかして、システムエラーが発生する場合、問題を識別するために役立つ詳細情報を記録できない可能性があります。続行しますか？」という警告メッセージが表示されます。この「xxx MB」に設定すると正しく完全メモリダンプが取得されないことがありますので、[xxx+300] MB 以上の大きさにファイルサイズを設定してください。

また、カーネルメモリダンプを取得する設定でご使用になる場合も、「仮想メモリ」のサイズが十分でない場合正しくカーネルメモリダンプが取得されない] 場合があります。詳細は次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/949052>

- 1 [スタート] – [管理ツール] – [サーバーマネージャ] をクリックし [サーバーマネージャ] を開きます。
- 2 [システムプロパティの変更] をクリックし [システムのプロパティ] を開きます。
- 3 [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックし [パフォーマンスオプション] を開きます。
- 4 [詳細設定] タブの [仮想メモリ] の [設定] ボタンをクリックし [仮想メモリ] を開きます。
- 5 [すべてのドライブページングファイルのサイズを自動的に管理する] チェックボックスを外します。
- 6 [カスタムサイズ] を選択し、[初期サイズ] と [最大サイズ] に [xxx+300] MB 以上の値を入力します。

…  
補足

[最大サイズ] は [初期サイズ] 以上である必要があります。

- 7 システム装置を再起動します。

## □ PAE : Physical Address Extension について

Windows Server 2008 32bit 版における PAE はすべてのモデルにおいて有効に設定されます。  
PAE の概要については、マイクロソフト社ホームページから “PAE” を検索してご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan>

## □ イベントビューア

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 63

イベント ソース : Microsoft-Windows-WMI

イベント レベル : 警告

説明 : プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root\cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 263

イベント ソース : PlugPlayManager

イベント レベル : 警告

説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイスイベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 15016

イベント ソース : Microsoft-Windows-HttpEvent

イベント レベル : エラー

説明 : サーバ側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

このイベントは無視しても問題ありません。

次のエラー内容がシステムイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 5

イベント ソース : Storflt

イベント レベル : 警告

説明 : The Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry. It is inactive for all disk drives.

Hyper-V が動作していない環境では、このイベントは無視しても問題ありません。詳細は次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/951007>

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 10009

イベント ソース : DistributedCOM

イベント レベル : エラー

説明 : 構成されているどのプロトコルを使っても、DCOM がコンピュータ -ilc と通信できませんでした。

OS のセットアップ直後にこのイベントが記録された場合は問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 7026

イベント ソース : Service Control Manager Eventlog provider

イベント レベル : エラー

説明 : 次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込めませんでした : cdrom

CD-ROM または DVD-ROM ドライブが接続されていない環境で記録されるのであれば、このイベントは無視しても問題ありません。

次のエラー内容がイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 10

ソース : VDS Dynamic Provider

イベント レベル : エラー

説明 : ドライバからの格納中にプロバイダが失敗しました。

仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。Hr=xxxxxxxx

必要な場合は次を参照し、Virtual Disk サービスを再起動してください。

<http://support.microsoft.com/kb/951007>

OS 起動時に次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID : 49

イベント ソース : volmgr

イベント レベル : エラー

説明 : クラッシュダンプのページングファイルの構成に失敗しました。

ブートパーティションにページングファイルがあり、ページングファイルの大きさがすべての物理メモリを含むのに十分であることを確認してください。

Windows が推奨するページファイルのサイズは、搭載した物理メモリ量に応じて変化しますが、C: ドライブのサイズや空き容量により推奨サイズが確保できない場合に本イベントが記録されます。通常の OS 動作に問題はありませんが、完全メモリダンプは採取できません。

大容量の物理メモリを搭載する場合は事前にC: ドライブのサイズを大きめに設定することをお勧めします。

次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベント ID: 7030

イベント ソース: Service Control Manager Eventlog provider

イベント レベル: エラー

説明: RAID Monitor サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない場合があります。

このイベントは無視しても問題ありません。

OS のセットアップ時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 1008

イベント ソース: Microsoft-Windows-Dhcp-Client

イベント レベル: エラー

説明: システムに接続されたネットワーク インターフェイスを初期化できませんでした。  
エラー コード: 指定されたファイルが見つかりません。

iSCSI ブート環境において、OS セットアップ時に一度だけ記録されるのであれば問題ありません。

OS 起動時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 5

イベント ソース: iScsiPrt

イベント レベル: エラー

説明: イニシエータ ポータルのセットアップに失敗しました。ダンプ データにエラー状態が示されています。

iSCSI ブート環境において、OS 起動時に NIC のリンクアップイベントと共に記録されるのであれば問題ありません。

OS 起動時に次のイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 45

イベント ソース: volmgr

イベント レベル: エラー

説明: システムは、正常にクラッシュ ダンプ ドライバを読み込めませんでした。

iSCSI ブート環境において、クラッシュダンプドライバを 設定していないときに記録されます。

クラッシュダンプドライバを設定して記録されなければ、問題ありません。

次のように、説明が正しく表示されないイベントがイベントログに記録される場合があります。

イベント ID: 129

イベント ソース: iScsiPrt

イベント レベル: 警告

説明：ソース "iScsiPrt" からのイベント ID129 の説明が見つかりません。

このイベントを発生させるコンポーネントがローカルコンピュータにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカルコンピュータにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。イベントが別のコンピュータから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。イベントには次の情報が含まれます：

¥Device¥ScsiPort0 メッセージリソースは存在しますが、メッセージが文字列テーブル / メッセージテーブルに見つかりません。

iSCSI 環境において、LAN ケーブルが抜けた場合などに記録されるイベントです。次のように読み替えてください。

「デバイス \Device\ScsiPort0、タイムアウト時間内に応答しませんでした」

<http://support.microsoft.com/kb/937938/ja>

## □ ネットワークアダプタの TCP/IP Checksum Offload 機能について

オンボード LAN アダプタおよび拡張 LAN ボードは、TCP/IP プロトコルのチェックサム計算を LAN コントローラにて実施する機能をもっていますが、本機能は用いずに OS 側で標準的に備えている TCP/IP のチェックサム計算機能をお使いになることをお勧めします。

OS 側で計算するように設定した場合、OS のプロトコル処理の最終段階で、ネットワークから受信したパケットデータの整合性確認が行われることになり、より信頼性の高いシステムを構築いただけます。

LAN コントローラによるチェックサム機能をオフにするには、次のとおり設定してください。

デバイスマネージャから各 LAN アダプタのプロパティを開き、[詳細設定] タブで次の項目の設定を「オフ」にしてください。

- Ipv4 チェックサムのオフロード
- TCP チェックサムのオフロード (Ipv4)
- TCP チェックサムのオフロード (Ipv6)
- UDP チェックサムのオフロード (Ipv4)
- UDP チェックサムのオフロード (Ipv6)
- TCP セグメンテーションのオフロード

設定を変更した後は、システム装置を再起動してください。

## □ ネットワークアダプタのパラメータ変更の制限

ネットワークアダプタの設定を変更したあと、設定を変更したアダプタで正常に通信できない場合があります。

デバイスマネージャで設定を変更したネットワークアダプタを確認し、「！」が表示されている場合は、該当のアダプタを右クリックし、アダプタを無効にしたあと、再度有効にすることで使用できるようになります。

## □ ローカルエリア接続について

[コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - タスクの[ネットワーク接続の管理]を開くと、“ローカルエリア接続 x”(x は数字) という名前でネットワークの接続が表示されます。“ローカルエリア接続”に付随する番号と、“デバイス名”に表示されている LAN デバイスの番号は独立したもので、必ず一致するわけではありません。また、“ローカルエリア接続”に付随する番号と、「ブレードサーバシステム」背面にある、スイッチモジュールのサービス LAN ポートとの関係も独立しており、たとえば“ローカルエリア接続”(番号無し)が、必ずシャーシ背面からみて右側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートに対応するわけではありません。

はじめてネットワークの設定を行う場合は、“ローカルエリア接続”と LAN デバイス、スイッチモジュールのサービス LAN ポートの対応を確認した上で、設定を行ってください。また、“ローカルエリア接続”の名前は変更可能ですので、確認後、使用環境でわかりやすい名前をつけておくことを推奨します。

### [サーバブレード内蔵 LAN デバイスの確認手順]

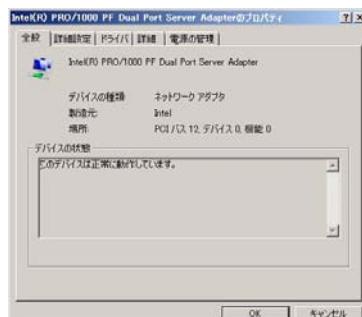
- 1 スタートメニューから、[コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] - タスクの[ネットワーク接続の管理]を開く。



- 2 調べたい“ローカルエリア接続”的上でマウスを右クリックし、表示されるメニューから“プロパティ”を選択し、プロパティを開く。



- 3 [ネットワーク]タブの[構成]ボタンを押す。



#### 4 LANデバイスのプロパティの[全般]タブに表示された内容で、"場所:"の"機能"を確認する。

- ・ "機能"が0であれば、シャーシ後ろから見て右側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続
- ・ "機能"が1であれば、シャーシ後ろから見て左側のスイッチモジュールのサービス LAN ポートへの接続

### □ SAN 記憶域マネージャについて

SAN 記憶域マネージャを使用するためには、VDS に対応したディスクアレイ装置が必要です。ディスクアレイ装置の VDS 対応については、ご使用になるディスクアレイ装置のマニュアル等をご確認ください。

### □ ファイルのプロパティ表示について

エクスプローラでファイルのプロパティを表示し、[ 詳細 ] タブを表示した際、ファイルバージョン、製品情報、製品バージョンなどの情報が表示されない場合があります。OS の再起動や、画面の解像度・色のビット数を変更すると情報が表示される場合があります。

### □ ネットワークアダプタのイベントログ詳細について

ネットワークアダプタのイベントログ説明欄に記録される内容が「Intel(R) 82566DC-2 Gigabit Network Connection」といったネットワークアダプタ名称ではなく、¥DEVICE¥ {354C76B6-E426-4CEB-8015-BF991BA8D75F} と表示されることがあります。

仕様によるもので動作に影響はありません。(ネットワークアダプタ名称、{} 内の数値 (GUID) は御使用の環境により異なる場合があります)

### □ ネットワークアダプタの接続状態の表示について

ネットワークアダプタのリンクアップ時、[ネットワーク接続] やタスクトレイの接続状態がすぐに更新されない場合があります。状態を確認するために、[ネットワーク接続] にて、[表示] - [最新の情報に更新] を選択して接続状態の更新を行ってください。

### □ OS 起動時のネットワークアダプタのイベントログについて

システム起動時に、ネットワークアダプタでエラーイベントログが発生することがあります。ネットワークアダプタがリンクダウンしている可能性があります。[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタが接続されていることをご確認ください。

システム起動時に、ネットワークアダプタの実際のリンク状態に関わらず、リンクアップイベントが記録されることがあります。

[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタの接続状態をご確認ください。

# Windows Server 2008 の セットアップ

ここでは、Windows Server 2008 のセットアップ手順について説明します。

## 注意

セットアップしないと、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

### 補足

- Windows セットアップやドライバ、ユーティリティのインストールは、ご使用になるサーバーブレードに添付された『SystemInstaller』CD-ROM のバージョンが “1x-xx” (x は任意) のものをご使用ください。先頭の “1” が、Windows Server 2008 用を意味します。バージョンが “1x-xx” 以外の SystemInstaller を Windows Server 2008 のセットアップに使用しないでください。また、“1x-xx” を Windows Server 2003 など他バージョンの Windows セットアップに使用しないでください。バージョンが適合しない CD-ROM を使用すると、正常に動作しない原因となります。

ドライバは手順にしたがって指定されるものを適用してください。指定外のドライバを使用された場合正常に動作しません。

- 『SystemInstaller』“1x-xx”をお持ちでない場合は、下記 Web を参照し、Windows Server 2008 のセットアップに必要なドライバ、管理ユーティリティ等を入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/download/driver/index.html>

以降のセットアップ手順では、SystemInstaller 1x-xx 内のドライバを指定している部分を、ダウンロードしたドライバを使用するよう、読み替えてください。また、ドライバ/ユーティリティのセットアップ手順は、「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」 P.164 を参照してください。

- Windows プレインストールモデルにおいては一部 HotFix なども含んで出荷いたします。

Windows の再セットアップをおこなっても HotFix はインストールされないため、厳密にはプレインストールの状態に戻りません。

プレインストールモデルには以下の HotFix がインストールされています。

## ■ KB949189

詳細は「[Active Directory を使用する場合](#)」P.141 をご参照ください。  
プレインストールモデルに含まれる HotFix は “c:\HITACHI\QFE”  
に格納されていますので、事前にバックアップしておき、再セットアップ時に再インストールしてください。

## セットアップ方法について

セットアップは、「OS のセットアップ」と「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」を行なう必要があります。

「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」は「『SystemInstaller』によるセットアップ」と「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」のどちらかの方法で行なうことができます。通常は、ドライバ、ユーティリティのセットアップを自動で行なうことができる「『SystemInstaller』によるセットアップ」をお勧めします。



- OS のセットアップを行なっただけでは正常に動作しません。セットアップ完了後、漏れなく「ドライバ / ユーティリティのセットアップ」を行なってください。

なお、ここではセットアップ時に使用する DVD-ROM を次のとおり表記します。

- Windows Server 2008 Standard (without Hyper-V 含む) 32bit 版セットアップの場合

表記	対象 DVD-ROM
『セットアップ DVD』	Windows Server 2008 Standard プレインストールモデル付属の『サーバインストール DVD-ROM HA8000 / 1P シリーズ BladeSymphony / 4P シリーズ Disc2』DVD-ROM
『セットアップ DVD』	リテール版の『Microsoft Windows Server 2008』Standard DVD-ROM 32bit 版



- 標準の DVD ドライブ名は、ハードディスクの次になります。あらかじめ DVD ドライブ名をご確認ください。
- Standard 32-bit のみサポートしています。

セットアップの流れは次のようになります。

- ▶ …『SystemInstaller』を使用するセットアップ
- ▶ …『SystemInstaller』を使用しないセットアップ

セットアップ前の準備

- ・必要なファイルのバックアップ…/バックアッププログラムなど
- ・ディスクアレイ・パーティションの設定(必要に応じて)
- ・BIOS設定の初期化(必要に応じて)

OSのセットアップ

Windowsのフルインストール

コンポーネント・ユーティリティのインストール

「SystemInstaller構成マネージャ」によるセットアップ支援

ドライバインストール

チップセットドライバ/ LANドライバ/ 表示ドライバ/

MegaRAID Storage Managerのインストール(必要な場合)

Intel(R) PROSetのインストール(必要な場合)

JP1/ServerConductorのインストール

ハードウェア保守エージェントのインストール

レジストリ更新

更新・設定やアプリケーションのインストール

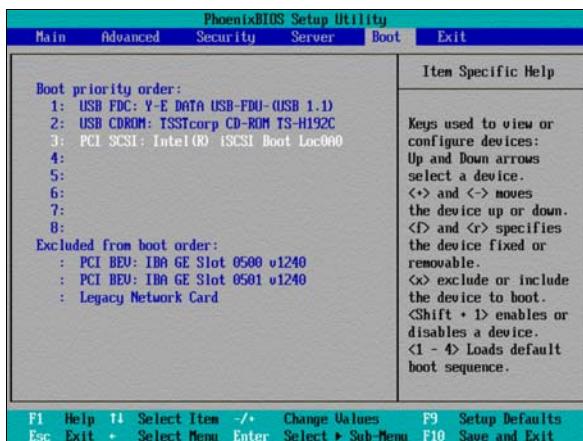
- ・Windows Updateによる更新作業
- ・各コンポーネント・ユーティリティの設定作業
- ・その他アプリケーションのセットアップ(必要に応じて)

# OS のセットアップ

ここでは、Windows Server 2008 のセットアップ方法を説明します。

## □ セットアップ時の制限

- セットアップ時には、リモートコンソールアプリケーションでサーバブレードと接続してください。CD-ROM/DVD-ROM ドライブは、サーバブレード前面の USB ポートに直に接続することを推奨します。
- リモートコンソールアプリケーションのリモート FD について  
Windows セットアップ時にリモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能は使用できません。FD を使用する場合は、USB FD ドライブをサーバブレード前面の USB ポートに接続する必要があります。Windows Server 2008 のセットアップでは、FD ではなく CD-ROM からドライバを読み込む手順を推奨します。
- パーティション (ドライブ) の設定
  - ◆ インストールするパーティション (ドライブ)  
ブートディスクの最初のパーティションにインストールします。インストール先のパーティション内のプログラムやデータはすべて削除されます。
- DVD ドライブについて  
Windows Server 2008 のセットアップは DVD-ROM ドライブ (以下 DVD ドライブ) が必要となります。
- DVD-ROM のイジェクトについて  
DVD ドライブのイジェクトボタンは、DVD-ROM メディア交換時以外に押さないでください。ボタンを押された場合、インストールをやりなおす必要があります。
- OS のインストールに使用する LU は、LUN0 を OS 用に使用するよう iSCSI ストレージの設定を行ってください。また、サーバブレード起動時、F2 キーを押してシステム BIOS のメニューに入り、ブートプライオリティが下記の通りに設定されていることを事前に確認してください。
  - ◆ 見えている LU の中で該当 LU のブートプライオリティが一番高くなっていること
  - ◆ CD/DVD ドライブのブートプライオリティが、該当 LU のブートプライオリティより高くなっていること



## □ セットアップ手順

### 注意

セットアップしなおすと、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

- 1 システム装置の電源を入れたら、すぐに『セットアップ DVD』を DVD ドライブに入れます。
- 2 画面に「Press any key to boot from CD or DVD」が表示された場合、すぐに任意のキーを押します。
- 3 「Windows is loading files」と画面に表示され、しばらくして [Windows のインストール] ウィンドウが表示されます。



**4** 次のウインドウが表示された場合、[今すぐインストール] を選択します。

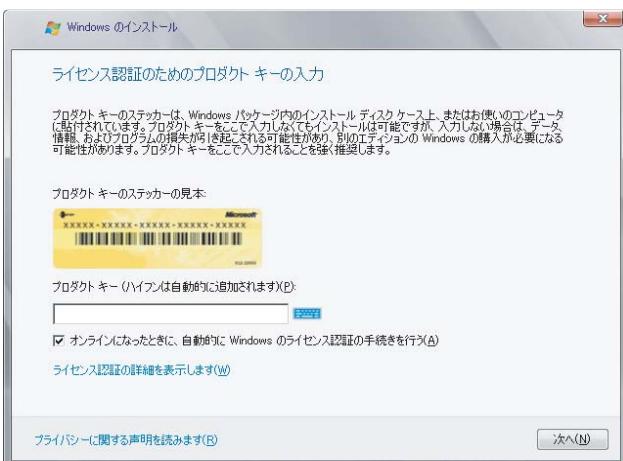


...  
補足

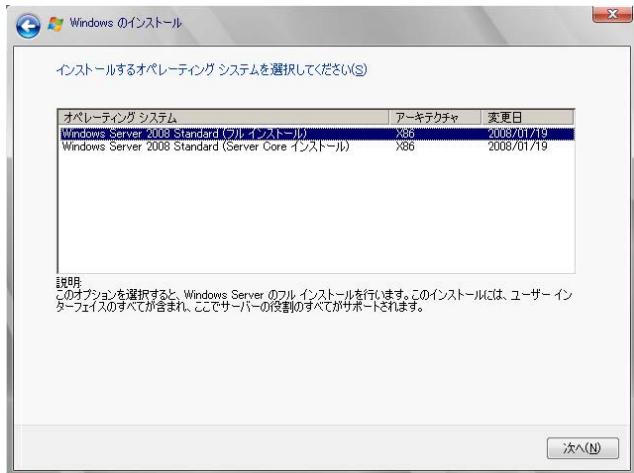
プレインストールモデル付属の『サーバインストール DVD-ROM』などを使用すると、このウインドウ画面が表示されない場合があります。そのまま手順 5 に進んでください。

なお、Windows RE の起動が必要な場合は「[「コンピュータを修復する」について](#)」P.141 をご参照ください。

**5** [ライセンス認証のためのプロダクトキーの入力] 画面が表示された場合、『セットアップ DVD』に適合するプロダクトキーを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6** [購入した Windows のエディションを選択してください] 画面が表示されます。インストールしたいエディションを選択し、[購入した Windows のエディションを選択しました] チェックボックスにチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。



•••  
補足

[購入した Windows のエディションを選択しました] チェックボックスは表示されない場合があります。表示されない場合はチェックする必要はありません。

! 制限

フルインストールを選択してください。  
「Server Core インストール」はサポートしておりません。

- 7** [ライセンス条項をお読みください] 画面が表示されます。ライセンス条項を読み [条項に同意します] チェックボックスにチェック後、[次へ] ボタンをクリックします。



**8** [インストールの種類] 画面が表示されます。[カスタム (詳細)] を選択します。



●  
補足

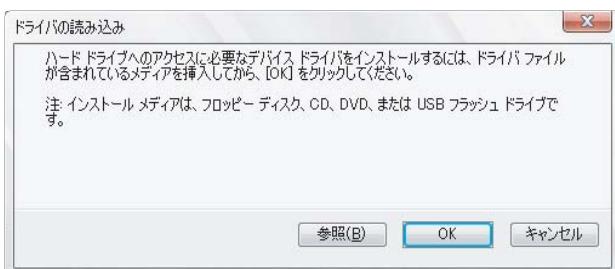
プレインストールモデル付属の『サーバインストール DVD-ROM』などを使用すると、このウインドウ画面が表示されない場合があります。表示されない場合は、そのまま手順 9 に移ります。

**9** [Windows のインストール場所を選択してください] 画面が表示されます。



**10** [ドライバの読み込み] ボタンをクリックします。

[ドライバの読み込み] 画面が表示されます。DVD ドライブから『セットアップ DVD』を取り出し、『SystemInstaller』CD-ROM に入れ替え、[参照] ボタンをクリックします。



**11** [フォルダの参照] 画面が表示されます。次の場所を選択し [OK] ボタンをクリックします。

\*d: は DVD ドライブ名です。

(1) サーバブレード内 HDD (RAID 構成) にインストールする場合

- Windows Server 2008 32bit 版の場合

(d:\Win2008\Drivers\RAID\MegaSR\_01\x86)



**12** [インストールするドライバを選択してください] 画面が表示されます。次のドライバを選択し [次へ] ボタンをクリックします

(1) サーバブレード内 HDD (RAID 構成) にインストールする場合

- Windows Server 2008 32bit 版の場合

LSI MegaRAID SAS 1064E

(d:\Win2008\Drivers\RAID\MegaSR\_01\x86\MegaSR.INF)



**13** [Windows のインストール場所を選択してください] 画面が表示されます。

DVD ドライブから『SystemInstaller』CD-ROM を取り出し、『セットアップ DVD』に入れ替えます。

●●●  
補足

同じ名称が複数表示された場合、任意の名称を選択してください。

**14** 画面にしたがいインストールするパーティションを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

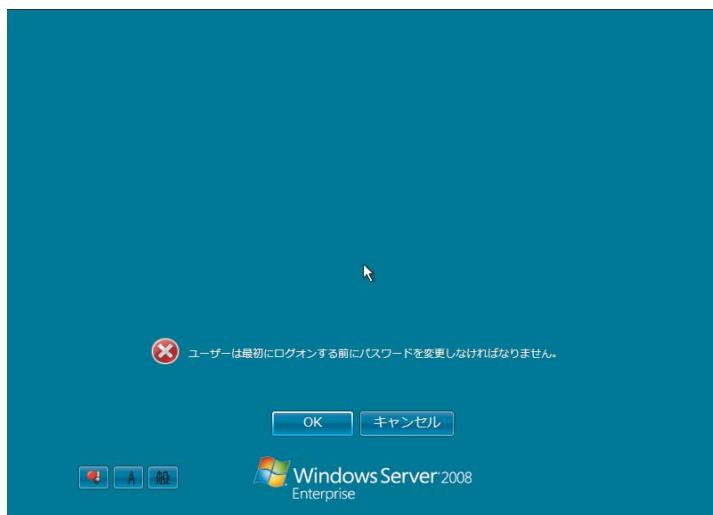


- ダイナミックディスク内のパーティションに対し [削除] ボタンは使用できません。詳細や対処方法については、次をご参照ください。  
<http://support.microsoft.com/kb/926190>
- [ドライブオプション] を使用しパーティションを作成する場合、10GB のパーティションにインストールするとインストールに失敗する場合があります。そのため、40GB 以上のパーティションを作成してインストールすることを強くお勧めします。

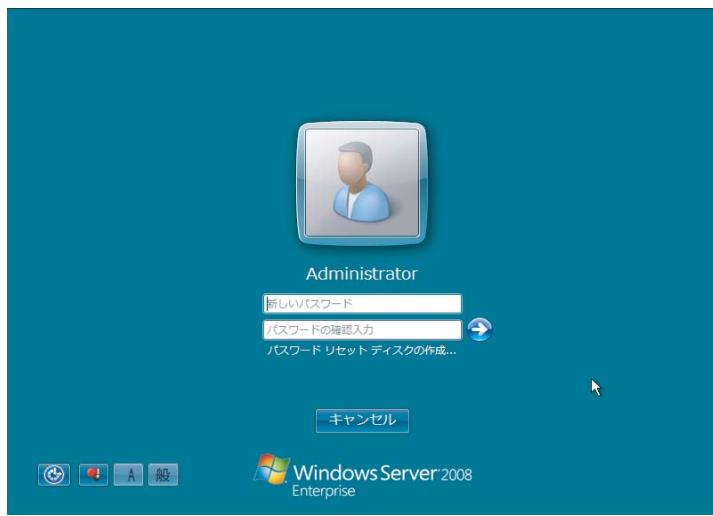
**15** [Windows のインストール中] 画面が表示されます。  
数回再起動した後、OS のセットアップが完了します。



- 16** OS のセットアップ完了後、初回起動時「ユーザは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。



- 17** Administrator のパスワードを [新しいパスワード] と [パスワードの確認入力] に入力し、[→] ボタンをクリックします。

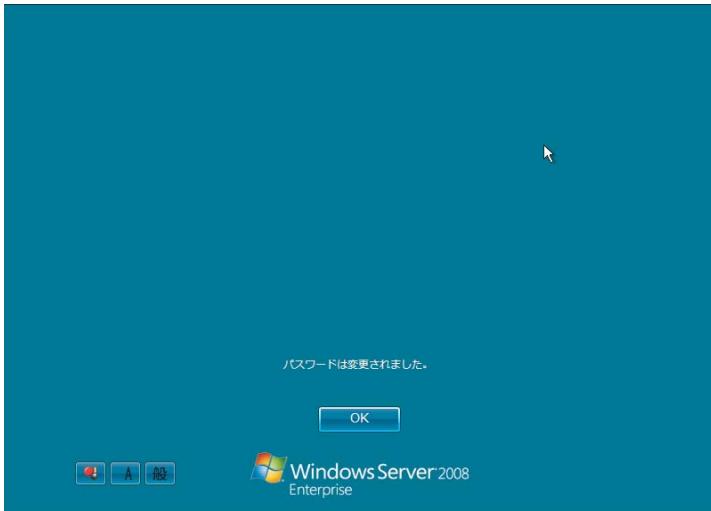


…  
補足

入力するパスワードは次の条件を満たす必要があります。

- 次の文字のうち 3 つ以上組み合わせる。  
英大文字 (A ~ Z)  
英小文字 (a ~ z)  
数字 (1 ~ 9)  
記号 (句読点)
- ユーザーのユーザー名またはフルネームに含まれる3文字以上連続する文字列を含めない。

**18** 「パスワードは変更されました。」と表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



以上で、OS のセットアップは終了です。引き続き「[ドライバ / ユーティリティのセットアップ](#)」P.162を行います。

# ドライバ/ユーティリティのセットアップ

ここでは Windows Server 2008 のドライバ/ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

ドライバ/ユーティリティのセットアップ方法は、「『SystemInstaller』によるセットアップ」と「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」のどちらかの方法で行うことができます。通常は「『SystemInstaller』によるセットアップ」をお勧めします。



ドライバ、ユーティリティのセットアップは「『SystemInstaller』を使用しないセットアップ」を行ってください。

## □ 『SystemInstaller』によるセットアップ

「SystemInstaller 構成マネージャ」(以下、構成マネージャ)を用いると、システム装置の動作に必要なドライバやユーティリティなどのインストールを簡単に行うことができます。

### 「SystemInstaller 構成マネージャ」のセットアップ

最初に構成マネージャをセットアップする必要があります。次の手順でセットアップします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。

d:¥S-INST¥SysInst2.exe

\*d は DVD ドライブ名

[SystemInstaller 構成マネージャのインストール] 画面が表示されます。

- 5 [はい] ボタンをクリックします。

インストール完了後、構成マネージャが起動します。

## ドライバ/ユーティリティのセットアップ

構成マネージャを用いて、ドライバとユーティリティのセットアップを行います。

Windows プラインストールモデルの初期状態と、「『SystemInstaller 構成マネージャ』のセットアップ」P.162 で構成マネージャをセットアップした場合、構成マネージャの自動起動が有効になっています。自動起動する場合は手順 3 へ進みます。



「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されている状態で、SystemInstaller 構成マネージャを実行すると、インストールが進行しない場合があります。現象発生時には「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログの [キャンセル] ボタンを押し、ダイアログを消してください。

- 1** [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
  - 2** 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。  
c:\\$Hitachi\\$INST\\$SysInst2.exe  
\*c はシステムドライブ名  
[SystemInstaller 構成マネージャ] 画面が表示されます。
  - 3** [OK] ボタンをクリックします。  
インストール方法の選択画面が表示されます。
  - 4** すべてをインストールする場合は「デフォルトインストール」をクリックします。  
インストールするコンポーネントを選択する場合は「カスタムインストール」をクリックし、画面にしたがいインストールするコンポーネントを選択後 [次へ] ボタンをクリックします。
- **補足**
- 通常は「デフォルトインストール」をお勧めします。
- 5** [次へ] ボタンをクリックします。  
インストールの準備が開始されます。
- 以降、画面にしたがいインストール作業を続行します。途中、CD の入れ替え作業が発生する場合があります。
- 最後にセットアップの完了画面が表示されます。  
再起動が必要な場合は手順 6 へ、不要な場合は手順 9 へ進みます。
- **補足**
- 各ユーティリティセットアップ時に入力を求められる場合があります。ユーティリティのセットアップ方法詳細は各ユーティリティのマニュアルをご参照ください。各マニュアルの格納先は、「[付属ソフトウェアの使いかた](#)」 P.138 をご参照ください。
- 6** 「今すぐ再起動する。」にチェックして、CD-ROM をドライブから取り出します。
  - 7** [OK] ボタンをクリックします。  
システム装置が再起動されます。
  - 8** 再起動後、「Administrator」でログオンします。  
構成マネージャが自動起動し、処理を続行します。必要に応じて手順 5 ~ 8 を繰り返してください。
  - 9** [終了] ボタンをクリックします。  
構成マネージャが終了します。

## 「SystemInstaller 構成マネージャ」の削除

ドライバとユーティリティのセットアップが完了したあと、構成マネージャを削除します。構成マネージャを削除するには、再起動が必要です。

- 1 構成マネージャの完了画面で「次回構成マネージャを起動しない」のチェックボックスにチェックし、「構成マネージャを削除する」のチェックボックスにチェックします。

【SystemInstaller 構成マネージャの削除】画面が表示されます。

- 2 [はい] ボタンをクリックします。
- 3 [終了] ボタンをクリックします。

構成マネージャが削除され、終了します。

## □ 『SystemInstaller』を使用しないセットアップ

『SystemInstaller』を使用せずセットアップを行う場合は、次のドライバとユーティリティおよびレジストリ更新を個別にインストールする必要があります。

- レジストリの更新
- ドライバ
  - ◆ RAID 仮想デバイスの名称設定 (必要な場合のみ)
  - ◆ チップセットドライバ
  - ◆ LAN ドライバ
  - ◆ 表示ドライバ
- ユーティリティ
  - ◆ MegaRAID Storage Manager
  - ◆ Intel(R) PROSet
  - ◆ JP1/ServerConductor
  - ◆ ハードウェア保守エージェント
  - ◆ オプションボード用ドライバ、ユーティリティ

### レジストリの更新

DVD ドライブに『SystemInstaller』CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れた状態で、以下を実行してください。

\*d は DVD ドライブ名

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥TimeOutValue¥TimeOutValue.bat

また、NMI が発行された時にダンプが取得できるように設定します。

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

**2** 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥NMIDump¥NMID.bat

PCI ドライバの設定をおこないます。

**1** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

**2** 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥avoidD3¥avoidD3.bat

LAN ドライバの設定変更を行います。

**1** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

**2** 次のように入力して [OK] ボタンを押します。

d:\¥Win2008¥Tools¥SNPDS¥SNPDSW08.bat

設定した項目を有効にするため、バッチ実行後に OS の再起動を行ってください。

## RAID 仮想デバイスの名称設定

サーバーブレード内 HDD (SAS RAID 構成) に OS をインストールした場合、RAID 仮想デバイスの名称設定を行うため、次の手順で inf ファイルを適用します。

**1** システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。

**2** DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。

**3** [スタート] - [サーバーマネージャ] をクリックします。

[サーバーマネージャ] が表示されます。

**4** [診断] - [デバイスマネージャ] を選択します。

**5** [システムデバイス] ツリーを展開します。

**6** 次の名称を選択し、右クリックして [ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。

[ドライバソフトウェアの更新ウィザード] が表示されます。

サーバーブレード内 HDD (SAS RAID 構成) の場合

- Windows Server 2008 32bit 版の場合

RAID 仮想デバイス

**7** [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します:] をクリックします。

**8** [コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します:] をクリックします。

**9** [ディスク使用] ボタンをクリックし、[製造元のファイルコピー元:] に、次のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。

サーバーブレード内 HDD (SAS RAID 構成) の場合

- Windows Server 2008 32bit 版の場合

d:\¥Win2008¥Drivers¥RAID¥MegaSR\_01¥x86¥

**10** [ドライバソフトウェアの更新ウィザード] に戻るので、[次へ] ボタンをクリックします。

- 11** [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

## チップセットドライバ

次の手順でチップセットドライバをインストールします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。
- 3 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 次のように入力して [OK] ボタンをクリックします。  
d:\Win2008\Drivers\chipset\INTEL\_01\setup.exe  
\*d は DVD ドライブ名  
[セットアップ] 画面が表示されます。
- 5 [次へ] ボタンをクリックします。  
[使用許諾契約書] が表示されます。
- 6 使用許諾の内容を読み、[はい] ボタンをクリックします。  
以降画面にしたがい、セットアップを続行してください。  
最後に [セットアップ完了] が表示されます。
- 7 [はい、コンピュータを今すぐ再起動します。] を選び [完了] ボタンをクリックしたあと、すぐに CD-ROM をドライブから取り出します。  
システム装置が再起動されます。

## LAN ドライバ

次の手順で LAN ドライバをインストールします。なお、増設 LAN ボードのドライバについて  
は増設 LAN ボードのマニュアルをご参照ください。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM (バージョン 1x-xx) を入れます。
- 3 [スタート] - [サーバーマネージャ] をクリックします。  
[サーバーマネージャ] が表示されます。
- 4 [診断] - [デバイスマネージャ] を選択します。
- 5 ドライバを更新していないネットワークアダプタを右クリックし、[ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。  
[ドライバソフトウェアの更新ウィザード] が表示されます。
- 6 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します:]をクリックします。
- 7 [次の場所でドライバソフトウェアを参照します:] に次のように入力して、[次へ] ボタンをクリックします。
  - ◆ Windows Server 2008 32bit 版の場合：  
d:\Win2008\Drivers\LAN\INTEL\_01\x86

\*d は DVD ドライブ名

[サブフォルダも検索する] はチェックをはずしてください。

- 8 [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。
- 9 LAN ドライバを更新したネットワークアダプタを右クリックし、[削除] を選択します。[デバイスマネージャーの確認] が表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



制限

LAN ドライバを更新していないネットワークアダプタを削除しないでください。LAN ドライバが正しく適用されず、正常に動作しません。

[このデバイスのドライバソフトウェアを削除する] にはチェックをいれないでください。LAN ドライバが正しく適用されず、正常に動作しません。

- 10 LAN ドライバの更新をしていないネットワークアダプタが残っている場合は手順 5 ~ 9 をネットワークアダプタごとに繰り返します。
  - 11 すべてのネットワークアダプタに対して LAN ドライバの更新、および削除を行ったあと、デバイスマネージャの任意のデバイスをクリックし、[操作] - [ハードウェア変更のスキャン] をクリックします。
- すべてのネットワークアダプタが自動で検出され、LAN ドライバが適用されます。



補足

- 作業には数分かかることがあります。デバイスマネージャの表示が更新されている間は、ほかの作業を実施しないでください。
- ネットワークアダプタに、LAN ドライバが自動で適用されている際に、タスクトレイ上で、ドライバが正常にインストールされなかった旨のメッセージが表示されることがあります。LAN ドライバのインストール手順に従い、システム装置を再起動後、デバイスマネージャから各ネットワークアダプタのプロパティを開き、ドライバが正常に適用されていることをご確認ください。

- 12 [基本システムデバイス] を右クリックし、[ドライバソフトウェアの更新] をクリックします。  
[ドライバソフトウェアの更新] が表示されます。
  - 13 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します] をクリックします。
  - 14 [次の場所でドライバソフトウェアを検索します:] に次のように入力して [次へ] ボタンをクリックします。
    - ◆ Windows Server 2008 32bit 版の場合：  
d:\Win2008\Drivers\LAN\INTEL\_01\x86
- \*d は DVD ドライブ名
- [サブフォルダも検索する] はチェックをはずしてください。
- 15 [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] と表示されたことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

●  
補足

ドライバのセットアップ時、「このハードウェアを開始できません」と表示されることがあります。システム装置を再起動することにより正常に動作します。[デバイスマネージャ] で、デバイスが正常に動作していることをご確認ください。

## 表示ドライバ

次の手順で表示ドライバをインストールします。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を起動し、「Administrator」でログオンします。
- 2 DVD ドライブに『SystemInstaller』 CD-ROM を入れます。
- 3 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 次のように入力し、[OK] ボタンをクリックします。
  - Windows Server 2008 32bit 版の場合：  
d:\Win2008\Drivers\SVGA\ATI\_01\DPInst32.exe
- 5 画面にしたがってインストールを完了し、CD-ROM をドライブから取り出したあとシステム装置を再起動します。
- 6 ディスプレイの仕様に合わせて画面の解像度を変更します。

ディスプレイの仕様については各システム装置の『ユーザーズガイド』「5 仕様と付録」「ディスプレイの解像度と色数について」をご参照ください。

## MegaRAID Storage Manager

「MegaRAID Storage Manager」は、ディスクアレイ装置を監視するユーティリティです。サーバーブレード内 HDD (RAID 構成) を使用する場合、必ずインストールしてください。セットアップの詳細は、『SystemInstaller』 CD-ROM の次のファイル『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\MANUAL\MSManager.pdf



インストールを行わないとハードディスク障害を検知できず二重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

## Intel(R) PROSet のインストール

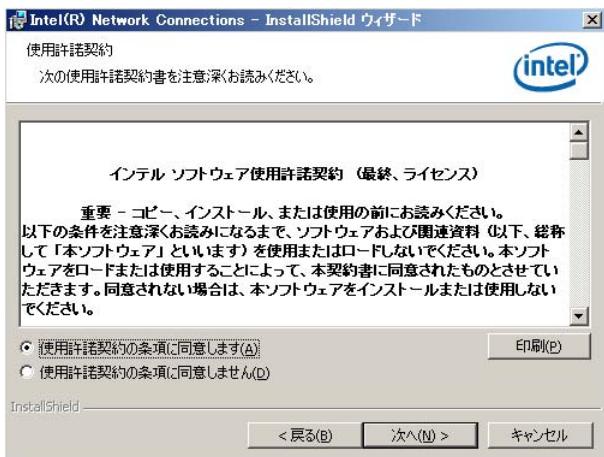
- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンします。
- 2 CD/DVD ドライブにシステム装置添付の『SystemInstaller』 CD-ROM を入れます。
- 3 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 以下のファイルを指定して [OK] ボタンをクリックします。

D:\Win2008\Utility\PROSetDX\APPS\PROSETDX\Vista32\dxSetup.exe

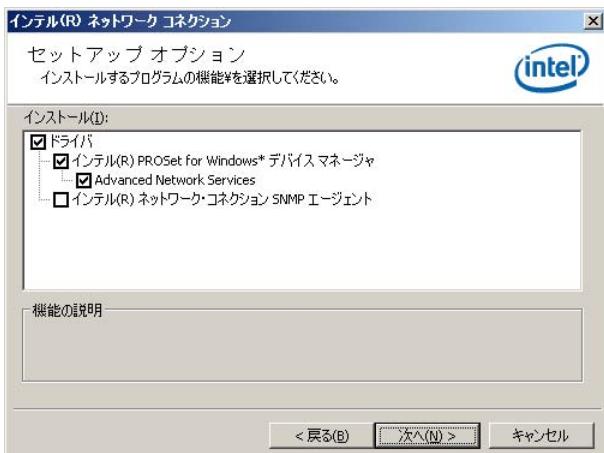
- 5 セットアッププログラムが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認し「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックをして、[次へ] ボタンをクリックします。



- 7 セットアップオプションが表示されますので、「インテル(R) PROSet for Windows\* デバイスマネージャ」と「Advanced Network Services」にチェックが入っていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。





「インテル(R) ネットワーク・コネクション SNMP エージェント」にはチェックを入れないでください。

- 8 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されますので、[インストール] ボタンをクリックします。
- 9 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されますので、[完了] ボタンをクリックし、システム装置を再起動します。



Intel(R) PROSet のインストール後、[WMI] の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります、問題ありません。

## JP1/ServerConductor

「JP1/ServerConductor」は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。インストール手順については『JP1/ServerConductor』 CD-ROM の次のファイルをご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\readmeSA.txt

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

セットアップの詳細は、『ハードウェア保守エージェント』 CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 取扱説明書』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf



「ハードウェア保守エージェント」は、インストールしてご使用ください。障害発生時、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

「ハードウェア保守エージェント」を使用するには「JP1/ServerConductor」が必要です。ご使用のシステム装置に合わせ、いずれかのインストールを事前に完了しておいてください。

# 4

## インテル® Xeon® プロセッサ 搭載サーバーブレード (管理サーバーブレード) Windows Server 2003 R2 (32 ビット) 編

---

この章では、インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレード Windows Server 2003 R2 (32 ビット) モデルについて説明します。

•  
補足

Windows Server 2008 プレインストールモデル (Windows Server 2003 インストール代行サービス付き) をご購入いただいた場合、本章では "プレインストールモデル" を "Windows Server 2008 プレインストールモデル (Windows Server 2003 インストール代行サービス付き)" と読み替えてください。

電源を入れる／切る	172
システム装置を立ち上げ直す（リセット）	178
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作／設定変更方法	179
付属ソフトウェアの使い方	181
ソフトウェアの使用について	183
Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ	194

# 電源を入れる／切る

ここでは、はじめてシステム装置に電源を入れる際の操作の方法や、日常、電源を入れたり切ったりする方法を説明します。

## はじめて電源を入れる

インテル® Xeon® プロセッサ搭載サーバーブレードは、ディスプレイやキーボード、マウスなどのデバイスは接続されません。基本的な操作は、リモートコンソールアプリケーションによりネットワーク経由で行います。Windows の起動後は、リモートデスクトップ接続で操作することも可能です。

Windows プラインストールモデルをご購入いただいた場合、はじめて電源を入れるときは、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードに接続して作業を行ってください。

リモートコンソールへの接続方法、及びリモートコンソールアプリケーションについての詳細は、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照してください。

OSなしサーバーブレードをご購入され、Windows をセットアップする場合は、『Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ』 P.194 をご参照ください。

補足

使用許諾契約とは

使用許諾とは、Windows を使用することを許諾するものです。使用許諾契約に同意すると、次回から使用許諾契約の画面は表示されません。再セットアップするときも同意が必要です。

設定手順の表示項目について

以下の手順は、お客様がブラインストールモデルでの工場設定値を何もご指定いただいているない場合について記載しております。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されないあるいは、表示されても入力済みとなっているものがあります。

## □ 電源を入れる

### 1 リモートコンソールでサーバーブレードに接続する準備を行う。

リモートコンソール接続についての詳細は、『リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。

### 2 サーバーブレードの電源を入れる。



電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからシステム装置の電源を入れてください。また、電源を切るときには、システム装置の電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

●●●  
補足

これ以降、操作を間違えたときは、画面の【戻る】ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

**3** リモートコンソールで、該当サーバーブレードに接続する。

しばらくして【Windows セットアップ ウィザードの開始】が表示される。

**4** 【次へ】ボタンをクリックする。

【ライセンス契約】が表示される。

**5** 内容を確認し問題なければ、【同意します】をチェックし【次へ】ボタンをクリックする。

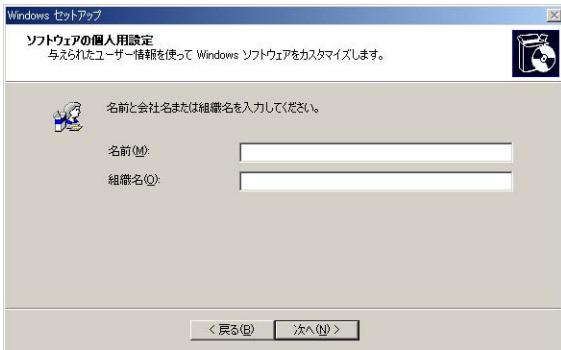
【ソフトウェアの個人用設定】が表示される。

●●●  
補足

これ以降の設定作業の途中で【セキュリティの警告ドライバーのインストール】画面、または【ソフトウェアのインストール】画面、【ハードウェアのインストール】画面が表示される場合があります。

【はい】ボタンを選択してインストールを続行してください。デフォルトでは【いいえ】ボタンが選択されているため、必ず【はい】を選択し直すよう注意してください。【いいえ】を選択すると、正しいドライバーが適用されません。

**6** 【ソフトウェアの個人用設定】が表示される。



■ 日本語を入力するには

1. ローマ字で読みがなを入力する。
2. 目的の漢字になるまでスペースキーを押す。
3. 【Enter】キーで確定する。

**7** 名前を入力する。必要に応じて組織名を入力する。

【次へ】ボタンをクリックする。

【コンピュータ名と Administrator のパスワード】が表示される。

**8** コンピュータ名を入力する。必要に応じて Administrator のパスワードを入力する。

【次へ】ボタンをクリックする。

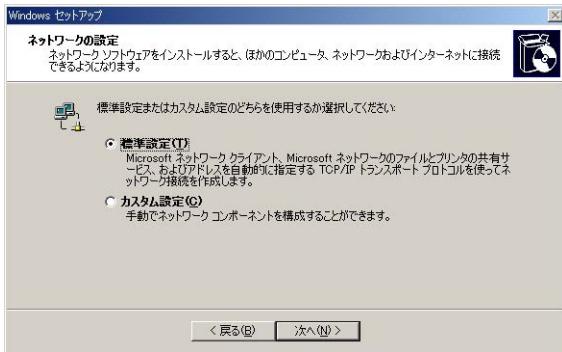
数分間設定が行われたあと、【ネットワークの設定】が表示される。

•••  
補足

コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。

コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。

設定したパスワードを忘れてしまうと、次回の立ち上げから Windows Server 2003 R2 (32 ビット) にログオンできなくなります。その場合、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) を再インストールする必要があります。



**9** [標準設定] か [カスタム設定] のどちらかをチェックして [次へ] ボタンをクリックする。

[標準設定] を選んだ場合は手順 11 へ進む。

**10** [ネットワークコンポーネント] が表示されるので、必要となるコンポーネントをインストールし [次へ] ボタンをクリックする。

**11** [ワークグループまたはドメイン名] が表示される。使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**12** 以降、インストール処理が行われる。

システム装置が立ち上げ直される。

**13** システム装置立ち上げ後、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) にログオンする。

•••  
補足

デスクトップが表示されるまで、以下のようなダイアログが表示される場合があります。設定が終わるまでしばらくお待ちください。



[SystemInstaller 構成マネージャ]、[サーバーの役割管理]、および [セットアップ後のセキュリティ更新] 画面が表示される。

●  
補足

サーバの構成変更（サービスの追加、プロトコルの追加など）を実施すると「Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」の CD-ROM を要求されることがあります。Windows Server 2003 R2 (32 ビット) プレインストールモデルをご購入の場合、システム装置に添付されている「セットアップ CD」をご使用ください。

## 14 使用する環境に合わせて設定を行う。

詳細については Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の [コンピュータの管理] のオンラインヘルプをご参照ください。

# OS 修正モジュール

OS の修正パッチ、ドライバ、ファームの入手、及び最新情報は、以下の Web サイトで発信しています。また、情報は適時更新されており、定期的な確認をお願いいたします。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony>

[サポート] ページの "ダウンロード" を参照してください。

## OS 修正モジュールのバックアップ (Windows プレインストールモデルのみ)

Windows プレインストールモデルをご購入いただいたお客様は、OS の修正モジュールが適用されており、このバックアップデータがハードディスク内の以下のフォルダに格納されています。

C:\¥HITACHI¥QFE

セキュリティパッチは、必要に応じ最新のものを Windows Update サイト等から入手してください。

- WindowsServer2003-KB932755-x86-JPN.exe

記憶域ドライバ Storport の修正モジュールです。SP2 環境の必須修正モジュールとなります。SP2 環境では必ずインストールしてください。本モジュールは、Windows Server 2003 R2 SP2 プレインストールモデルにのみ付属します。

再セットアップに備え、上記修正モジュールのバックアップを採取しておいてください。

OS の修正パッチ、ドライバ、ファームの入手、及び最新情報は、以下の Web サイトで発信しています。また、情報は適時更新されており、定期的な確認をお願いいたします。

<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony>

[サポート] ページの "ダウンロード" を参照してください。

# 電源を切る

通常は、次の方法でシステム装置の作業を終了して電源を切ります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする。



いきなりPOWERスイッチを押して電源を切らないでください。データが壊れたり、Windows が立ち上がらなくなる場合があります。



[Windows のシャットダウン] が表示される。

- 2 「実行する操作を選んでください」で [シャットダウン] を選択し、「シャットダウンイベントの追跡ツール」でシャットダウンの理由を選択する。



シャットダウンの理由が「その他」の場合は、「説明」を記述する必要があります。

**3** [OK] ボタンをクリックする。

システム装置の電源が切れる。

**4** ディスプレイなどの周辺機器の電源を切る。

## 日常、電源を入れる

2 回目以降は、電源を入れるとすぐにシステム装置を使えます。使用許諾契約や名前と組織名の入力画面などは表示されません。

**1** ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れる。

**2** システム装置前面の POWER スイッチを押す。

[ログオンの開始] 画面が表示される。



システム装置の立ち上げ時にキーボードを連打しないでください。  
エラーメッセージが表示される場合があります。

ディスプレイの機種によっては、表示されるまで時間がかかることがあります。

**3** [Ctrl] キーと [Alt] キーとを押したまま [Delete] キーを押す。

[ログオン情報] 画面が表示される。

**4** ユーザー名とパスワードを入力して [Enter] キーを押す。

Windows が立ち上がり、デスクトップ画面が表示される。

# システム装置を立ち上げ直す (リセット)

アプリケーションの処理中にシステム装置が動作しなくなった時に、アプリケーションを強制的に終了したり、システム装置を強制的に立ち上げ直したり(リセット)すると、正常に動作するようになることがあります。

## アプリケーションを強制的に終了する

タスクバーをマウスの右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの【タスクマネージャ】をクリックします。【アプリケーション】タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、【タスクの終了】ボタンをクリックします。

## システム装置を強制的に立ち上げ直す

Windows が正常に動作しなくなった場合には、POWER スイッチを 4 秒以上押して電源を切ってください。ただし、HDD をフォーマットし直さなければシステム装置が使用できなくなる場合があります。



制限

電源を入れた後、Windows が立ち上がるまでは非常時を除いて POWER スイッチを押さないでください。リセットした場合は、一度 Windows を立ち上げて正しく終了してから、立ち上げ直してください。

# Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本操作／設定変更方法

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の基本的な操作および設定の変更方法を説明します。

## [コントロール パネル] を表示する

[コントロール パネル] 内のアイコンをクリックすることで、システム装置を使いやすいうように設定できます。

**1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をポイントする。



[コントロール パネル] が展開される。

**2** 自分の設定する内容に応じたアイコンをクリックする。

- ◆ [画面] アイコン：  
画面の解像度を変更したり、デスクトップの画像を変更できる。
- ◆ [システム] アイコン：  
Windows のバージョンを調べたり、環境変数やユーザー プロファイルを調べるこ  
とができる。
- ◆ [プログラムの追加と削除] アイコン：  
システム装置に新しいアプリケーションのインストールや削除を行ったりする。

## ヘルプの使い方

Windows には、使用方法について書かれているヘルプが用意されています。

### □ [ヘルプとサポート] を立ち上げる

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート] をクリックする。  
[ヘルプとサポートセンター] が立ち上がる。

### □ 知りたい操作を調べる

- 1 知りたい操作が書かれているトピックを探す。[ヘルプとサポートセンター] 画面左上にある [検索] に目的のトピックに関連したキーワードを入力し、[→] ボタンをクリックする。  
検索が始まり、しばらくすると検索結果が表示される。
- 2 目的のトピックが見つかったらクリックする。  
トピックが表示される。
- 3 ヘルプ本文を読む。
  - [戻る] ボタン : 直前に表示していたウィンドウに戻る。
  - [オプション] ボタン : 表示する文字の大きさを変更したり、検索オプションの変更が行える。
- 4 ヘルプを終了するには、ウィンドウの右上にある [×] (クローズ) ボタンをクリックする。

## [画面のプロパティ] の使い方

リモートコンソールを使用する場合に設定できる解像度については、「リモートコンソールアブリケーションユーザーズガイド」を参照してください。

# 付属ソフトウェアの使い方

このシステム装置に付属しているソフトウェアについて説明します。

## JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent

JP1/ServerConductor/Agent は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。

また JP1/ServerConductor/Advanced Agent は、電源制御など JP1/ServerConductor/Agent の拡張機能を使用するためのソフトウェアです。

インストールすることで、システム装置を効率よく管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使い方の詳細は『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM の次のファイルを開き、『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 システム管理者ガイド』をご参照ください。

D:\Manual.htm

補足

画面やマニュアルに「ServerConductor/Agent」という表記がある場合、「JP1/ServerConductor/Agent」と読み替えてご使用ください。

## MegaRAID Storage Manager

ディスクアレイ装置を管理するために必要なソフトウェアです。管理サーバーブレードへ必ずインストールしてください。インストールを行わないとハードディスク障害を検知できず二重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使い方の詳細は『SystemInstaller』CD-ROM の次のファイル『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』をご参照ください。

D:\MANUAL\MSManager.pdf

補足

プレインストールモデルで RAID 構成の場合は、MegaRAID Storage Manager はインストール済みです。

制限

MegaRAID Storage Manager は管理サーバーブレードへ必ずインストールしてください。

## ハードウェア保守エージェント

「ハードウェア保守エージェント」はシステム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ハードウェア保守エージェント』CD-ROM の次のファイル『ハードウェア保守エージェント 構築ガイド』をご参照ください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

d:\bds\_hw\_agent\_guide\_r\*\*.pdf

# ソフトウェアの使用について

ここでは、ソフトウェアを使用するときの制限について説明します。

## Windows Server 2003 SP2/R2 SP2 (32 ビット) 使用上の制限

### □ SP2 適用時のネットワークに関する注意事項

SP2 インストール後、稀に TCP レイヤの通信プロトコルを使った通信ができないことが確認されています。詳細はマイクロソフト社 KB936594 (<http://support.microsoft.com/kb/936594/ja>) で公開されています。

SystemInstaller を使用してインストールした場合は、「SystemInstaller 構成マネージャ」から「SNP 無効化ツール」を実行してください。セットアップ CD のみによるセットアップの場合は「サービスパック 2(SP2)」P.220 を参照し、「SNP 無効化ツール」を実行してください。また、「デバイスマネージャ」-「ネットワークアダプタ」の各 LAN コントローラのプロパティにて、「詳細設定」タブ内に [受信側スケーリング] が存在する場合、[受信側スケーリング] が「オフ」であることを確認してください。“オン”的場合、ごく稀に通信が出来ない場合があります。

●  
補足

LAN コントローラによっては [受信側スケーリング] が表示されません。表示されない場合は設定する必要はありません。

### □ ヘルプとサポート

"Help and Support" サービスが消えてしまい、スタートメニューの「ヘルプとサポート」が起動できなくなる現象が確認されています。この場合、次の手順で "Help and Support" サービスを再登録してください。

**1** コマンドプロンプトを開きます。

**2** 次のディレクトリに移動します。

C:\Windows\PCHealth\HelpCtr\Binaries

**3** 次のコマンドを入力し、実行します。

start /w HelpSvc.exe /regserver /svchost netsvcs /RAInstall

**4** [スタート] メニュー - [コントロールパネル \*] - [管理ツール] - [サービス] を開きます。

\* クラシック [スタート] メニューに変更した場合は [設定] - [コントロールパネル] となります。

- 5** サービス一覧に "Help and Support" サービスが存在することを確認し、サービスを「開始」します。

なお、詳細については次をご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/937055/ja>

## □ エクスプローラ

ネットワーク接続した共有フォルダから、エクスプローラを使用してファイルをドラッグ & ドロップすると、「このゾーンからファイルを移動したり、コピーできるようにしますか?」とダイアログが表示されることがあります。

これは SP2 でセキュリティが強化されたための仕様となります。コマンドプロンプトでの copy コマンドなどを使ったファイルコピーでは、ダイアログは表示されません。

## □ セキュリティの構成ウィザード

SP2 をアンインストールすると、デスクトップ上の「セキュリティの構成ウィザード」ショートカットアイコンが消えることがあります。

ショートカットで表示される内容は、[スタート] メニュー [ヘルプとサポートセンター] を起動し、"不要なサービスを無効" で検索し表示される、"セキュリティの構成ウィザード: セキュリティの構成ウィザード" で参照できます。

## □ 修正プログラムの適用について

SP2 適用後、Microsoft 社より提供される次の修正プログラムを漏れなく適用してください。適用しない場合、Windows が正常に動作しません。

「Windows Server 2003 用の記憶域ドライバ Storport の更新版 (バージョン 5.2.3790.4021)」について」

修正プログラムは、以下の web サイトより、使用しているエディションに合わせてダウンロードしてください。

<http://support.microsoft.com/kb/932755/ja>

Windows Server 2003 R2 SP2 ブレイインストールモデルでは本修正モジュールは適用済みです。

## □ Windows のシャットダウン

Windows立ち上げ時にスタートするよう登録されたサービスの立ち上げ中にシャットダウンを行うと、正常にシャットダウンできない場合があります。Windows を立ち上げてから 1 分間以上時間をあけてください。

## □ ディスクの管理

FAT16 パーティション（[ディスクの管理] では FAT と表示されます）を作成する場合の最大容量は 4,094MB です。

ダイナミックボリュームについては [スタート] メニュー [ヘルプとサポート] を起動し、[ディスクとデータ] — [ディスクとボリュームを管理する] — [ディスクの管理] — [操作方法] — [ダイナミックボリュームを管理する] をご参照ください。

新しいハードディスクの追加／ハードディスクの物理フォーマットを行った場合、[ディスクの管理] を起動した場合に [ディスクのアップグレードと署名のウィザード] のダイアログボックスが表示されます。ダイアログの指示に従いディスクの署名をしてください。

## □ フォールトトレラント

サーバーブレーに搭載した HDD でミラー構成を組む場合は、Windows のフォールトトレラント機能ではなく、オンボードの RAID 機能をご使用ください。

## □ バックアップ

[システムツール] のバックアップと、SQL Server などほかのアプリケーションのバックアップ機能でテープを併用できません。

バックアップ／リストア時、ログに出力される処理したファイルのバイト数がバックアップ時とリストア時で異なります。ただし、バックアップ、リストアが正常に終了した意味のメッセージが表示されていれば問題ありません。

OS 標準のバックアップツールでは、チェンジャ付バックアップデバイスを使用しないでください。LTO チェンジャ等をご使用になる場合は、市販のバックアップアプリケーションを使用してください。

## □ リムーバブルディスクを使用する場合

Windows が立ち上がっている間にリムーバブルドライブのイジェクトボタンを押しても、ディスクが取り出せないことがあります。この場合、[マイコンピュータ] や [エクスプローラ] を使用します。デバイスにマウスカーソルを置き、マウスの右ボタンをクリックし、メニューの [取り出し] をクリックします。ただし、この操作は、Administrators グループに登録されていないメンバーは行えません。Administrators グループ以外のメンバーでディスクを取り出す場合、以下の方法でポリシーを変更してください。

- 1 [スタート] メニュー [すべてのプログラム\*] — [管理ツール] — [ローカルセキュリティポリシー] を選ぶ。  
\* クラシック [スタート] メニューに変更した場合は [プログラム] となります。
- 2 [ローカルポリシー] — [セキュリティオプション] にマウスカーソルを合わせクリックする。
- 3 [デバイス: リムーバブルメディアを取り出すのを許可する] にマウスカーソルを合わせダブルクリックする。
- 4 [Administrators] を [Administrators と Interactive Users] に変更し、[OK] ボタンをクリックする。

## □ インターネットエクスプローラ使用上の制限

使用するアプリケーションによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このときは、いったんアプリケーションを最小化するなどして画面を再描画させてください。

## □ 画面表示

タスクの切り替えなどで画面の表示を切り替えると、タイミングによって前の表示が残る場合があります。この場合、その箇所を再描画させると正しく表示されます。

使用状況によっては、メッセージボックスが、ほかのウィンドウの裏側に隠れて見えないことがあります。

表示色などを変更するときは、アプリケーションを終了してください。アプリケーションの表示がおかしくなることがあります。この場合、画面を切り替えるなどして再描画すると正しく表示されます。

リモートコンソールアプリケーションを使う上での注意事項は、『リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド』を参照してください。

## □ 節電機能

「スタンバイ」や「休止状態」の機能はサポートしておりません。

スタートメニューの [シャットダウン] より、[スタンバイ]、[休止状態] は選択しないようお願いいたします。

また、電源オプションの [システムスタンバイ]、[ハードディスクの電源を切る]、[休止状態] も使用できません。「なし」の設定のままでご使用ください。

## □ システムが停止したときの回復動作の設定

[自動的に再起動する] チェックボックスは、オフにすることを推奨いたします。

回復動作の設定手順、その他の制限事項については、[スタート] メニュー [ヘルプとサポート] をご参照ください。

## □ 2GB を超える物理メモリで完全メモリダンプを採取する方法

2GB を超えるメモリを搭載したシステム装置に Windows をセットアップした場合、[デバッグ情報の書き込み] で [完全メモリダンプ] は選択できません。2GB を超える物理メモリ環境で [完全メモリダンプ] を採取する場合、次の手順を行ってください。

- 1 CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れる。
- 2 [スタート] メニュー [ファイル名を指定して実行] を選び、ファイル名に "d:\utility\dump\pmde.bat" と入力し [OK] ボタンをクリックする。

### 3 次のメッセージが表示されたら、何かキーを押す。

“完全メモリダンプを採取する設定に変更します。

続行するには、何かかのキーを押してください。

中止するには、Ctrl + C を押してください。”

### 4 [コントロールパネル] – [システム] を選び、[詳細設定] タブ – [パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックする。

### 5 [詳細設定] タブ – [仮想メモリ] の [変更] ボタンをクリックする。

### 6 初期サイズを推奨のファイルサイズに変更して [設定] ボタンをクリックし、続けて [OK] ボタンをクリックする。

手順 2 を実行後、[起動と回復] の設定を立ち上げ、[OK] ボタンをクリックすると、[デバッグ情報の書き込み] で選択されているダンプ形式に変更されてしまいます。[OK] ボタンをクリックしてしまった場合は、手順 2 を実行してください。

## □ 「仮想メモリ」 サイズの設定

完全メモリダンプを取得する設定でご使用になる場合、「仮想メモリ」のファイルサイズは物理メモリの容量より大きく設定してください。「仮想メモリ」のファイルサイズを物理メモリよりも小さく設定しようとすると、「ボリューム c: のページファイルの初期サイズが xxx MB よりも小さい場合、システムは STOP エラーが発生してもデバッグ情報ファイルを作成できない可能性があります。続行しますか?」という警告メッセージが表示されます。この「xxx MB」に設定すると正しく完全メモリダンプが取得されないことがありますので、[xxx+11] MB 以上の大きさにファイルサイズを設定してください。

## □ デバイスマネージャ

- デバイスマネージャで、101/109 キーボードを接続しているにもかかわらず「101/102 英語キーボード」と表示される場合があります。キーボードのキー入力には問題ありませんが、正しく表示させる場合は次をご参照ください。  
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;415060>
- デバイスマネージャに”? SVPMASS”的表示がされる場合がありますが、リモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能に対するデバイスです。リモート FD の使用法については、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照願います。
- デバイスマネージャに“不明なデバイス”が表示される場合がありますが、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD/DVD 機能に対するデバイスです。リモート CD/DVD の使用法については、「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照願います。

## □ イベントビューア

- OS の再起動直後に次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：Service Control Manager

イベント ID：7011

説明：Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト (30000 ミリ秒) になりました。

OS の再起動直後の一度のみ記録されるのであれば問題ありません。

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：DCOM

イベント ID：10016

説明：アプリケーション固有権限の設定では、CLSID {BA126AD1-2166-11D1-B1D0-00805FC1270E} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE SID (S-1-5-20) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

システムに影響はありません。なお、イベントログ「説明」内の CLSID、ユーザーについては使用環境により異なる場合があります。

詳細については、マイクロソフト社 ホームページから “KB900377” を検索してご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：エラー

イベント ソース：NetBT

イベント ID：4307

説明：トランスポートが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

コマンドプロンプトより、「nbtstat -n」を実行しコンピュータ名が正しく登録されなければ問題ありません。詳細については、マイクロソフト社 ホームページからイベント検索などでご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/support/default.mspx>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類：情報

イベント ソース：Application Popup

イベント ID：41

説明：このマルチプロセッサ システムの CPU は、一部が同じリビジョン レベルではありません。すべてのプロセッサを使用するためオペレーティング システムをシステムで可能な最小のプロセッサに制限します。このシステムで問題が発生する場合は、

CPU 製造元に問い合わせてこの混合プロセッサがサポートされているかどうかを確認してください。

これはサーバーブレードに搭載されている複数のCPUのステッピングレベルがすべて同じではない場合に発生しますが、動作検証済みであり問題ありません。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/support/default.mspx>

- 次のエラー内容がイベントログに記録されることがあります。

イベントの種類 : エラー

イベント ソース : WMIxWDM

イベント ID: 106

説明: 報告されたマシンチェックイベントは修正されたエラーです。プロセッサー内部キャッシュの ECC エラーの発生を意味しますが、自動的に訂正されるため問題ありません。

## □ USB フロッピードライブを使用する場合

USB フロッピードライブを接続した状態で Windows のセットアップを行った場合、システムイベントログに以下のイベントが記録される場合があります。

ソース : Sfloppy

種類 : 警告

イベント ID : 51

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Floppy0 上でエラーが検出されました

セットアップ以降、このエラーが表示されなければ問題ありません。

## □ LAN デバイスで WOL(Wake On Lan) 機能を使用する場合

標準の状態では、LAN デバイスの WOL 機能を使用できない場合があります。デバイスマネージャから、WOL を使用する LAN アダプタのプロパティを開き、[ 詳細設定 ] タブまたは [ 電力の管理 ] タブで以下の項目をデフォルト値から変更してください。

- Intel(R) PRO/1000 EB Backplane Connection with I/O Acceleration

(1) Intel(R) PROSet をインストールしていない場合

[ 詳細設定 ] タブで "PME をオンにする" を "オン" に設定する



[ 電力の管理 ] タブで " 電源オフ状態からの Wake On Magic Packet" にチェックを入れる



…  
補足

Intel(R) PROSet のバージョンの確認は、[ コントロールパネル ]-[ プログラムの追加と削除 ] から行ってください

- Intel(R) PRO/1000 PF Dual Port Server Adapter

この内蔵 LAN での WOL は未サポートです。

LAN デバイスの確認方法については、次の「ローカル エリア接続について」を参照願います。

## □ ローカルエリア接続について

[コントロールパネル] – [ネットワークの接続] を開くと、“ローカルエリア接続 x”(x は数字)という名前でネットワークの接続が表示されます。“ローカルエリア接続”に付随する番号と、“デバイス名”に表示されている LAN デバイスの番号は独立したもので、必ず一致するわけではありません。また、“ローカルエリア接続”に付随する番号と、BladeSymphony SP のシャーシ背面にある、スイッチのサービス LAN ポートとの関係も独立しており、たとえば“ローカルエリア接続”(番号無し)が、必ずシャーシ背面からみて右側のスイッチのサービス LAN ポートに対応するわけではありません。

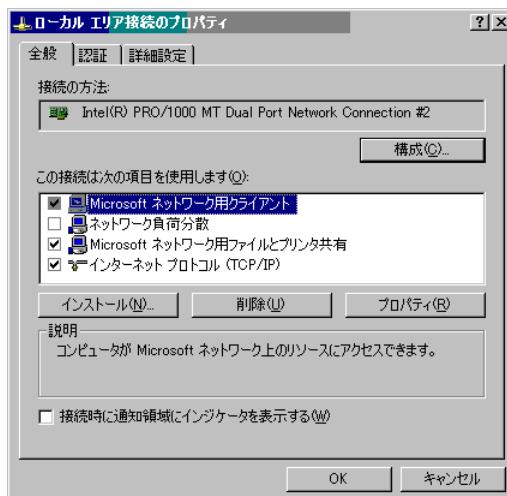
はじめてネットワークの設定を行う場合は、“ローカルエリア接続”と LAN デバイス、スイッチのサービス LAN ポートの対応を確認した上で、設定を行ってください。また、“ローカルエリア接続”的名前は変更可能ですので、確認後、使用環境でわかりやすい名前をつけておくことを推奨します。

### [サーバブレード内蔵 LAN デバイスの確認手順]

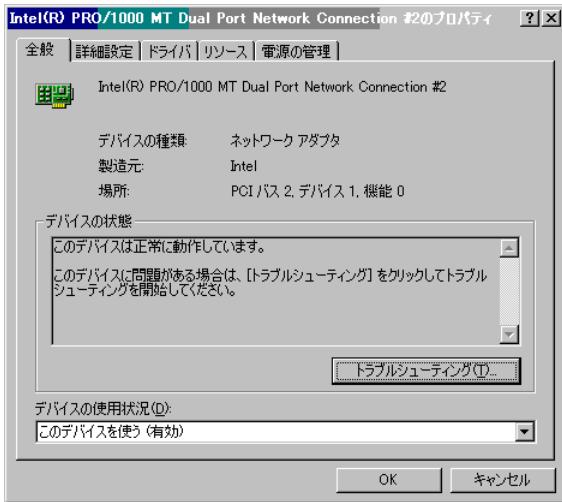
- 1 スタートメニューから、[コントロールパネル] – [ネットワーク接続] をマウスでポイントし、右クリックで表示されるメニューから“開く”を選択し、[ネットワーク接続] を開く。



- 2 調べたい“ローカルエリア接続”的上でマウスを右クリックし、表示されるメニューから“プロパティ”を選択し、プロパティを開く。



**3 [全般] タブの [構成] ボタンを押す。**



**4 LAN デバイスのプロパティに表示された内容で、“場所：”の“機能”を確認する。**

- “機能”が 0 であれば、シャーシ後ろから見て右側のスイッチのサービス LAN ポートへの接続
- “機能”が 1 であれば、シャーシ後ろから見て左側のスイッチのサービス LAN ポートへの接続

## □ OS インストールメディア

SystemInstaller を使って OS セットアップを行う場合、使用する OS メディアに制限があります。詳細は [「SystemInstaller」を使用したセットアップ」 P.196](#) を参照してください。

## □ SAN 記憶域マネージャの制限

Windows Server 2003 R2 の追加コンポーネントである「SAN 記憶域マネージャ」を使用するには、Microsoft 社の VDS (Virtual Disk Service) 1.1 以降に対応したストレージサブシステムが必要です。2006/3 時点で SAN 記憶域マネージャの使用はできません。

## □ Scalable Networking Pack (KB912222) について

Microsoft 社より "Scalable Networking Pack" (KB912222) が提供されておりますが、一部の機能の恩恵を受けるためには対応したハードウェアが必要となります。

Scalable Networking Pack の詳細については、マイクロソフト社 ホームページから "KB912222" を検索してご確認ください。

<http://www.microsoft.com/japan>

## □ ネットワークアダプタの TCP/IP Checksum Offload 機能について

オンボード LAN アダプタおよび拡張 LAN ボードは、TCP/IP プロトコルのチェックサム計算を LAN コントローラにて実施する機能をもっていますが、本機能は用いずに OS 側で標準的に備えている TCP/IP のチェックサム計算機能をお使いになることを推奨します。

OS 側で計算するように設定した場合、OS のプロトコル処理の最終段階で、ネットワークから受信したパケットデータの整合性確認が行われることになり、より信頼性の高いシステムを構築いただけます。

LAN コントローラによるチェックサム機能をオフにするには、次の方法で LAN アダプタの設定を変更してください。



制限

デバイスマネージャから各 LAN アダプタのプロパティを開き、[ 詳細設定 ] タブで下記項目の設定を「オフ」にしてください。Intel® PROSet がインストールされている場合は [ 詳細設定 ] タブ-[TCP/IP オフロードオプション]-[ プロパティ ] から、下記項目のチェックボックスをオフにしてください。

設定を変更した後は、システム装置を再起動してください。

- ◆ " 受信 IP チェックサムのオフロード "
- ◆ " 受信 TCP チェックサムのオフロード "
- ◆ " 送信 IP チェックサムのオフロード "
- ◆ " 送信 TCP チェックサムのオフロード "

## □ 起動時のネットワークアダプタ のイベントログについて

システム起動時に、ネットワークアダプタの実際のリンク状態に関わらず、リンクアップイベントが記録されることがあります。

[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタの接続状態をご確認ください。

# Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップ

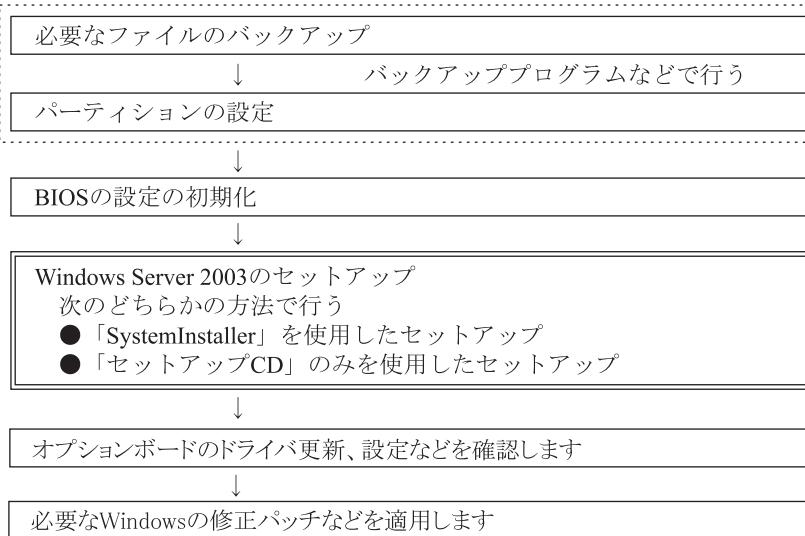
ここでは、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) モデルの初期設定を完了したあとの状態にセットアップし直す手順について説明します。OS なしサーバーブレードに、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) をセットアップするときも同様の手順で行ってください。

...  
補足

本資料で対象とするのは、サーバーブレード内蔵 HDD への Windows セットアップです。

## Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの流れ

[ ] は必要に応じて行います。



## ! 制限

セットアップし直すと、HDD の内容は削除されます。必要なファイルは事前にバックアップをお取りください。

再セットアップするときは「セットアップ時の制限」をご参照ください。

パーティションの設定については Windows Server 2003 R2(32 ビット)の[コンピュータの管理]のオンラインヘルプをご参照ください。

# BIOS の設定を初期化する

## □ BIOS 設定の確認

お使いの装置の構成に応じて、BIOS の設定を見直してください。OS の再セットアップを行う場合は、ハードウェア構成に変更が無ければ特に作業は必要ありません。

BIOS の設定項目詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

## Windows Server 2003 R2 (32 ビット) セットアップの詳細

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) のセットアップは、「『SystemInstaller』を使用したセットアップ」と「『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ」のどちらかの方法で行うことができます。

「『BladeSymphony SP Setup CD』を使用したセットアップ」はインストール時にドライバー FD などの入れ替えが必要はありませんがインストールに時間がかかります。「『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ」はインストール時にドライバー FD の入れ替えが必要ですが、インストールの時間は比較的短くてすみます。用途に応じて選択してください。

…  
補足

標準の CD/DVD ドライブ名は、HDD の次になります。  
あらかじめ、CD/DVD ドライブのドライブ名をご確認ください。

本マニュアルでは、セットアップに使用する CD-ROM を以下の名称で説明します。

省略名称	
「セットアップ CD」	Windows Server 2003 R2 ブレインストールモデル付属の 「サーバインストール CD-ROM Disc 1」
	一般の「Windows Server 2003」CD-ROM
	一般の「Windows Server 2003 R2 Disc 1」CD-ROM
「セットアップ CD 2」	Windows Server 2003 R2 ブレインストールモデル付属の 「サーバインストール CD-ROM Disc 2」
	一般の「Windows Server 2003 R2 Disc 2」CD-ROM

## □ 『SystemInstaller』を使用したセットアップ

ここでは、システム装置に付属している Windows セットアップ支援ソフトウェア『SystemInstaller』を使用したセットアップ方法を説明します。『SystemInstaller』を使用したセットアップでは、ディスクドライバー、LAN ドライバーのインストールが自動的に行われます。



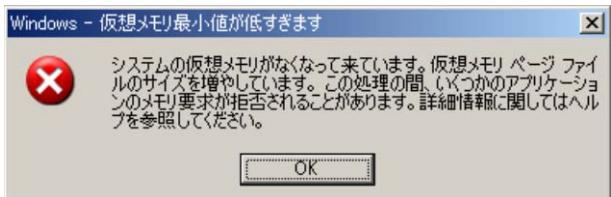
- SystemInstaller でインストールできるのは、日本語版 OS のみです。英語版、他言語版、マルチランゲージ版はインストールできません。
- SystemInstaller の各バージョンで使用できる OS メディアは以下です。  
下記バージョン以降の SystemInstaller で各 OS メディアに対応します。

対応 OS メディア		
Windows Server 2003 R2		
初版	With SP2	
C51A3	03-00	03-00

インストールに使用する OS メディアは、SP2 適用済メディア以降を推奨します。

SP2 が適用されていない OS メディアを使用してインストールできますが、インストール後、必ず SP2 を適用してください。

- SystemInstaller で Windows Server 2003 R2 With SP2 の OS メディアをセットアップに使用する場合、セットアップ中に以下のようなポップアップメッセージが表示される場合がありますが、セットアップに影響はありません。



[OK] をクリックして、セットアップを続行してください。

### セットアップ時の制限

- セットアップ時には、リモートコンソールアプリケーションでサーバーブレードと接続してください。CD-ROM/DVD-ROM ドライブは、サーバーブレード前面の USB ポートに直に接続することを推奨します。
- パーティション (ドライブ) の設定
  - ◆ ブートディスク (LU) のサイズ  
ブレードから見える物理的なディスク (iSCSI ストレージ装置接続環境では LU) サイズは、8GB 以上にしてください。それ以下では SystemInstaller でインストールはできません。

- インストールするパーティション（ドライブ）  
ブートディスクの最初のパーティションにインストールします。インストール先のパーティション内のプログラムやデータはすべて削除されます。
- パーティションのサイズについて  
指定できるパーティションのサイズは、以下の通りです。  
ただし、作成可能なパーティションのサイズはディスクやパーティション構成によって異なります。  
4000MB～最大 250000MB

●  
補足

250000MB を超えるパーティションサイズが必要な場合は、『セットアップ CD』のみを使用してセットアップを行ってください。

→ 『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ P.208

- パーティションのファイルシステムについて  
パーティションのファイルシステムは NTFS になります。
- CD-ROM のイジェクトについて
  - CD/DVD ドライブのイジェクトボタンは、CD-ROM メディア交換時以外に押さないでください。ボタンを押された場合、インストールをやり直す必要があります。

## セットアップ手順

- 1 システム装置の電源を入れたら、すぐに『SystemInstaller』を CD/DVD ドライブに入れる。



!  
制限

本プログラムを実行するとハードディスクの内容が変更されます。  
必要なデータなどがある場合は回復作業を中断して先にバックアップを取ってください。

## 2 [Enter] キーを押す。

[OS 選択] の画面が表示される。



…  
補足

表示される OS の種類は、モデルにより異なります。

## 3 Windows Server 2003、または Windows Server 2003 R2 を選択して、[Enter] キーを押す。

[インストールの方法] の画面が表示される。



## 4 インストール方法を選択し、[Enter] キーを押す。

「1. 新規インストール」を選択した場合、手順 5 へ進む。

「2. 既存のパーティションを残してインストール」を選択した場合、手順 6 へ進む。



「1. 新規インストール」を選択すると、起動するハードディスクの内容はすべて削除されます。

ディスク上に複数のパーティションがある場合、「2. 既存のパーティションを残してインストール」を選択すると最初のパーティション以外を残すことができます。ただし、最初のパーティションの内容はすべて削除されます。



次のような場合は「2. 既存のパーティションを残してインストール」が選択できません。

- ディスク上にパーティションが一つしかない場合
- ディスクの最初のパーティションまたは空き領域に充分なインストール容量が確保できない場合
- パーティションテーブルの記述に誤りがある場合

**5** [新規インストール] の画面が表示されるので、[Y] キーを選択し、[Enter] キーを押す。

手順 7 へ進む。

**6** [確認] または [パーティションの削除] の画面が表示されるので、[Y] キーを選択し [Enter] キーを押す。

手順 7 へ進む。



[確認] 画面は、インストールするハードディスクの最初の領域に 4GB 以上の空きがある場合に表示されます。

[パーティションの削除] 画面は、インストールするハードディスクの最初に 4GB 以上のパーティションがある場合に表示されます。

**7** [パーティションサイズ] の画面が表示されるのでパーティションサイズを入力し、[Enter] キーを押す。

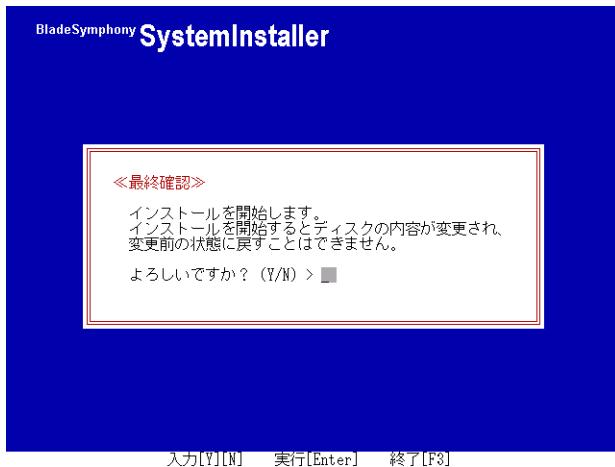
[インストール先指定] の画面が表示される。

**8** インストール先のディレクトリを 11 文字以内で入力し、[Enter] キーを押す。

[インストール確認] の画面が表示される。

**9 設定内容を確認し、[Enter] キーを押す。**

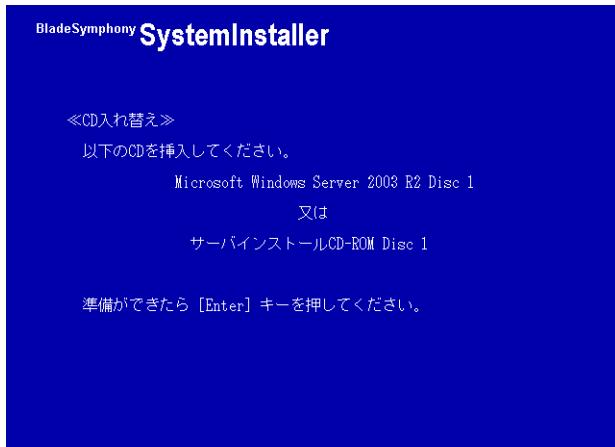
[最終確認] の画面が表示される。



入力[Y][N] 実行[Enter] 終了[F3]

**10 [Y] キーを選択し、[Enter] キーを押す。**

パーティションの作成、ハードウェアの検出が開始され、しばらくすると [CD 入れ替え] の画面が表示される。



続行[Enter] 中止[ESC]

**11 「セットアップ CD」を CD/DVD ドライブに入れ替えて、[Enter] キーを押す。**

ファイルコピーが開始される。

- Windows Server 2003 をインストールする場合

ファイルコピーが完了し、システム装置が再起動する。

しばらくすると [Windows セットアップウィザードの開始] 画面が表示される。  
手順 13 に進む。

- Windows Server 2003 R2 をインストールする場合  
ファイルコピーが完了すると、[CD 入れ替え] の画面が表示される。  
手順 12 に進む。



**12** 「セットアップ CD 2」を CD/DVD ドライブに入れ替えて、[Enter] キーを押す。

「セットアップ CD 2」が確認されると、システム装置が再起動する。

しばらくすると [Windows セットアップウィザードの開始] 画面が表示される。

**13** [次へ] のボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示される



システムが再起動してからライセンス契約画面を過ぎるまでキー  
ボードが使用できません。必ずマウスで操作を行ってください。

**14** [同意します] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

しばらくすると [地域と言語のオプション] 画面が表示される。



Windowsのインストール途中に、[セキュリティの警告 - ドライバー  
のインストール] 画面または [ソフトウェアのインストール] 画面、  
[ハードウェアのインストール] 画面が表示される場合があります。  
[はい] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

**15** 必要に応じてカスタマイズを行い、[次へ] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの個人用設定] 画面が表示される。

**16** 名前を入力する。必要に応じて組織名を入力する。



稀に Enter キーが押されたままの状態となるためにエラーメッセー  
ジが連続表示されることがあります。このような状態になった場合  
は、Enter キーを 1 度押して、状態を回復してください。

**17** [次へ] ボタンをクリックする。

補足

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) は、5 クライアントアクセスライセンスが含まれています。

補足

コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。

コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。

設定したパスワードを忘れてしまうと、次回の立ち上げから Windows にログオンできなくなります。その場合、Windows を再インストールする必要があります。

Administrator のパスワードを設定しないと、警告のポップアップメッセージが表示されます。パスワードの設定をしない場合は [はい] ボタンをクリックして先に進んでください。

**21** 表示されている日付と時刻の確認（必要に応じて変更）を行い、[次へ] ボタンをクリックする。

しばらくすると [ネットワークの設定] 画面が表示される。

**22** [標準設定] か [カスタム設定] のどちらかをチェックして [次へ] ボタンをクリックする。

**23** [カスタム設定] を選択した場合は、[ネットワークコンポーネント] 画面が表示されるので、必要となるコンポーネントをインストールし [次へ] ボタンをクリックする。

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示される。

**24** 使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

以降、インストール処理が行われ、しばらくするとシステム装置が立ち上げ直される。

**25** システム装置が立ち上がったあと、Windows にログオンする。

- Windows Server 2003 をセットアップしている場合  
[SystemInstaller 構成マネージャ] が表示される。  
手順 29 へ進む。

- Windows Server 2003 R2 をセットアップしている場合  
以下の [R2 セットアップ継続] 画面が表示される。



- 26** CD-ROM ドライブに「セットアップ CD 2」が入っているのを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

しばらくするとセットアップが完了し、以下の画面が表示される。



- 27** [OK] ボタンをクリックしログオンが完了したら、スタートメニューから再起動を行う。

●  
補足

セットアップ完了後、再起動をしないと画面の表示などが Windows Server 2003 のままで、Windows Server 2003 R2 と表示されません。

- 28** システム装置が立ち上がった後、Windows にログオンする。

[SystemInstaller 構成マネージャ] が表示される。

- 29** [SystemInstaller 構成マネージャ] から必要となるコンポーネントをインストールする。

詳細については [「SystemInstaller 構成マネージャ」 P.203](#) をご参照ください。

- 30** 追加や変更が必要となるドライバーおよびユーティリティーをインストール後、使用する環境に合わせて設定を行う。

●  
補足

サーバの構成変更（サービスの追加、プロトコルの追加など）を実施すると「Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」の CD-ROM を要求されることがあります。

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) ブレインストールモデルをご購入の場合、システム装置に添付されている「セットアップ CD」をご使用ください。

### SystemInstaller 構成マネージャ

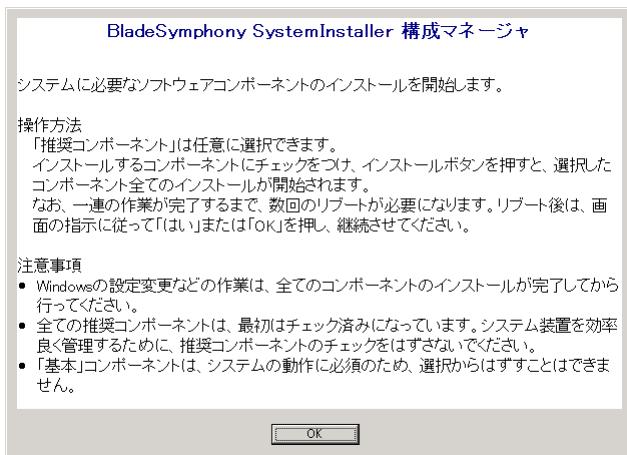
「SystemInstaller 構成マネージャ」（以下 構成マネージャ）は、Administrator 権限でシステムにログオンすると自動的に開始します。構成マネージャを用いると、システム装置の動作に必要なソフトウェアのインストールを簡単に行うことができます。

お客様によるシステムの設定変更や、独自にご用意されたソフトウェアをインストールする前に、構成マネージャによるインストールを完了させてください。

## 起動直後の画面

Windows プレインストールモデルの初期状態と、『SystemInstaller』を用いて Windows の再セットアップを行った直後は、構成マネージャの自動起動が有効になっています。

初めて起動したときは次の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



## SystemInstaller 構成マネージャ操作画面

次に示す画面が構成マネージャの操作画面です。インストール対象のソフトウェアは、「推奨コンポーネント」と「基本コンポーネント」の 2 種類に分けられます。それぞれに表示されるコンポーネント一覧は、搭載されているオプションボードや BIOS の設定により変わります。



「推奨コンポーネント」は、インストールの実行・スキップを選択できます。

「基本コンポーネント」は、システムの動作に必要なため画面上でインストールをスキップすることはできません。

画面上では「推奨コンポーネント」のチェックを操作することでインストールするか、スキップするかを選択できます。ただし、「推奨コンポーネント」はシステムの管理や障害時の対処に役立つため、できるだけチェックをはずさないでください。

「コンポーネントの説明」の欄には、クリックした「推奨コンポーネント」または「基本コンポーネント」の説明が表示されます。

●●●  
補足

プレインストールモデルでは、『SystemInstaller』による再セットアップ時に表示される推奨・基本コンポーネントの一部がインストールされています。

JP1/ServerConductor/Agent を構成マネージャからインストールすると、次のサービスがインストールされます。

- ・エージェントサービス
- ・ローカルコンソールサービス

「アラートアクションサービス」、「リモートコントロールサービス」をインストールする場合は、『JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent』 P.217 を参照してインストールを行ってください。

JP1/ServerConductor/Agent を構成マネージャからインストールすると、ローカルコンソールサービスにログインするための認証パスワードを設定することができません。ローカルコンソールを使用する前に、必ず環境設定ユーティリティを実行してパスワードを設定してください。

JP1/ServerConductor/Advanced Agent は構成マネージャに対応しておりません。インストールする場合は、『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』 CD-ROM の次のファイルをご参照ください。

d:\readme.txt

! 制限

MegaRAID Storage Manager は、管理サーバーブレー  
ドへ必ずインス  
トールしてください。

インストールを行わないとハードディスク障害を検出できず二重障  
害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

## インストールの実行

インストールが必要な「推奨コンポーネント」にチェックをつけて「インストール」ボタンをクリックすると、選択されたソフトウェアの一連のインストールが始まります。メッセージが表示されたら [はい] または [OK] ボタンをクリックして処理を進めてください。

以下の例では、Intel(R) PROSet のインストールの流れを示します。



各コンポーネントのインストール時に、CD-ROM のセットが必要になったら次のようなメッセージが表示されます。

メッセージに従って必要な CD-ROM をセットして、[OK] ボタンをクリックしてください。



CD-ROM をセットした際、次のような画面が表示される場合があります。キャンセルボタンを押してください。



正しく CD-ROM をセットするとソフトウェアのインストールが開始され、次のようなメッセージが表示されます。



インストールしたソフトウェアによっては、インストール後にシステムの再起動が必要になります。次のようなメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックしてください。システムが再起動します。

他のアプリケーションを操作中の場合は、[OK] ボタンをクリックする前にそれらのアプリケーションを終了させてください。



選択したソフトウェアのインストールがすべて完了していない場合は、システムの再起動後にインストール作業が継続して行われます。

## インストールが終了したとき

選択したソフトウェアのインストールがすべて終了すると、次のような画面になります。



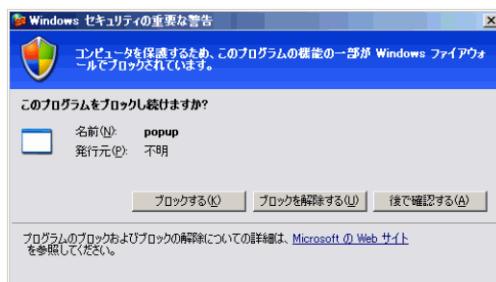
「推奨コンポーネント」のチェックはすべて外れた状態になり、「次回ログオン時にこの画面を出さない」のチェックが自動で付けられます。ここで、はじめて「次回ログオン時にこの画面を出さない」のチェックが付けられるようになります。

この状態で「終了」ボタンをクリックすると、構成マネージャは次回から自動起動しなくなります。

以上で、構成マネージャによるソフトウェアのインストール作業は完了です。



構成マネージャからMegaRAID Storage Managerをインストール中、以下のようなポップアップメッセージが表示される場合があります。



[後で確認する] を選択し、セットアップを続行してください。

補足

すべての対象コンポーネントのインストールが完了しない状態で[終了]ボタンをクリックすると、次の確認メッセージが表示されます。



ここで[はい]をクリックしても、構成マネージャは次回ログオン時に自動起動します。

[はい]をクリックする場合は、手動で基本コンポーネント・推奨コンポーネントをインストールする場合のみにしてください。

## サービスパック 2(SP2)

Windows Server 2003 SP2 の動作確認状況については、以下の web サイトをご確認ください。

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/techinfo/wsv/servicepack/wsvsp2-old.html>

[サポート] の "Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 関連情報"

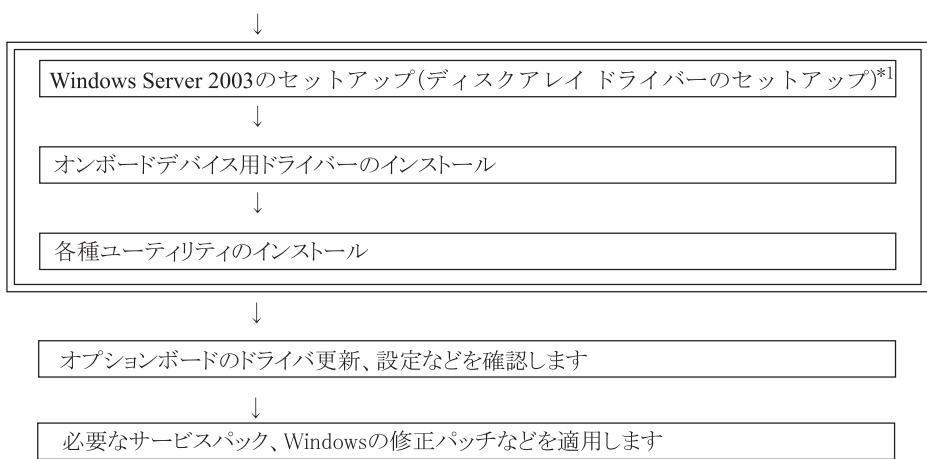
SP2 を適用するための前提ドライバや、SP2 適用後に必要な修正モジュール等、注意事項がありますので、上記 web サイトを確認の上、SP2 を適用してください。

### □ 『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ

ここでは、Windows Server 2003 R2 (32 ビット) の『セットアップ CD』のみを使用したセットアップ方法を説明します。

『セットアップ CD』のみを使用したセットアップでは、『SystemInstaller』を使用したセットアップと比べて、以下の手順を個々に行う必要があります。

セットアップの全体の流れは [「Windows Server 2003 R2 \(32 ビット\) セットアップの流れ」P.194](#) をご参照ください。



\*1 Windows をインストールする HDD の接続デバイスの種類によって必要となります。

●  
補足

『セットアップ CD』を使用したセットアップの場合、Windows のブートデバイス用ドライバーをインストールするため、FD ドライブを使用する必要があります。CD-ROM ドライブと FD ドライブを同時に使用する必要があるため、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD 機能を使用してください。

SystemInstaller を使用したインストールでは FD ドライブは必要ありません。インストールを行う場合は SystemInstaller を使用することを推奨いたします。

## セットアップ時の制限

### ■ パーティション (ドライブ) の設定

インストールするパーティション (ドライブ)

HDD の最初のパーティションにインストールしてください。

### ■ Windows Server 2003 セットアップ時に報告されている現象

Windows Server 2003 の OS メディアを使用してのインストール時、Microsoft 社より以下の現象が報告されております。詳細は、以下の web サイトで KB( 番号 ) を検索してください。

Windows のインストールを行う場合は、SystemInstaller でのインストールを強く推奨します。

<http://support.microsoft.com/>

KB827052 Universal serial bus (USB) input devices may not work when unsigned drivers are being installed during Windows Setup

⇒ USB 接続のマウス・キーボードがセットアップ中動作しない場合があります。セットアップが終了すれば問題ありません。

### ■ リモートコンソールアプリケーションのリモート FD について

リモートコンソールアプリケーションのリモート FD をを使った場合、Windows セットアップ時にドライバ FD を認識させることはできません。FD を使用する場合は、USB FD ドライブをサーバーブレード前面の USB ポートに接続してください。

Windows のインストールを行う場合は、SystemInstaller でのインストールを強く推奨します。

## セットアップ手順

### 1 インストール作業の前に、別な作業用 PC でブートデバイス用ドライバー FD を用意する

システムインストーラ内の下記ファイルを実行

¥C51x3¥A¥WIN2003¥RAID¥MKFD.BAT

### 2 システム装置の電源を入れたら、すぐに「セットアップ CD」または『「Microsoft(R) Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」CD-ROM』を CD/DVD ドライブに入れる。

●  
補足

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) ブレインストールモデルをご購入の場合、システム装置に付属している『サーバインストール CD-ROM』を CD/DVD ドライブに入れてください。



**3** 画面に「Press any key to boot from CD」が表示された場合、すぐに任意のキーを押す。

キーを押すタイミングが遅いと、CD-ROM から立ち上がらずに、すでにインストール済みの OS が立ち上がります。その場合は手順 1 からやり直してください。

**4** 画面下部に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」と表示されたら、

- 手順 1 でドライバー FD を作成した場合は [F5] キーと [F6] キーを押す
- それ以外は [F5] キーを押す

ファイルが読み込まれると、各種のコンピューター一覧が表示される。

Windows Setup

Setup could not determine the type of computer you have, or you have chosen to manually specify the computer type.

Select the computer type from the following list, or select "Other" if you have a device support disk provided by your computer manufacturer.

To scroll through the menu items press up arrow or down arrow.

- ACPI Multiprocessor PC
- ACPI Uniprocessor PC
- Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) PC
- MPS Uniprocessor PC
- MPS Multiprocessor PC
- Standard PC
- Other

Enter=Select F3=Exit

**5** [↑]、[↓] キーを使って一覧から「ACPI Multiprocessor PC」を選択し、[Enter] キーを押す。

手順 1 でドライバー FD を作成しなかった場合は手順 11 へ進む。

**6** しばらくして次の画面が表示されるので、[S] キーを押す。

Windows Setup

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

<none>

\* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows, including those for which you have a device support disk from a mass storage device manufacturer, press S.

\* If you do not have any device support disks from a mass storage device manufacturer, or do not want to specify additional mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device Enter=Continue F3=Exit

**7** ドライバー FD をドライブ A(USB FD ドライブ)に入れ、[Enter] キーを押す。

**8** 次のドライバー名称を選び、[Enter] キーを押す。

LSI MegaRAID Software RAID (Windows XP/2003)

または

LSI Logic Embedded MegaRAID (Windows XP/2003)

※ドライバのバージョンにより名称が異なります。

**9** 下記の画面が表示されたら、[S] キーを押す。

Windows Setup

The driver you provided seems to be older than the Windows default driver.

Windows already has a driver that you can use for "XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX".

Unless the device manufacturer prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

S=Use the driver on floppy Enter=Use the default Windows driver

**10** 手順 6 の画面へ戻るので [Enter] キーを押す。

**11** しばらくして [セットアップの開始] が表示されたら、[Enter] キーを押す。

[Windows ライセンス契約] が表示される。

**12** 内容を確認し、[F8] キーを押す。

次の画面が表示された場合は、[Esc] キーを押す。

Windows Server 2003, Standard Edition セットアップ

次のインストール済みのWindowsの1つが壊れている場合は、修復を試行できます。

上下の方向キーを使って、1つを選択してください。

- 選択したWindowsを修復するには、Rキーを押してください。
- 修復しないで別の新しいWindowsのインストールを続行するには、Escキーを押してください。

C:\WINDOWS "Windows Server 2003, Standard Edition"

F3=終了 R=修復 Esc=修復しない

**13** 使用するキーボードの選択画面が表示される。

Windows Server 2003, Standard Edition セットアップ

以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。

半角/全角キー : 106日本語キーボードの場合  
スペースキー : 101英語キーボードの場合  
'S'キー : その他のキーボードの場合

- セットアップを終了するには、F3キーを押してください。

**14** [半角 / 全角] キーを押す。

キーボード選択確認画面が表示される。

**15** 「106 Japanese Keyboard (Including USB)」が選択されていることを確認して [Y] キーを押す。

インストールするパーティションの選択画面が表示される。

**16** 画面に従い、インストールするパーティションの設定を行う。

ファイルのコピーが開始され、完了するとシステム装置が立ち上げ直される。

…  
補足

FATフォーマットを2047MBを超えるサイズで作成した場合は、パーティションの構成がFAT32になります。

**17** ドライバーFDがドライブAに挿入されている場合は、ドライバーFDを取り出す。

Windowsのインストールが続行され、しばらくすると【地域と言語のオプション】が表示される。

…  
補足

Windowsのインストール途中に、【セキュリティの警告 - ドライバーのインストール】画面または【ソフトウェアのインストール】画面、【ハードウェアのインストール】画面が表示される場合があります。  
[はい] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

**18** 必要に応じてカスタマイズを行い、[次へ] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの個人用設定] が表示される。

**19** 名前を入力する。必要に応じて組織名を入力する。**20** [次へ] ボタンをクリックする。**21** [プロダクトキー] 画面が表示された場合、Windowsプレインストールモデルの場合はシステム装置に貼られている「Certificate of Authenticity シール」に記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ] ボタンをクリックする。それ以外は、Windows Server 2003 R2(32ビット)購入時のプロダクトキーを使用してください。

[ライセンスモード] が表示される。

•••  
補足

システム装置に貼られている個所が見えない場合、本書にコピーが貼られています。こちらでご確認ください。

**22** 使用するライセンスモードを選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] が表示される。

•••  
補足

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) プラインストールモデルでは、5 クライアントアクセスライセンスが含まれています。

**23** コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する。[次へ] ボタンをクリックする。

[日付と時刻の設定] が表示される。

•••  
補足

コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。

コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。

設定したパスワードを忘れてしまうと次回の立ち上げから Windows にログオンできなくなります。その場合、Windows を再インストールする必要があります。

Administrator のパスワードを設定していないと、警告のポップアップメッセージが表示されます。パスワードの設定をしない場合は [はい] ボタンをクリックして先へ進んでください。

**24** 表示されている日付と時刻の確認（必要に応じて変更）を行い、[次へ] ボタンをクリックする。

以降、インストール処理が行われ、最後にシステム装置が立ち上げ直される。

**25** システム装置が立ち上がったあと、Windows にログオンする。

- Windows Server 2003 をセットアップしている場合  
[サーバーの役割管理] が表示される。  
手順 29 へ進む。
- Windows Server 2003 R2 をセットアップしている場合  
以下の画面が表示される。



**26** 「セットアップ CD 2」を CD-ROM ドライブにいれ、[OK] を押す。

- [Windows Server 2003 R2 セットアップウィザード] が表示される。

**27** ウィザードに従い、セットアップを行う。

**28** セットアップ完了後、サーバの再起動を行う。

...  
補足

セットアップ完了後、再起動をしないと画面の表示などが Windows Server 2003 のままで、Windows Server 2003 R2 と表示されません。

...  
補足

**29** 追加や変更が必要となるドライバーおよびユーティリティーをインストール後、使

用する環境に合わせて設定を行う。

サーバの構成変更（サービスの追加、プロトコルの追加など）を実施すると「Windows Server 2003 R2 (32 ビット)」の CD-ROM を要求されることがあります。

Windows Server 2003 R2 (32 ビット) ブレインストールモデルをご購入の場合、システム装置に添付されている「セットアップ CD」をご使用ください。

## レジストリの更新

CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れ、以下のバッチを実行してください。  
(d: は CD/DVD ドライブ名とします。)

- ブレードのダンプボタンを有効にします。

d:¥utility¥dump¥NMID.bat

- PCI ドライバの設定を行います。

d:¥utility¥pci¥avoidD3.bat

設定した項目を有効にするため、バッチ実行後に OS の再起動を行ってください。

## チップセットドライバー

「セットアップ CD」のみでセットアップを行った場合、次の手順でチップセットドライバーをインストールしてください。

**1** システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。

**2** CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れる。

**3** [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

**4** 次のように入力して [OK] ボタンをクリックする。

d:¥C51x3¥WIN2003¥CHIPSET¥infinst\_autol.exe

\*d は CD/DVD ドライブ名

[セットアップ] 画面が表示される。

**5** [次へ] ボタンをクリックする。

[使用許諾契約書] が表示される。

**6** 使用許諾の内容を読み、[はい] ボタンをクリックする。

以下画面に従い、セットアップを続行してください。

最後に [InstallShield(R) ウィザードが完了しました。] が表示されます。

**7** CD-ROM をドライブから取り出し、[コンピュータを後で再起動する。] を選び [完了] ボタンをクリックする。

**8** スタートメニューから、"シャットダウン" を選び、Windows をシャットダウンする。

## LAN ドライバー

「セットアップ CD」のみでセットアップを行った場合、次の手順で LAN ドライバーをインストールしてください。なお、増設 LAN ボードのドライバーについては増設 LAN ボードのマニュアルをご参照ください。

**1** システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。

**2** CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れる。

**3** [スタート] - [コントロールパネル] - [システム] を選ぶ。

[システムのプロパティ] が表示される。

**4** [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] が表示される。

**5** ドライバーを更新していない LAN デバイスを右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

**6** “ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか？”と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**7** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

**8** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

d:\¥C51x3¥A¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

### 補足

■ ドライバインストール中「ハードウェアのインストール」画面が表示される場合があります。「続行」ボタンをクリックしてインストールを続行してください。

■ SP2がインストールされている環境では「サービスパック2(SP2)」[P.220](#) を参照し、"SNP 無効化ツール" を必ず実行してください。

**9** [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

**10** LAN ドライバーの更新をしていないネットワークアダプタが残っている場合は 6 ~ 9 をネットワークアダプタごとに繰り返す。

- 11** [その他のデバイス] – [基本システムデバイス] を右クリックし、[ドライバーの更新] をクリックする。

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

- 12** "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今回は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

- 13** [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

- 14** [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。

d:¥C51x3¥A¥WIN2003¥LAN

\* d は CD/DVD ドライブ名

ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

- 15** [完了] ボタンをクリックする。

[デバイスマネージャ] に戻る。

- 16** システム装置を再起動する。

…  
補足

- ドライバーのセットアップ時、「このハードウェアを開始できません」と表示される場合がありますが、システム装置を再起動することにより正常に動作します。[デバイスマネージャ] で、デバイスが正常に動作していることをご確認ください。
- 毎回のシステム起動時にネットワークアダプタでエラーイベントログが発生することがあります。ネットワークアダプタがリンクダウンしている可能性があります。[ネットワーク接続] で、対象のネットワークアダプタが接続されていることをご確認ください。Intel(R)PROSet をインストールしている場合は、[デバイスマネージャ] で対象のネットワークアダプタを右クリックして、メニューから「プロパティ」をクリックし、[リンク速度] タブ (Intel(R)PROSet のバージョンにより [リンク] タブとして表示されることがあります) の「リンクのステータス」の状態から確認することもできます。

!  
制限

オンボード LAN デバイスの回線速度は変更できません。

…  
補足

リンクアップ時、ネットワークのプロパティやタスクトレイのネットワーク状態がすぐに更新されない場合があります。状態を確認するためには、ネットワークのプロパティにて、[表示] - [最新の情報に更新] を選択してネットワーク状態の更新を行ってください。



/3GB スイッチを使用しているままではドライバのインストールはできません。/3GB スイッチを使用しない状態で Windows を起動してからドライバのインストールを行ってください。

- 1 システム装置の電源を入れ、Windows を立ち上げ、「Administrator」でログオンする。
- 2 CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れる。
- 3 [スタート] – [コントロールパネル] – [システム] を選ぶ。  
[システムのプロパティ] が表示される。
- 4 [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。  
[デバイスマネージャ] が表示される。
- 5 "標準 VGA デバイス" を右クリックし、[ドライバの更新] をクリックする。  
[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。
- 6 "ソフトウェア検索のため、Windows Update に接続しますか?" と聞かれた場合は、[いいえ、今日は接続しません] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 7 [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
- 8 [次の場所を含める] を選択し、次のように入力して [次へ] ボタンをクリックする。  
d:\¥C51x3¥A¥WIN2003¥SVGA  
\* d は CD/DVD ドライブ名  
ファイルのコピーが開始され、終了すると [ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。
- 9 [完了] ボタンをクリックする。  
[デバイスマネージャ] に戻る。

JP1/ServerConductor/Agent,  
JP1/ServerConductor/Advanced Agent

JP1/ServerConductor/Agent は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。また JP1/ServerConductor/Advanced Agent は、電源制御など JP1/ServerConductor/Agent の拡張機能を使用するためのソフトウェアです。システム装置に添付されている、『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM からインストールを行ってください。インストール手順の詳細については『JP1/ServerConductor for Windows Agent Advanced Agent』CD-ROM の次のファイルをご参照ください。

d:\¥readme.txt

## MegaRAID Storage Manager

ディスクアレイ装置を管理するために必要なソフトウェアです。サーバブレード内の HDD を RAID 構成で使用する場合は必ずインストールしてください。

インストールを行わないとハードディスク障害を検知できず二重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

インストールの詳細は、『SystemInstaller』CD-ROM の次のファイル『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』をご参照ください。

D:\MANUAL\MSManager.pdf



MegaRAID Storage Manager は管理サーバブレードへ必ずインストールしてください。

## Intel(R) PROSet のインストール

- 1 システム装置の電源を入れ、Windowsを立ち上げ、「Administrator」でログオンします。
- 2 CD/DVD ドライブにシステム装置添付の『BladeSymphony SP Setup CD』CD-ROM を入れます。
- 3 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 4 以下のファイルを指定して [OK] ボタンをクリックします。  
D:\OPTION\TOOLS\WIN2003\INTELLANY\APPS\PROSETDX\WIN32\DXSetup.EXE
- 5 セットアッププログラムが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6** 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認し「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックをして、[次へ] ボタンをクリックします。



- 7** セットアップオプションが表示されますので、「インテル(R) PROSet for Windows\* デバイスマネージャ」と「Advanced Network Services」にチェックが入っていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



「インテル(R) ネットワーク・コネクション SNMP エージェント」にはチェックを入れないでください。

- 8** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されますので、[インストール] ボタンをクリックします。
- 9** 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されますので、[完了] ボタンをクリックし、システム装置を再起動します。



Intel(R) PROSet のインストール後、[WMI] の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります。問題ありません。

## サービスパック 2(SP2)

Windows Server 2003 SP2 の動作確認状況については、以下の web サイトをご確認ください。

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/techinfo/wsv/servicepack/wsvsp2-old.html>

[ サポート ] の "Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 関連情報 "

SP2 を適用するための前提ドライバや、SP2 適用後に必要な修正モジュール等、注意事項がありますので、上記 web サイトを確認の上、SP2 を適用してください。

### ■ SP2 適用時のネットワークに関する注意事項

SP2 インストール後、稀に TCP レイヤの通信プロトコルを使った通信ができないことが確認されています。詳細はマイクロソフト社 KB936594 (<http://support.microsoft.com/kb/936594/ja>) で公開されています。

サービスパック 2 適用後、CD/DVD ドライブに『SystemInstaller』を入れ、以下の手順を実施してください。

#### 1 "SNP 無効化ツール" を実行する。

d:\¥OPTION¥TOOLS¥LANREG¥SNPDIS.bat

\*d: は CD/DVD ドライブ名

### 補足

SystemInstaller 内にバッチが存在しない場合、以下の web サイトからも入手可能です。

「Windows Server(R) 2003 Service Pack2 ネットワークに関する使用上の注意事項」

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/techinfo/wsv/servicepack/info080115.html>

[ 対策方法について ] を参照してください。

#### 2 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の各 LAN コントローラのプロパティを開く。

「詳細設定」タブ内に [ 受信側スケーリング ] が存在する場合、[ 受信側スケーリング ] が "オフ" であることを確認してください。

### 補足

LAN コントローラによっては [ 受信側スケーリング ] が表示されません。表示されない場合は設定する必要はありません。

#### 3 設定完了後、サーバの再起動を行う。

# 5

## 付録

---

索引 ..... 222

# 索引

## ■ B

BIOS の設定を初期化する 195

基本操作／設定変更方法 63, 179

セットアップの詳細 80, 195

Windows Server 2008 1, 129

基本操作／設定変更方法 8, 136

Windows のシャットダウン 67, 184

WOL(Wake On Lan) 機能 72, 189

## ■ J

JP1/ServerConductor 55, 170

## ■ あ

JP1/ServerConductor/Advanced Agent 65, 181

安全に関する注意事項 ix

JP1/ServerConductor/Agent 65, 181

JP1/ServerConductor/Agent, JP1/ServerConductor/Advanced Agent 10, 138

## ■ い

イベントビューア 70, 188

インターネットエクスプローラ使用上の制限 69, 186

## ■ L

LAN ドライバ 38, 166

## ■ か

## ■ M

「仮想メモリ」サイズの設定 70, 187

MegaRAID Storage Manager 138, 168, 181

画面アイコン 63, 179

## ■ O

画面のプロパティ 64, 180

OS 修正モジュール 3, 59, 131, 175

画面表示 69, 186

OS 修正モジュールのバックアップ(Windows インストール済みモデルのみ) 4

完全メモリダンプの採取方法 69, 186

OS 修正モジュールのバックアップ(Windows プレイインストールモデルのみ) 175

## ■ こ

OS インストールメディア 75, 192

コントロール パネル 63, 179

OS のセットアップ 26, 153

## ■ し

## ■ P

システムアイコン 63, 179

PAE 16, 144

システムが停止したときの回復動作の設定 69, 186

## ■ S

シャットダウン 60, 176

SAN 記憶域マネージャの制限 75, 192

使用許諾契約 58, 172

Scalable Networking Pack (KB912222) について 192

使用上の制限 66, 183

『SystemInstaller』によるセットアップ 33, 162

## ■ せ

## ■ U

節電機能 69, 186

USB フロッピードライブの使用 72, 189

セットアップ時の制限 26, 153

## ■ W

Windows 2003 81, 196, 209

Windows Server 2003/R2 (32 ビット)

## ■ そ

ソフトウェアの使用について 11, 140

## ■ た

タスクの終了 [7, 62, 135, 178](#)

立ち上げ直す [7, 62, 135, 178](#)

## ■ て

ディスクの管理 [68, 185](#)

デバイスマネージャ [70, 187](#)

電源 [58, 172](#)

電源を入れる [4, 58, 61, 132, 172, 177](#)

電源を切る [4, 60, 132, 176](#)

## ■ ね

ネットワークアダプタの [75](#)

## ■ は

ハードウェア保守エージェント [10, 56, 138, 170](#)

バックアップ [68, 185](#)

版権 [iii](#)

## ■ ひ

表記 [iv](#)

## ■ ふ

フォールトトレラント [185](#)

プログラムの追加と削除アイコン [63, 179](#)

## ■ へ

ヘルプ [64, 180, 8, 136](#)

## ■ ま

マニュアルの表記

オペレーティングシステムの略称 [iv](#)

## ■ り

リセット [7, 62, 135, 178](#)

リムーバブルディスクの使用 [68, 185](#)

## ■ ろ

ローカル エリア接続について [73, 191](#)



## ソフトウェアガイド

第4版 2009年1月

株式会社 日立製作所  
エンタープライズサーバ事業部  
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

無断転載を禁止します。

<http://www.hitachi.co.jp>